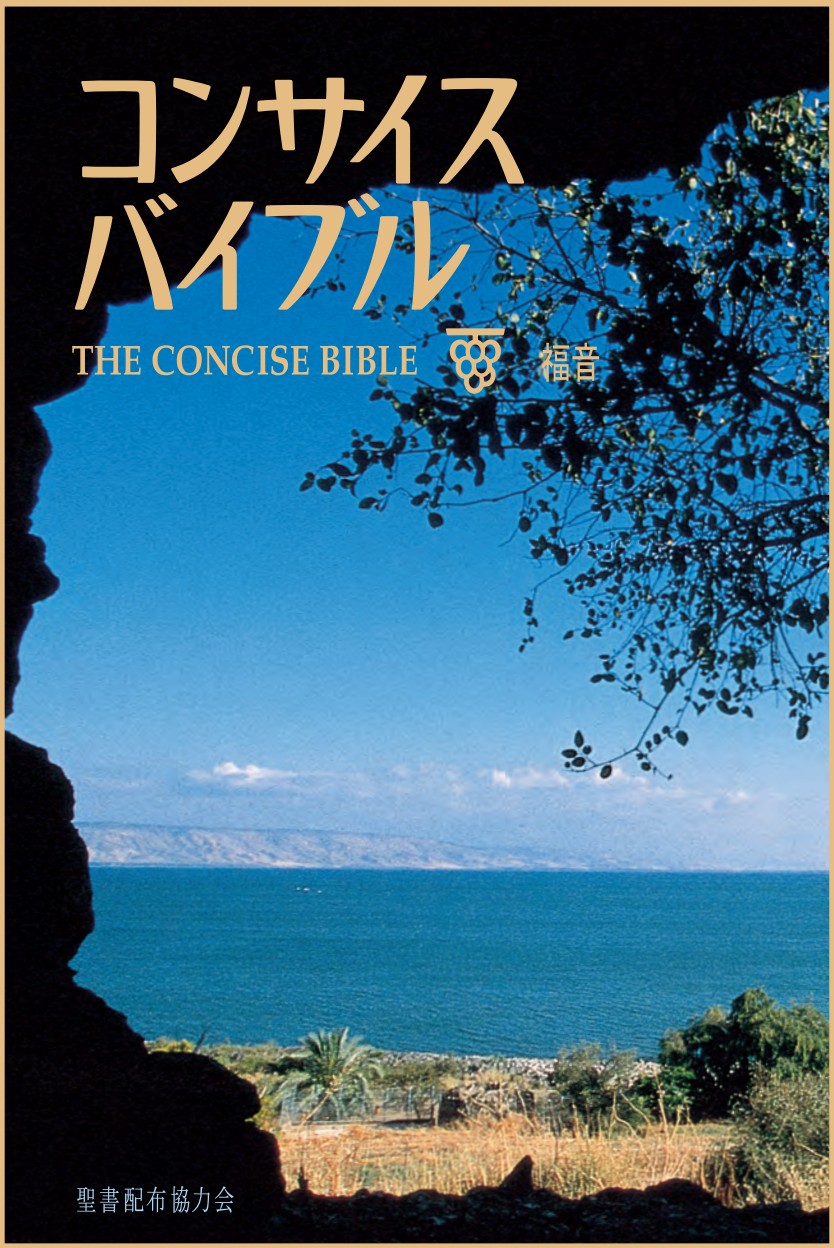
コンサイス バイブル

THE CONCISE BIBLE 福音



聖書配布協力会

THE CONCISE BIBLE

コンサイス バイブル

福音

神のことば　すべての人に

聖書配布協力会

「私が道であり、真理であり、
いのちなのです。」　イエス・キリスト

ヨハネによる福音書14章６節

オリーブ山のふもとから見たエルサレムの城壁。

まえがき

本書「コンサイス・バイブル　福音」は、すべて聖書から抜粋したもので、聖書のことばそのものです。おもに、まだ聖書を読んだことのない方のために、あるいは、キリストへの信仰の要点を知りたい方のために読み易くまとめたものです。

聖書全体は、イエス・キリストと、神の新しい御国の奥義を中心としています。それを悟り、理解するために、子どものように素直な心で読んでください。隠された宝を探し求めるような気持ちで神のことばを読めば、「あなたは、だれにも教えられる必要はない。」と書いてある聖書のことばが、必ずあなたの上に実現するでしょう。

なお、本書を読み終えたあと、ぜひ聖書そのものを、お読みください。

「聖書は救われるための知恵を、
私たちに与える書物である。
そのすべては神の霊感によって書かれ、
私たちに、真理を教え、また悪を示し、
私たちを正し、義の道に導くために役立つ。」

テモテへの手紙第Ⅱ　三・十六

目次

第一章　天地万物の創造

天地創造……一
種類に従って……二
種の起源……三
はじめの人……四
エデンの園……六
悪魔の誘惑……七
罪と死に呪われて……八

第二章　すべてを滅ぼす

ノアと箱船……一三
大洪水……一五
神の祝福……一八

第三章　新しい約束

なぜ悪を続けるのか……二二
悪者の災い……二五
永遠なる神……二九
無力な偶像……三一
神の慰め……三四
よみがえりの朝……三七

第四章　メシアの前ぶれ

「インマヌエル」……四四
公平なさばき主……四六
世の罪を担うメシア……四八
メシアのよみがえり……五〇
神の救い……五三
世の終わりのさばき……五五
ダリヨス王のことば……五七
平和の王国……五八
メシアはダビデの家系から……六〇
主の来臨の日……六三

第五章　救い主、イエス

神が人となった……六九
ヨセフとマリヤ……七〇
イエスの誕生……七二
羊飼いと天使……七三

東方の学者たち……七四
エジプトへ避難……七六
ヘロデ、子どもを
　皆殺しにする……七七
エジプトから帰国……七七
神殿での少年イエス……七八
洗礼者ヨハネ……七九
イエス、洗礼を受ける……八一
試練を受ける……八一
神の小羊……八三
ピリポとナタナエル……八四
弟子になった四人の漁師……八五
伝道、病気を治す……八六
幸いな人……八七
哀れな人……八八
愛と憐れみ……八九
地の塩、世の光……九〇
神は心を見る……九一
祈るときには……九二
天に宝を……九四
神の国を求めよ……九四
狭い門より入りなさい……九六
にせ者に用心しなさい……九七
にせ信者……九七
実行しなさい……九八

第六章　力ある教え、奇跡

罪を赦す権威……一〇一
私の母、私の兄弟……一〇三
嵐を静める……一〇四
湖畔でのいやし……一〇五
信仰でいやされた婦人……一〇六
ヤイロの娘、生き返る……一〇七
天の国と地獄……一〇八
金持ちの議員……一一一
福音のために
　すべてを捨てる人……一一二
イエス、自分の死と
　復活を予告する……一一三
十二弟子の派遣……一一四
人を恐れるな……一一四
平和ではなく剣を……一一六
受け入れる人の報い……一一六
自分のいのちを失う……一一七
子どもと神の国……一一八
盲人バルテマイ……一一九
イエスとニコデモ……一二〇
神は世を愛された……一二一

御子は天から来た方……一二二

第七章　拒否される

人々の言伝え……一二五
人を汚すもの……一二六
「先生」と呼ばれるな……一二七
宗教の指導者たちを批判……一二八
イエスに対するたくらみ……一三〇
金持ちと貧しい人……一三二
パリサイ派の人と
　取税人のたとえ……一三四
子どものようにへりくだれ……一三五
イエスの兄弟たちの不信仰……一三六
仮庵祭でのイエス……一三七
私の教えは
　自分のものではない……一三八
この人はメシアか……一三九
指導者たちの不信仰……一四〇
世の終わりのしるし……一四一
大きな苦難……一四三
人の子の再臨……一四四
すべての民族をさばく……一四五
ベタニアのラザロの死……一四七
イエス、涙を流す……一四八
イエス、ラザロを
　生き返らせる……一五〇
イエスを殺す計画……一五一
エルサレムに迎えられる……一五二
ユダ、イエスを裏切る……一五四
イエスを信じない者たち……一五四

第八章　人類の罪を背負って

最後の晩餐……一五七
道、真理、いのち……一五九
聖霊を与える約束……一六〇
世の憎しみと迫害……一六一
ペテロのつまずきを預言……一六二
捕　縛……一六三
最高議会の審問……一六五
ペテロの否定……一六六
ピラトの審問……一六七
ピラトの努力……一六九
死　刑……一七一
十字架……一七二
ひとりの犯罪人……一七三
死……一七四
埋　葬……一七五
番　兵……一七六

第九章　よみがえり
復活の朝……一七九
婦人たちへの出現……一八〇
番兵と祭司長たち……一八一
エマオへの道……一八二
弟子たちへの出現……一八四
全世界へ出て行きなさい……一八五
幸いなのは見ずに信じる人…一八六
昇　天……一八七
第十章　時は迫っている
時は迫っている……一九二
人の子の出現……一九三
勝利を得る者には……一九四
天の王座……一九六
天変地異……一九七
白い衣を着た大群衆……一九八
天使のラッパ……一九九
第五のラッパ……二〇一
第六のラッパ……二〇二
第七のラッパ……二〇三
最後のさばき……二〇五
すべてを新たに……二〇六
新しいエルサレム……二〇七
いのちの川……二〇八
時は近い……二〇九
主イエスよ、来てください…二一〇
第十一章　世の終わり、希望
終わりの時代……二一四
主の日は突然来る……二一五
永遠への希望……二一六
神の報い……二一七
にせキリストの出現……二一八
新しいからだでよみがえる…二二〇
ある人は死なない……二二一
にせキリスト信者の出現……二二三
終わりの時代の人々の有様…二二四
耐え忍びなさい……二二五
第十二章　キリストの救い
福音の力……二二七
罪の根源……二二九
人の罪……二三〇
神を甘くみるな……二三一
正しい人はいない……二三二
信仰による義……二三三

神の恩恵……二三四
欲を捨てなさい……二三五
聖霊の導き……二三六
希　望……二三八
将来の栄光……二三九
神の愛の絶対……二三九

第十三章　主イエスを信じる者へ

真の礼拝……二四三
善を行いなさい……二四四
悪に勝ちなさい……二四四
キリストはすべての上……二四五
キリストの模範……二四六
「古い自分」を捨てなさい……二四七
新たな人、家庭……二四八
見えないものが永遠……二四九
天の国へのあこがれ……二五〇
信仰に生きる……二五一
キリストのために生きる……二五二
信者はキリストの使者……二五二

第十四章　愛

イエスのことば……二五五
愛……二五六
愛は永遠に……二五八
愛は神から来る……二五九
恐れることはない……二六〇
キリスト、神の愛……二六一
この世を愛するな……二六二
この世に打ち勝つ……二六三

第十五章　知恵の泉

第十六章　詩と祈り

人の道……二八七
神を思う……二八九
神のわざ、神のことば……二九二
私の牧者……二九四
悔い改めの祈り……二九六
あけぼのの賛歌……二九九
御ことばを慕う……三〇二
若い人の祈り……三〇四
全知全能の神……三〇五
王なる神への賛美……三一〇

聖書について……三一四
聖書との対照……三一六
新約聖書関係地図……三二〇

天にあるものも、地にあるものも･･･万物はすべてキリストによって造られた。

コロサイの信者への手紙　1：16

アンドロメダ星雲

第一章　天地万物の創造

天地創造

はじめに、神は天と地とを創造された。
地は形なく、混沌としていて、闇で覆われ、神の霊が水の上を動いていた。神は言われた。
「光あれ。」
すると、光があった。神は光を見て、良しとされた。そして光と闇を分け、光を「昼」と名づけ、闇を「夜」と名づけられた。夕となり、朝がきた。第一日である。
神は言われた。

「空間よ。水の中にあれ。水と水を分けよ。」
神は空間を造り、その下とその上とに水を分けられた。そのようになった。神は空間を「空」と名づけられた。夕となり、朝がきた。第二日である。
神は言われた。
「空の下の水は一つ所に集まれ。乾いた地が現れよ。」
すると、そのようになった。神は乾いた地を「陸」と名づけ、水の集まった所を「海」と名づけられた。神はこれを見て、良しとされた。

種類にしたがって

神は言われた。
「地は植物を生えさせよ。その種類にしたがって種のある草と、種のある実をつける木とを、地に生えさせよ。」
すると、そのようになった。
地は植物を生えさせ、その種類にしたがって種のある草と、その種類

にしたがって種のある実をつける木を生えさせた。神はこれを見て、良しとされた。夕となり、朝がきた。第三日である。

神は言われた。

「天に光る物体があって、昼と夜を分けよ。日や年の区切り、季節のしるしとなれ。天に光る物体があって、地を照らせ。」

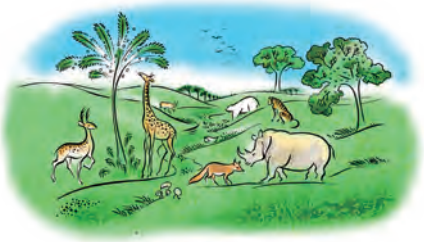
すると、そのようになった。神は二つの大きな光る物を造り、大きな方に昼を支配させ、小さな方に夜を支配させられた。また星々も造られた。神はそれらを天に置き、地を照らさせ、また、昼と夜を支配させ、光と闇を区別させられた。神はこれを見て、良しとされた。夕となり、朝がきた。第四日である。

種の起源

神は言われた。

「水が生き物の群れで満ち、鳥は地の上、空を飛べ。」

神は大きな巨獣、水に群がる生き物をその種類にしたがって、また、



すべての鳥をその種類にしたがって創造された。神はこれを見て、良しとされた。そしてそれらを祝福して言われた。

「生めよ、増えよ、海に満ちよ。鳥は地に増えよ。」

夕となり、朝がきた。第五日である。

神は言われた。

「地は、その種類にしたがって生き物を生ぜよ。家畜、這うもの、地の獣をその種類にしたがって生ぜよ。」

すると、そのようになった。神は地の獣、家畜、地を這うものをその種類にしたがって創造された。神はこれを見て、良しとされた。

はじめの人

神は言われた。

「我々に似るように、我々にかたどって、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべての生き物を支配させよう。」

神はご自分にかたどって人を創造された。

神にかたどって創造された。
男と女を創造された。
神は人を祝福して言われた。
「生めよ、増えよ、地に満ちてそれを従わせよ。海の魚、空の鳥、地に動く生き物すべてを支配せよ。」
神は言われた。
「全地に生える穀物と野菜、果実を、すべてあなた方に与えよう。それがあなた方の食物となる。
地の獣、空の鳥、地に動くすべての生き物には各種の青草を食べさせよう。」
すると、そのようになった。神は創造されたすべてのものをご覧になった。それは非常に良かった。夕となり、朝がきた。第六日である。
天地万物はできあがった。第七日に、神はご自分のわざを完成され、安息なさった。神はその第七日を祝福して、これを聖別された。この日に、そのすべての創造のわざを終わって休まれたからである。

エデンの園

これが天地創造の由来である。

＊主なる神が天と地を造られたとき、地上にはまだ木も、草も生えていなかった。地上に雨を降らせなかったからである。また土を耕す人もいなかった。しかし、水が地から湧き出て、土の全面を潤していた。神は、土のちりで人を形づくり、その鼻にいのちの息を吹きこまれた。こうして人は生きるものとなった。神は、エデンの東に園を設け、人をそこに置かれた。また、見て美しく、食べるによいすべての木をそこに生えさせ、園の中央には、「いのちの木」と「善悪を知る木」を生えさせられた。

主なる神は人をエデンの園に住まわせ、人がそこを管理するようにされた。神は人に命じて言われた。

「園のすべての木から自由に取って食べなさい。ただし、『善悪を知る木』からは食べてはならない。それを食べるとあなたは必ず死ぬ。」

＊主（しゅ）天の神の御名。ヘブライ語で「ヤーウェ」。

悪魔の誘惑

さて、主なる神が造られた生き物のうちで、*蛇が最もずる賢いものであった。

あるとき蛇は女に話しかけた。

「神さまが、『園の中にあるすべての木の実を食べてはいけない』と言われたのは、ほんとうでしょうか。」

女は蛇に答えた。

「私たちには園の木の果実を食べることが許されています。でも、園の中央に生えている木の果実について神さまは、『食べてはいけない、触れてもいけない。死ぬことのないように』とおっしゃいました。」

蛇は女に言った。

「絶対死ぬというわけではない。それを食べると、目が開け、あなたたちが神さまのようになり、善悪を知る者となることを神さまはご存じなのだ。」

すると女は、なるほどその木の実が食べてもおいしく、見ても美しく、

*蛇　聖書の中で悪魔（サタン）はよく「蛇」と呼ばれる。

賢くなるために食べる値打ちがあると思うようになり、結局その実を取って食べた。そして、いっしょにいた男にもさし出すと、男も食べた。

罪と死に呪われて

その日、そよ風の吹くころ、*アダムとその妻は、主なる神が園の中を歩まれるのを聞いた。そこで二人は、神を避けて、園の木の間に隠れた。すると、神はアダムを呼ばれた。

「あなたはどこにいるのか。」

彼は答えた。

「あなたが園にいるのを聞き、自分が裸なので、恐ろしくなり、隠れました。」

神は言われた。

「おまえが裸であることをだれが教えたのか。食べてはいけないと命じた木から食べたのか。」

アダムは答えた。

*アダム　ヘブライ語で「アダム」は人、「アダマ」は土の意。

「あなたが私といっしょにしてくださった女が、その木から取って与えたので、食べてしまいました。」

神は女に言われた。

「何ということをしたのか。」

女は答えた。

「あの蛇が私をだましたので、食べてしまいました。」

神は女に言われた。

「おまえが子を産むとき、大いに苦しませる。
おまえは、子を産むのに苦しまねばならない。
それでも、おまえは夫を慕い、
彼はおまえを支配する。」

神はアダムに言われた。

「おまえは妻のことばを聞いて、
取って食べるなと命じた木から食べた。
それで、土は呪われたものとなった、おまえのゆえに。
おまえは、一生苦しんで食を得なければならない。

おまえのために、
土は茨とあざみを生えさせる。
おまえは、野の植物を食べる。
おまえは顔に汗を流して糧を得る、
土にもどるときまで。
おまえは、土から取られたから、
ちりにすぎないおまえは、ちりに返る。」

アダムはその妻を*エバと名づけた。彼女がすべて生きたものの母となったからである。主なる神は、アダムと彼の妻に皮の衣を作り、着せてくださった。

*エバ　ヘブライ語で「命あるものの母」の意。

エリコ付近の荒地

「おまえは、土から取られたから、ちりにすぎないおまえは、ちりに返る。」

創世記　3：19

コラジンの廃墟

「私は人類を滅ぼそうと決心した。人のゆえに地は不法に満ちている。」

創世記　6：13

第二章　すべてを滅ぼす

ノアと箱船

さて、地上に人が増え始めた。しかし、神は人の悪が増大し、人の思い計ることすべてが、悪いことばかりであるのをご覧になった。神は、人を造ったことを後悔し、心を痛められた。神は言われた。

「私が創造したこの人々を地上から消し去ろう。人間だけではなく、家畜、這うもの、鳥のすべてを。私は、これらを造ったことを後悔する。」

しかし、その世代の中で、ノアは神に従う正しい人であったので、彼は主の好意を得た。ノアは主の道に歩んだ。ノアには三人の息子、セム、

ハム、ヤペテがいた。

この世は神の前で堕落し、不法に満ちていた。神は地をご覧になった。見よ、すべての人は地上で堕落した生活をしていた。

神はノアに言われた。

「私は人類を滅ぼそうと決心した。人のゆえに地は不法に満ちている。私は地上から彼らを滅ぼしつくす。

あなたはいとすぎの木で箱船を造りなさい。箱船には部屋を幾つも造り、内側も外側も木のやにで塗りなさい。次のように造りなさい。箱船の長さを三百*キュビト、幅を五十キュビト、高さを三十キュビトにし、屋根を造り、また側面には戸口を造り、一階と二階と三階にそれを造りなさい。

私はこれから地上に大洪水をもたらし、地上のすべてのものを滅ぼす。ただし、私はあなたと契約を結ぶ。あなたは妻子や嫁たちといっしょに箱船に入りなさい。また、すべての生き物を二つずつ箱船に連れて入り、あなたといっしょに生き残るようにしなさい。鳥、家畜、地を這うもの、すべての種類の雄と雌があなたといっしょに入れるように。更に、

*キュビト　一キュビトは約四十五センチ。したがって、箱舟はおよそ長さ一三五メートル、幅二二・五メートル、高さ一三・五メートル。

各種の食べ物を集め、あなたと動物たちの食糧としなさい。」

ノアは、すべて神が命じられたとおりに行った。

主なる神はノアに言われた。

「さあ、あなたと家族全員で箱船に入りなさい。この世代の中であなただけが私に従う人だ。あと七日たつと、私は四十日四十夜地に雨を降らせ、私が造ったすべての生き物を地の面から消し去るからだ。」

ノアは洪水を逃れるため、妻子や嫁たちといっしょに箱船に入った。動物も、鳥も、地を這うものもすべて、二つずつ箱船のノアのもとに来て箱船に入った。それは神がノアに命じられたとおりに、雄と雌であった。そして神はノアの後ろで戸を閉ざされた。

大洪水

七日が過ぎて、洪水が地上に起こった。第二の月の十七日、この日、大いなる深淵の源がことごとく破れ、天の水門が開かれた。雨は四十日四十夜降り続いた。水は次第に増え、箱船を押し上げたので、箱船は大

地を離れて浮かんだ。水は勢いを増し、大いにみなぎり、箱船は水面を漂った。水はますます勢力を加え、天の下の高い山はすべて覆われた。水は更にその上十五キュビトに達し、山々を完全に覆った。

地上の生き物はすべて、鳥も家畜も獣も地に群生するものも人間も、全部、息絶えた。それらは大地からぬぐい去られ、ノアと、彼といっしょに箱船にいたものだけが生き残った。百五十日の間、水は勢いを失わなかった。

神は、ノアと箱船にいたすべての獣とすべての生き物をお忘れにならなかった。そこで、地の上に風を吹かせられると、水が減り始めた。また、深淵の源と天の水門が閉じられたので、天からの大雨はやみ、水は地上から引いて行った。百五十日の後には水が減って、箱船は第七の月の十七日にはアララテ山の上に止まった。水はますます減り続け、第十の月になり、第十の月の一日には山々の頂が現れた。

四十日たって、ノアは箱船の窓を開き、鳥を放した。鳥は飛び立ったが、地上の水が乾いていなかったので、行ったり来たりした。次に、ノアは鳩を放して、地の水が引いたかどうかを確かめようとしたが、鳩

は留まる所が見つからなかったので、箱船のノアのもとに帰って来た。地の全面がまだ水に覆われていたからである。

それから七日待って、ノアは再び鳩を箱船から放した。鳩は夕方になって彼のもとに帰って来た。見よ、鳩はくちばしにオリーブの若葉をくわえていた！ノアは水が地上から引いたことを知った。更に七日待って、また鳩を放したが、鳩はもうノアのもとに帰って来なかった。

最初の月の一日に、地上の水は乾いた。箱船の覆いを取り外して、ノアは外を眺めた。見ると地の面は乾いていた。第二の月の二十七日になって、地は完全に乾いていた。

神はノアに言われた。

「さあ、あなたと家族は、皆いっしょに箱船から出なさい。あなたのもとに来た各種の動物、鳥、家畜、地を這うもの、すべてを連れ出しなさい。そして、地に群がり、地の上で生み、増えるようにしなさい。」

そこで、ノアは息子や妻や嫁といっしょに外へ出た。すべての、獣、這うもの、鳥、地に群がるもの、皆、その種類にしたがって箱船から出た。

神の祝福

ノアは、主のために祭壇を築き、その上で全焼のいけにえをささげた。主は献げ物を喜ばれ、言われた。

「私は決して二度と、人のゆえに大地を呪うことはしない。人が心に思うことは、幼いときから悪いからだ。私は、この度したように二度と生き物をすべて滅ぼすことはしない。

地の続くかぎり、種蒔きも刈入れも
寒さも暑さも、夏も冬も
昼も夜も、なくなることはない。」

また、神はノアと彼の息子たちを祝福して言われた。

「生めよ、増えよ、地に満ちよ。地の獣、空の鳥、地に這うもの、海の魚すべては、あなた方の前に恐れおののく。私はこれらをあなた方の手にゆだねる。

私は、あなた方と、そして後の子孫と、契約を結ぶ。また、あなたと箱船から出たすべての動物と契約を結ぶ。それは、二度と洪水によっ

て生き物が全滅することはなく、また、洪水によって地を滅ぼすことは決してないと。

私は雲の中に虹を置く。それは私と大地との間のしるしとなる。私が地の上に雲を起こすとき、虹が現れ、私はこの契約を思うのである。」

ピリポ・カイザリヤ　バニアス の滝

いのちの水を飲みたい人は、
それをただでいただきなさい。

ヨハネの黙示録　22：17

「ああ、罪を犯す人々、罪深い民、 ‥‥なぜ、おまえたちは反逆を重ねるのか。」

イザヤ書　1：4，5

第三章　新しい約束

洪水の後、長生きしたノアは死に、その後も地上には再び多くの人間が生まれ育ち、増えていきました。しかし、人間はまたもや堕落し、いろいろな宗教や偶像をつくり出しました。洪水の数百年後、地上はすでに罪に満ちた、暗黒の世界になっていました。

そこで神は、罪深い人間を罰すると預言者をとおして警告されました。人々に、悔い改めるよう神の声を伝えた預言者たちは、憎まれ、迫害され、殺されたことも少なくはありませんでした。しかし、人間を愛しておられる神は、あらゆる時代に預言者を世界に送り続けられたのです。

＊イザヤ　紀元前七六〇～六九八年ころ。預言者。詩人。迫害され、最後にはのこぎりで二つに切られて死んだという。

＊＊幻　神の霊感を受けた人に示される異象。この世に存在しないものや、異常な現象をとおして与えられる神の啓示。

イザヤの預言より

アモツの子＊イザヤが神から啓示されたことば。
これらはユダヤの王、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの治世のころに見た＊＊幻である。

なぜ、悪を続けるのか。
天よ、聞け。地よ、耳を傾けよ。
主なる神が語られるからだ。
「子どもたちは私が養い育てた。
しかし、彼らは私に逆らった。
牛は自分の飼い主を知り、
ろばは主人の飼葉桶を知っている。
しかし、人は知らず、
わが民は悟らないのだ。

ああ、罪を犯す人々、罪深い民、
悪を行う者どもの子孫、堕落した子たち。
彼らは主なる神を捨て、
聖なる方を侮り、背を向けて離れ去った。

なぜ、おまえたちは反逆を重ね、
なおも打たれるのか。
頭は病み、心は弱り果てているのに。
頭から足のつま先まで、
ただ打ち傷と生傷だらけで、
傷口はひどく化膿しているではないか。

洗って、清くなりなさい。
悪い行いを私の前から取り除きなさい。
悪をやめ、

正しいことを学び、
公平を求めよ。
無情なものを懲らし、孤児を守り、
未亡人のために弁護せよ。

さあ、もどって来なさい。
大いに話し合おう、と主なる神は言われる。
たとえ、あなた方の罪が緋のように赤くても、
雪のように白くなる。
たとえ、紅のようであっても、
清らかな羊の毛のようになるのだ。
もしあなた方が快く従うなら、
大地の豊かな実りを与えられる。
私こそ、私自身のために、
あなたの背きの罪を取り消し、
もうあなたの罪を思い出さない。」

悪者の災い

ああ、災いだ。朝から酒を追ってはしり、
夜ふけまで、強い酒をあおっている人々は。
彼らの宴会には、
音楽とぶどう酒がそろえてある。
しかし、神の働きに心を留めず、
御手のなされたことを見ようともしない。
彼らは言う。
「神を急がせよ。
さばきがあるなら、それを見たいものだ。
罰するなら、早くしてみよ。
そうすれば納得しよう。」

ああ、災いだ。悪を善と言い、善を悪と言う者たちは。
彼らは黒を白とし、白を黒とし、

苦みを甘み、甘みを苦みとしている。

ああ、災いだ。自分には知恵があると思い、
うぬぼれて、悟りがあると見せかける者たち。

ああ、災いだ。賄賂を取って悪人を弁護し、
正しい人の正しさを退け、
その権利をふみにじる者は。

ああ、災いだ。高慢な婦女たちは。
彼女たちは、色目を使い、
気どって小またで歩きまわる。
その日には、神は彼女たちの
高慢を取り除かれる。
彼女たちの化粧や装飾品、
首飾り、耳飾り、腕輪、飾り帯、

香水、髪飾り、お守り札、指輪、
宝石、晴れ着、夜会服、外套、
財布、手鏡、美しい肌着を除かれる。
こうして、良い香りは、悪臭となり、
帯はかわって、ひも、
結い上げた髪は、抜け落ち、
優雅な服はかわって、粗布になり、
美しさにかわって、恥辱が与えられる。

神に逆らう悪人は災いだ。
彼らはその行いに応じて報いを受ける。
火がわらを焼き尽くし、
炎が枯れ草をなめ尽くすように、
彼らの根は腐り、
その花は塵のように吹き去られる。
彼らは天の神の教えを拒み、

聖なる方のことばを
侮ったからだ。

それゆえ、地獄はのどを広げ、
その口を限りなくあける。
高貴な者たちも、群衆も、
その威光も、その騒音も、
そのどよめきも、その歓声も、皆、
そこになだれ落ち込む。

天の神は言われる。
「私に背いた者らの死体は
さらしものとなる。
その蛆は絶えず、彼らを焼く火は
消えることがない。
すべての人にとって、

彼らは憎悪の的となる。」

永遠なる神

あなたは知らないのか、聞いたことがないのか。
初めから告げられてはいなかったのか。
主なる神は大空のはるか上にある御座に着かれる。
地に住む人々は虫けらに等しい。
主は天を覆いのように広げ、天幕のように張られる。
主は世の権力者をむなしくし、
地を治める者をうつろなものとされる。
彼らが、やっと植えられ、やっと蒔かれ、
やっと地に根を張ろうとするとき、
主はそれに風を吹きつけて枯らす、
嵐がわらを散らすように。
あなた方は私をだれに比べ、

だれと並べようとするのか、と聖なる神は言われる。

星空を仰いでみなさい。
これらすべてを造られたのはだれか。
星の群れを数えて、引き出された方。
星一つひとつの名を呼ばれる方。

あなたは知らないのか、聞いたことがないのか。
主はとこしえの神、
地の果てまで創造された方。
弱ることなく、疲れることなく、
その英知ははかり知れない。
弱った人に力を与え、
落胆している人に大きな力を与えられる。

無力な偶像

偶像を造り、それを神とする人は皆無知である。
彼らの尊ぶものは何の役にも立たない。
彼ら自身が証人だ。
偶像は、見ることも、知ることもない。
彼らは赤恥をかくのである。
無力な偶像を造り、
役に立たない偶像を鋳る者はすべて、
それを信じる者といっしょに恥を受ける。
偶像を造る者も皆、人間にすぎないのだ。
やがて皆集まって神の前に立つ時、
彼らは恐れおののき、恥を受ける。

職人は金槌と炭火を造り、強い腕を振るって働くが、
腹がすくと力も減り、

水を飲まなければ疲れる。
彫刻師は寸法を計り、筆でその姿をあらがきし、
のみで削り、コンパスで線を引き、
人の形に造り、人間の美しい姿に仕上げて
お宮に置く。

人は木の一部をとってたきぎとし、
これで身を温め、
これを燃やしてパンを焼く。
木の他の一部をとって神を造り、
それを偶像に造りあげ、
それにひれ伏して拝む。
木の半分を火に燃やし、
それで肉をあぶり、
食べて満腹する。
身が温まると、

「ああ、温かい、炎が見えた。」と言う。
残りの半分で偶像を造って神とし、
それにひれ伏して拝み、祈って言う、
「私を救ってください。あなたは私の神です。」と。

この人々は知ることも悟ることもない。
見ることができないように、目はふさがれ、
悟ることができないように、心は鈍くされているから。
考えてみることもなく、
どんな反省もしないので、
「私は、木の一部を火に燃やし、
その火でパンを焼き、肉もあぶって食べた。
残りの木でこの忌むべき物を造って、
その木の切れ端の前にひれ伏すことができるのか。」
とさえ言わない。
彼は迷った心に惑わされ、自分を救い出すことができない。

そして「これ（偶像）はごまかしにすぎないのではないか。」
とすら言わない。

神の慰め

私は主である。
私のほかに神はない、ひとりもない。
あなたが私を知らなくても、
私はあなたを強くする。
それは、日の昇るところから日の沈むところまで、
私のほかは、むなしいものだと、
人々が知るようになるためである。
私は神であって、ほかにはいない。
光を造り出し、闇を創造するのは、私。
幸せをもたらし、災いを創造するのも、私。
私、神が、これらすべてを為すのである。

私が、地を造り、
そこに住む人間をも造った。
自分の手で天を広げ、
宇宙を指揮している。

私の民よ、私に聞け。
私の人々よ、私に耳を向けよ。
悟りは私から出、
私の道が、国々の光となる。
私の義はちかく、
私の救いはすでに出ている。
私の力は国々の民をさばく。
島々は私を待ち望み、私の力に拠り頼む。

天を見上げなさい。
それから、その下に広がる大地を見渡せ。

大空は煙のように消え去り、地は衣のように古びる。
地に住む人も、はえのように死に果てる。
しかし、私の救いはとこしえに続き、
私の義は衰えることがない。

正義を知り、心に私の教えをおく民よ、
私に聞け。
人の非難を恐れるな。
ののしられてもくじけるな。
彼らは衣のように、しみに食われ、
羊毛のように、虫に食い尽くされるものにすぎない。
しかし、私の義はとこしえに続き
私の救いは代々に永らえる。

私、私こそ、あなた方を慰めるものだ。
なぜ、あなたは恐れるのか、

やがては死ぬ人、草にも等しい人を。
なぜ、あなたは忘れたのか、
主なるあなたの創造主を。

よみがえりの朝

弱った手を強め、
よろめくひざをしっかりさせよ。
絶望した人々に言いなさい。
「元気を出せ。恐れるな。
見よ、あなた方の神を。
復讐し、悪に報いる神が来られる。
神は来て、あなた方を救われる。」と。

そのとき、荒野と荒地は喜び楽しむ。
砂漠は喜び、花を咲かせる。

サフランが一面に咲き乱れ、
クロッカスがいっせいに咲きこぼれ、
喜び歌う。

「あなた方のうちの死者は生きかえり、
私もよみがえる。
目覚めよ、喜びいさめ、
塵の中によこたわるものよ。
あなたは、
朝の光に輝く露のようだ。
大地から、死者がよみがえってくる。」

そのとき、盲人の目が開かれ、
聞こえない人の耳はあけられる。
そのとき、

歩けなかった人が鹿のように躍り上がり、
口の利けなかった人が喜び歌う。
荒野に水が湧き、
荒地に小川が流れる。
焼けた砂地は湖となり、
乾いた地は泉となる。
かつて、山犬がうずくまったところには、
緑 萌え、花が薫る。

そこに大路ができる。
その道は聖なる道と呼ばれ、
汚れた者がその道を通ることはない。
そこは救われた人たちのものだから。
愚か者もそこに迷い込むことはない。
もはや、猛獣もおらず、
救われた人々がそこを歩み、

主に贖われた人々が、そこに帰って来る。
そして、喜び歌いつつ神の都に帰り着き、
とこしえの喜びを冠としていただく。
楽しみと喜びが彼らを迎え、
嘆きと悲しみは逃げ去る。

嘆きの壁にて —— 祈り

救われた人々がそこを歩み、主に贖われた人々がそこに帰って来る。

イザヤ書　35：9，10

主なる神は自ら世の人々にしるしを与えられる。
ひとりの子が私たちのために生まれる。

イザヤ書　7：14

エルサレム　ダマスコ門

第四章　メシアの前ぶれ

神が預言者たちをとおして私たちに約束されたことは、やがて神の支配する正義の王国が打ち立てられる日が来る、また、人が悪から清められ、救われるときも来る、ということです。さらに、ひとりの方がこの世に遣わされ、はじめは救い主、後にはさばき主、また王として来られる、ということを預言者たちは伝えたのです。彼らは、このやがて来る救い主、またさばき主、王でもあられる方を*メシアと呼びました。そして、イエス・キリストの誕生のはるか以前から、この方について預言をしていたのです。

*メシア　ヘブライ語。「神が選んだ王」の意。ギリシア語では「キリスト」。

イザヤの預言より

「インマヌエル」

天の神が言われる。
「見よ、わがしもべ、私が支持するメシアを。
私が選び、喜ぶ者を。
私は彼に、わが霊を授けた。
彼は国々に公正をもたらす。
彼は叫ばず、呼ばわらず、声を街に響かせない。
折れかけた葦を折ることなく、
くすぶる灯心を消すことなく、
忠実に、真理を告げ知らせる。
彼は弱らず、くじけない、
全地にその道を確立するまでは。
遠い島々もその教えに望みをおく。」

天を創造して、これを広げ、
地とそこに生ずるものを繰り広げ、
人々に息と命を与えられる、
主である神はこう言われる。
「メシアよ。私は、あなたを呼び、
あなたの手を取った。
人々の契約、諸国の光として
あなたを守り、あなたを立てる。
盲人の目を開き、
希望もない捕われ人を、その鎖から救い出し、
闇に住む人々を、その座するところから解き放つために。」

主なる神は自ら
世の人々にしるしを与えられる。
すなわち、おとめが身ごもって、男の子を産む。

その名は*インマヌエルとよばれる。
ひとりの子が私たちのために生まれる。
ひとりの男の子が私たちに与えられる。
統治権が彼の肩にある。
彼の名は、「不思議な指導者、全能の神、
永遠の父、平和の君」と唱えられる。
**ダビデの王座に着いてその国を治め、
その平和の政権は勢いを増し、終わることがない。
今よりとこしえに、
公平と正義によってこれを堅く保つ。
全能の神のもえる愛がこれを成し遂げるのだ。

公平なさばき主
彼の上に主の霊がとどまる。
知恵と悟りの霊、

*インマヌエル　「神、我らとともにおられる」の意。ヘブライ語。

**ダビデ　イスラエルの二代目の王（在位紀元前一〇一〇年～九七一年ころ）。神に従い、神に愛された。その家系より、やがてメシアが生まれると約束されていた。預言者。詩人。

指導と勇気の霊、
また、主を知り、畏れ敬う霊である。
彼は主を畏れ敬うことを喜びとし、
ことの上べだけで、さばかず、
耳にきくことだけで、判決を下さない。
また、寄るべのない人のために正当なさばきを行い、
人々に見下された人を公平に弁護する。
彼の命令で悪者はさばかれ、
そのことばで悪人は処刑される。
彼は正義と真理を身にまとう。
そして、水が海を満たしているように
神を知る知識が大地にあふれる。

「見よ。わがしもべは栄える。
名誉を与えられ、尊ばれ、高くあげられる。
かつて、多くの人が彼を見て驚いたように、

――その姿は傷つき、損なわれ、
人とは見えず、人の面影もなかった――
彼は多くの国民を驚かし、
王たちも彼を見て口をつぐむ。
だれにも教えられなかったことを理解し、
一度も聞かされなかったことを悟るからだ。」

世の罪を担うメシア

ああ、私たちの言うことを、だれが信じたか。
だれが主の力を悟ったろうか。
神の前に、彼は小さな草木のように、
荒地に出る根のように育った。
彼には、私たちが見とれるような容姿も、
威厳もなく、
私たちが慕うような外見はない。

彼は軽蔑され、人々からのけ者にされ、
悲しみの人で、病を知っていた。
人が顔をそむけるほどさげすまれ、
私たちも彼を無視した。

実に、彼が負ったのは私たちの病、
彼が担ったのは私たちの痛みであったのに。
それでも、私たちは思った、
「彼は神に罰せられているから、打たれ、
苦しんでいるのだ。」と。

しかし、彼が刺し通されたのは
私たちの罪のためであり、
彼が打ち砕かれたのは
私たちの咎のためであった。
彼の受けた懲らしめによって

私たちに平和が与えられ、
彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。
私たちはみな、羊のようにさまよい、
おのおの、自分勝手な道に向かっていた。
しかし、神は、私たちの罪をすべて、
彼に負わせられた。

メシアのよみがえり

彼は非道にあつかわれた。
苦しめられたが、黙り続けていた。
屠殺場へ引かれて行く小羊のように
毛を刈る者の前に黙っている羊のように
黙り続けていた。
暴虐なさばきを受けて、彼は奪い去られた。
彼の時代のだれが思ったであろうか、

私たちの罪のゆえに、彼は打たれ、
生きた人々の地から断たれていったことを。
その死は悪者たちとともにされ、
その墓は富む者と同じであった。
不法を行わず
その口に偽りもなかったのに。

しかし、彼を砕いて、痛めることは
神の御心であった。
自分のいのちを
罪の償いの献げ物とするとき、
彼は、末永く子孫が続くのを見、
主の望まれることは
彼によって成し遂げられるのだ。
魂の多くの苦しみのあと、
彼はいのちの光を見て、満足する。

「私のしもべは多くの人を、
私の前に無罪とする。
彼らの罪咎を運び去るからだ。
それゆえ私は彼を偉大な勝利者としての
栄誉を与える。
彼は進んで自分の魂を注ぎだし、
死んで、罪びとのひとりに数えられたから。
彼は多くの人の過ちを負い、
背いた者のために執り成しをするのである。」

「嫌われた者よ。
人々にさげすまれ、
支配者らのしもべとされた者よ。
王たちはあなたを見て立ち上がり、
権力者たちはあなたにひれ伏す。」

神の救い

「さあ、渇いている者は皆、いのちの水に来なさい。
お金のない者も、来なさい。
食物を自由に食べなさい。
お金を払わずに
ぶどう酒と乳を得なさい。
なぜ、糧にならないもののために金を払い、
満足を得られない物のために骨折って働くのか。
私に聞き従って
良いものを食べなさい。
そうすれば、
あなた方は魂を満足させる食物を豊かに味わう。
よく聞いて、私のもとに来るがよい。
聞き従って、魂にいのちを得よ。
私はあなた方ととこしえの契約を結ぶ。

ダビデに約束した変わらぬ愛を与える。」

主をたずね求めなさい、おそ過ぎないうちに。
呼び求めなさい、近くにいますうちに。
神に逆らう者はその道を離れ、
悪を行う者はその思いを捨てよ。
主に帰れ、主は憐れんでくださるから。
私たちの神に立ち帰れ、
主は寛大に赦してくださるから。

ダニエルの預言より

バビロン帝国のベルシャツァル王の治世元年のことである。*ダニエルは、床の上で幻を見た。彼はそれを記録することにし、次のように書き起こした。

世の終わりのさばき

ある夜、私は幻を見た。
いくつかの王座がおかれ、
「日の老いたる者」がその御座に着いておられた。
その衣は雪のように白く、
その白髪は清らかな羊の毛のようであった。
その王座は燃える炎、
その車輪は燃える火、
その前から火の川が流れ出ていた。

＊ダニエル　紀元前六一五年～五二〇年ころ。預言者。少年のころイスラエルで捕えられ、バビロンへ送られたユダヤ人。後にバビロンの王の高官となった。

幾千のものが彼の前に仕え、
幾万のものが彼の前に立っていた。
さばき主は席に着き、
かずかずの巻物が広げられた。

夜の幻をなお見ていた。
すると、見よ、*「人の子」のような方が天の雲に乗り、
「日の老いたる者」の前に来て、そのみもとに進み、
支配権、光栄を受け、
王国を与えられた。
諸民、諸国、諸言語の人々は皆、彼を拝み、彼に仕えた。
この方の支配は永遠に続き
その王国は滅びることがない。

そのとき、世界の全王国の王権、支配の力、権威は
神の聖なる民にも与えられる。

*人の子　イエス・キリストはご自分のことを「人の子」と呼ばれた。八五ページの注釈を参照。

その御国は永遠に続き、
すべての人は、彼らに仕え、彼らに服従する。

死んだ、地の塵の中に眠っている、多くの人が目を覚ます。
ある人は永遠の生命に入り、
ある人は恥と、永遠の侮辱に入る。
賢い人々は大空の光のように、
多くの者を正義に導いた人々は、夜空の星のように、
とこしえに輝き続ける。

ダリヨス王のことば

ペルシャ帝国のダリヨス王は、帝国全地に住む諸国、諸族、諸言語の人々に、次のような声明文を書き送った。
「諸国民に平安があるように。余は以下のとおりに定める。
わが王国の民はすべて、ダニエルの神を恐れ敬わなければならない。

この方こそ生ける神、とこしえに変わることなく、
その国は滅びず、その支配は永遠に続く。
この方は人を救って解放し、助けをなし、
天にも地にも、しるしと奇跡を行う神なのである。」

ゼカリヤの預言より

平和の王国

シオンの少女よ、大いに踊れ。
エルサレムの娘よ、喜びの声をあげよ。
見よ、あなたの王が来られる。
彼は正しい方で、救いを与えられた者。
謙虚な方で、ろばに乗って来られる。
若い、子ろばに乗って来る。

＊ゼカリヤ　紀元前五四〇年～四七〇年ころ。預言者。メシアの到来や神のさばきについての預言が多い。

彼は民から戦車を
国から軍馬を絶やし、
戦いの弓をも断たれる。
彼は諸国の民に、平和を告げ、
その支配は海から海へ
地の果てにまで及ぶ。

神なる主は、その日、人々を救い、
その民を羊のように養われる。
主の地で、彼らは王冠の宝石のように輝く。
彼らはなんと美しいことか！
なんと麗しいことか！

「その日、私の民のために、
罪と汚れを洗い清める、一つの泉が開かれる。
その日が来る。」と天の神は言われる。

「私は偶像をこの地から取り除く。
その名が再び唱えられることはない。
また、汚れた霊をも、
私はこの地から追い払う。」

*ダビデ王の預言より

メシアはダビデの家系から

主の霊は私をとおして語り
主のことばは私の口にある。
イスラエルの力、神がこう語られる。
「正義によって人を治める方、
神を畏れて治める方が来る。
彼は、朝の光、
雲のない朝に輝きでる太陽、

*ダビデ　四六ページの注釈を参照。

地に萌え出た若草に降り注ぐ
雨上がりの陽光のようだ。」
神はこれを成し遂げるために、
私の家系を選ばれた。
永遠の契約を私に賜った。

主は私に告げた。
「あなたの家を興す。
あなたが生涯を終え、
先祖たちといっしょに眠ったあと、
あなたの子孫のひとりを立てて、
その王国を揺るぎないものとする。
この方が私の名のために家を建て、
私は彼の王国の王座をとこしえに確立する。
私は彼の父となり、彼は私の子となる。

私の手は彼を支え、強める。
彼は敵に欺かれず、
悪しき者が彼を悩ますことはない。
私は彼の前でその仇を打ち砕き、
彼を憎む者を打ち倒す。
私の真実と慈愛は、彼にあり、
私の名によって、彼に勝利が与えられる。
彼は私に呼びかけるであろう。
『あなたは私の父、
私の神、私の救い。』」と。

*マラキの預言より

主の来臨の日

「見よ、私は使者を遣わす。
彼は先立ってわが前に道を備える。
あなた方が待望しているメシアは
突然、来られる。
あなた方があこがれている約束の方、
見よ、主が来る。」と天の神は言われる。

だが、主の来る日にだれが耐えられよう。
彼の現れるとき、だれが立っていられよう。
「さばきのために、私はあなた方の所に行く。
そして、占いをする者、姦淫する者、偽り誓う者、
不正な賃金で雇い人を圧迫する者、

*マラキ　紀元前四〇〇年ころの預言者。

未亡人や孤児をいじめる者、
寄るべのない貧しい人をのけものにする者、
私を畏れぬ者らをすべて、告発する。
そして彼らを、私はさばく。」と天の神は言われる。

「実に、主である私は変わることがない。
先祖の時代から、あなた方は、
私が定めた決まりを離れ、それを守らなかった。
私に立ち帰れ。
そうすれば、私もあなた方に帰る。」
と、天の神は言われる。
「あなた方は言っている。
『神に仕えることはばかばかしい。
その戒めを守っても、何の意味があろうか。
罪を反省して神に従っても、何の益があろうか。
今は、高慢な者が祝福され、悪を行う人が栄え、

神に逆らっても、人は罰を免れているからだ。』と。」

そのとき、
神を畏れ敬う者たちが互いに語り合っていた。
主はそれを聞かれた。
そして、主の御前で、主を畏れ敬う者についての記録の書が、
書き記されていた。
天の神は言われる。
「彼らは、私のものとなる。
私が手を下すその日に、
彼らは私にとって宝となる。
人が自分のいとしい子を憐れむように、
私は彼らをあわれむ。
そのとき、あなた方は再び、
正しい人と悪者、
神に従った者と従わなかった者との

報いの違いを見るであろう。」
「見よ、その日が来る。
炉のように燃える日が来る。
高慢な者、悪を行う者は、
すべてわらのようになる。
到来するその日に、彼らは焼き尽くされ、
根も葉も残さない。」と天の神は言われる。
「しかし、わが名を畏れ敬うあなた方には
正義の太陽が昇る。
彼の翼にはいやす力がある。
あなた方は牛小屋から牧場へ解き放された
小牛のように跳びはねて喜ぶ。
あなた方は神に逆らう者を踏みにじる。
私が手を下すその日に、
彼らはあなた方の足の下で灰になるのだ。」
と天の神は言われる。

メシアよ。あなたは‥‥盲人の目をひらき、希望もない捕われ人を
その鎖から救い出し、闇に住む人々をその座するところから解き放つ‥‥

イザヤ書　42：7

イエスはガリラヤ地方全体を巡って、天の国の福音を宣べ伝えた。

マタイによる福音書　4：23

ベテ・シャン地方

ベツレヘム　イエス・キリストの降誕の地

「この方こそご自分の民をすべての罪から救うのです。」

マタイによる福音書　1：21

第五章　救い主、イエス

神が人となった

はじめに「*ことば」があった。「ことば」は神とともにあり、「ことば」は神ご自身であった。この方ははじめに神とともにあった。すべてはこの方によって創造された。創造されたもので、この方によらずにできたものは何一つない。「ことば」にいのちがあり、いのちは人間の光であった。光は闇の中に輝き、闇は光に打ち勝たなかった。

すべての人を照らすこの真の光が世に来られた。「ことば」は世におられ、世はこの方によって造られたが、世はこの方を

＊ことば　ギリシア語で「ロゴス」。実体化されて宇宙、万物を支配する理法。また、理性、言語、意味、理由、根拠などの意味をもつ。弟子ヨハネはここで、キリストが、天地万物を創造された神であることを強調している。

知らなかった。「ことば」はご自分の人々のところに来られたのに、人々は受け入れなかった。しかし、「ことば」は、ご自分を受け入れた人、信じた人々には、神の子とされる特権をお与えになった。

「ことば」は肉体となって、私たちの間に宿られた。私たちはその栄光を見た。それは父なる神の独り子としての栄光であて、恵みと真理とに満ちていた。

ヨセフとマリヤ

神の子イエス、「*キリスト」の福音の初め。

天使ガブリエルが、神から遣わされてガリラヤ地方のナザレという町へ来た。それはヨセフという男と婚約したおとめのところへであった。男はダビデ家の出で、おとめの名はマリヤといった。

天使は、彼女のところに来て言った。「恵まれた方、おめでとう。主があなたとごいっしょです。」このことばにマリヤは驚き、何のことか

*キリスト　ヘブライ語のメシア（神が選んだ王）のギリシア語訳。イエスが「キリスト」であるので、イエスの呼び名となった。

と思いめぐらした。すると、天使は言った。「マリヤよ、恐れることはありません。あなたは神から恵みを受けたのです。あなたは身ごもって男の子を産みます。その子をイエスと名づけなさい。彼は偉大な人となり、神の子と呼ばれます。神である主は、彼に先祖ダビデの王座を与え、彼は永遠に治め、その王国は終わることがありません。」

マリヤは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょう。私にはまだ夫もいませんのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、神の力があなたを包みます。それで、生まれる子は聖なる方で、神の子と呼ばれます。神にできないことはありません。」マリヤは言った。「私は主に仕えるものです。おことばどおり、この身に成りますように。」こうして、天使は離れ去った。

さて、マリヤはヨセフと婚約していたが、ふたりがいっしょになる前に、マリヤは聖霊によって身ごもった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリヤのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに彼女と別れようと思った。彼がこのことを考えているころ、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにあなたの妻マリヤを迎え入れなさ

い。彼女の子は聖霊によって宿ったのです。マリヤは男の子を産みます。その子を*イエスと名づけなさい。彼こそご自分の民をすべての罪から救うからです。」

これらすべてが起こったのは、以前、神が預言者をとおして言われたことが成就するためである。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。
その名は**インマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神、われらとともにいます。」という意味である。ヨセフは眠りから覚めて、神の天使が命じたとおりにし、妻マリアを迎え入れた。そして、子どもが生まれるまで彼女に触れなかった。

イエスの誕生

そのころ、***皇帝アウグストスから帝国全体の人民を登録せよとのおふれが出た。これは、クレニオがシリア州の総督であったときの最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにめいめい自分の町へ行った。

*イエス「主は救う」の意味。

**インマヌエル　四六ページの注釈を参照。

***皇帝アウグストス　ローマ帝国の第二の皇帝（シーザー）。在位紀元前三〇～後一四年。

ヨセフもガリラヤのナザレの町からユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼はダビデ家に属し、その血を引いていたからである。ところが、彼らがベツレヘムにいる間に、マリヤは月が満ちて、男の初子を産み、布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

羊飼いと天使

その地方で羊飼いたちが何人か野宿をして、羊の群れの夜番をしていた。すると、神の天使が彼らのところに立ち、神の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れることはありません。私は、すべての人に与えられるすばらしい喜びを知らせに来たのです。今日ダビデの町で、あなた方のために救い主がお生まれになりました。この方こそ主メシアです。あなた方は、布にくるまって飼葉桶の中に寝ているみどりごを見つけます。それがあなた方へのしるしです。」するとたちまちその天使に加わって天の大軍勢が現れ、神を賛美して言った。

「いと高き所では、栄光が、神にあるように！
地では、平和が、
御心にかなう人々にあるように！」

天使たちが天に去ると、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムに行って、主が知らせてくださったこの出来事を見ようではないか。」と話し合い、急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この子について天使が話してくれたことを知らせた。それを聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。しかし、マリヤはこれらすべてを胸に秘めて、心の中で考えていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

東方の学者たち

イエスは、ユダヤのベツレヘムで*ヘロデ王の時代にお生まれになった。そのころ、東の国から学者たちがエルサレムに来て言った。「お生

*ヘロデ大王　ローマ帝国のもとでユダヤを治めていた残忍な王。

まれになったユダヤ人の王は、どこにおられますか。私たちはその方の星を東方で見たので、彼を拝みにまいりました。」それを聞いて、ヘロデ王はうろたえた。エルサレムの人々も皆、同様であった。そこで王は民の*祭司長たちや**律法学者たちを皆集めて、「メシアはどこに生まれることになっているのか。」とたずねた。彼らは答えた。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれています。

『ユダの地、ベツレヘムよ、
おまえはユダの君主たちの中で
決して最も小さいものではない。
おまえからこそ君主が現れて、
わが民イスラエルの牧者となるからである。』」

そこで、ヘロデはひそかに東方の学者たちを呼び寄せ、星の現れた時期を聞きただした。そして、彼らをベツレヘムへ送り出して、こう言った。「出かけて、その子のことを詳しく調べ、見つけ次第知らせてくれ。私も拝みに行くから。」と。王のことばを聞いて学者たちは出かけた。すると、東方で見たあの星が彼らに先立って進み、ついに幼子のいる場

＊祭司長　エルサレムの神殿で仕えたユダヤ教のかしら。

＊＊律法学者　当時の聖書学者で、聖書を筆写し、聖書に通じ、これを解釈して人々に教えた。ユダヤ人の社会で大きな影響力を持っていた。

所の上に止まった。彼らはその星を見てこの上もなく喜んだ。家に入ってみると、幼子は母マリヤといっしょにおられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開いて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。その後夢の中で、「ヘロデのところへ帰るな。」との神のお告げを受けたので、別の道から自分たちの国へと立ち去った。

エジプトへ避難

東方の学者たちが帰り去ったとき、神の天使が夢の中でヨセフに現れて言った。「起きて、子どもと母親を連れて、エジプトに逃げなさい。そして、私が告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探して殺そうとしている。」ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ立ち去った。そしてヘロデが死ぬまでそこにとどまった。それは、「私は、エジプトから私の子を呼び出した」と、神が預言者をとおして言われたことが成就するためであった。

ヘロデ、子どもを皆殺しにする

さて、ヘロデは学者たちに素通りされたと知って、大いに怒った。そして、人を送り、ベツレヘムとその近辺にいた二歳以下の男の子を、ひとり残らず殺させた。その年令は学者たちから突き止めておいた時期から割り出したのである。こうして、神が預言者エレミヤ*をとおして言われたことが成就した。

「声がラマに聞こえた。
大きな嘆きと叫びの声だ。
ラケルは子どもたちのために泣き、
慰められようともしない。
子どもたちがもういないのだから。」

エジプトから帰国

ヘロデが死ぬと、神の天使が、夢の中でエジプトにいるヨセフに現れ

*エレミヤ　紀元前六五〇年～五八〇年ころ。預言者。

て言った。「起きて、子どもとその母親を連れ、イスラエルの地に行きなさい。この子の命をねらっていた者どもは、死んでしまった。」

そこで、ヨセフは、子どもとその母を連れて、イスラエルの地に帰った。しかし、アケラオが父ヘロデの跡を継いでユダヤを支配していると聞いて、そこに行くことを恐れ、夢でお告げを受けて、ガリラヤ地方に立ち去った。そして、ナザレという町に行って住んだ。幼子イエスはそこで成長して強くなり、知恵に満ち、神の恵みが彼の上にあった。

神殿での少年イエス

イエスの両親は毎年、*過越の祭りに都エルサレムへ旅をした。彼が十二歳になったときも、両親は祭りの慣習に従って都へ上った。祭りの期間が終わって帰るとき、少年イエスはエルサレムに残っておられたが、両親はそれに気づかなかった。イエスが道連れの中にいるものと思い込んで、一日分の道のりを行った。それから親戚と知人の間を捜し回ったが、見つからなかったので、捜しながらエルサレムまで引き返した。す

*過越の祭り　ユダヤ教の三大祭りの一つ。子羊がこのときほふられる。一五七ページの注釈を参照。

＊神殿　エルサレムの都にあった天の神の神殿のこと。ユダヤ教のお宮。

＊＊洗礼者ヨハネ　メシアの前ぶれをした最後の預言者。最後にヘロデ王に首をはねられた。イエスの弟子ヨハネとは別人。

ると三日の後、イエスが＊神殿で教師たちの真ん中に座られ、話を聞いたり質問したりしているのを見つけた。聞いている人々は皆、イエスの知恵や受け答えに驚いていた。両親はこれを見て驚き、母マリアがイエスに言った。「なぜこんなことをしてくれましたか。ご覧なさい。お父さまも私も心配して捜していたのです。」すると、イエスは言われた。「どうして私をお捜しになったのですか。私が必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかったのですか。」しかし、両親はイエスのことばの意味を悟らなかった。

それから、イエスはいっしょに下って、ナザレに帰り、両親に仕えておられた。マリヤはこれらのことすべてを心に納めていた。イエスは知恵も背丈も増し、また、神と人とに愛された。

洗礼者ヨハネ

イエスが宣教を始められたのは、およそ三十歳のときであった。

そのころ、＊＊洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒野で、「悔い改めよ。

天の国は近づいた。」と教えを宣べ伝えていた。そこで、エルサレムとユダヤ全土と、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのところに出かけて来て、自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼から*洗礼を受けた。

ユダヤ人たちが、エルサレムから祭司たちをヨハネのもとに遣わして、「あなたは、どなたですか。」と質問させたとき、彼は公に、「私はメシアではない。」とはっきり言った。

「私は、悔い改めのために、あなた方に水で洗礼を授けているが、私の後から来られる方は、私よりも力のある方です。私は、その履物をお脱がせする値打ちもありません。」

ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊！これこそ『私の後から、私にまさる方が来られる。私以前からおられたからである。』と私が言った方のことです。私はそれを見たのだから、この方こそ神の子であると証しして来たのです。」

＊洗礼　バプテスマともいう。罪を悔いて、神を信じ従う新しい生活に入るために行う儀式。

イエス、洗礼を受ける

イエスは洗礼を受けるため、ガリラヤ地方からヨルダン川のヨハネのところへ来られた。ところが、ヨハネは、それをしきりにとめようとして言った。「私こそ、あなたから洗礼を受けるべきですのに、あなたが、私のところへ来られたのですか。」

しかし、イエスはお答えになった。「今は、受けさせてもらいたい。すべての正しいことを実行するのは、私たちにふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。こうして、イエスは洗礼を受け、すぐに水から上がられた。すると、天が開いた。ヨハネは、神の霊が鳩のようにイエスの上に降って来るのを見た。そのとき、天から、「これは私の愛する子、私の心にかなう者」という声がした。

試練を受ける

さて、イエスは神の*聖霊に導かれて荒野に行かれた。悪魔に試される

*聖霊　神の霊の別名。神ご自身。

ためである。そして四十日四十夜断食した後、ついに空腹を覚えられた。すると、*誘惑する者が近づいて、イエスに言った。「もし神の子なら、これらの石がパンになるように命じてごらん。」イエスはお答えになった。

「『人はパンだけで生きるものではない。
神の口から出る一つ一つのことばで生きるのである。』
**と聖書に書いてある。」

そこで、悪魔はイエスをエルサレムの都に連れて行き、神殿の屋根に立たせて、言った。「もしあなたが神の子なら、飛び降りてみなさい。
『あなたの足が石に打ちつけられないように、
神は天使たちに命じて、あなたを支えさせる。』
と聖書に書いてある。」イエスは言われた。「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある。」

次に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄を見せて、「もし、ひれ伏して私を拝むなら、これを全部与えよう」と言った。すると、イエスは言われた。「***サタンよ、退け！

*誘惑する者。悪魔のこと。

**聖書　現在の「旧約聖書」をユダヤ人は「聖書」と呼ぶ。巻末の「聖書について」を参照。

***サタン　悪魔の別名。

『あなたの神である主を拝み、ただ主だけに仕えよ』と聖書に書いてある。」そこで、悪魔は離れ去った。そして、天使たちが来てイエスに仕えた。

神の小羊

その後、イエスは、「悔い改めなさい。天の国は近づいた。」と言って、福音を宣べ伝え始められた。

あるとき、ヨハネはふたりの弟子といっしょにいた。そして、イエスが歩いておられるのを見て、「見よ、神の*小羊。」と言った。それを聞いて、ふたりの弟子はイエスに従った。イエスは振り返り、彼らがついて来るのを見て、「何の用ですか。」と言われた。彼らが、「先生、どこにお泊りですか。」と言うと、イエスは、「来なさい。そうすればわかるでしょう。」と言われた。そこで、彼らはついて行き、イエスが泊っておられる所を見、そしてその日は、イエスのもとに泊った。午後四時ごろのことである。

＊小羊　当時のユダヤ人は、罪を取り除き天の神の怒りをのがれるため小羊を犠牲としてささげた。後にイエスご自身は全人類の罪のために犠牲となる。

ヨハネのことばを聞いて、イエスに従ったふたりのうちのひとりは、シモンの兄弟アンデレであった。彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、「私たちはメシアに出会った。」と言った。そして、シモンをイエスのところに連れて行った。イエスは彼を見つめて、「あなたはヨハネの子シモンです。*ペテロと呼ぶことにします。」と言われた。

*ペテロ　ギリシア語。「石」という意味。ヘブライ語で「ケパ」。

「あなたは神の子です。」

ピリポとナタナエル

あくる日、イエスは、ガリラヤ地方へ行こうとされ、ピリポに出会って、「私に従いなさい。」と言われた。ピリポは、アンデレとペテロの町、ベッサイダの出身であった。ピリポはナタナエルに会って言った。「私たちは、預言者たちが書いている方に出会った。ナザレの人イエスだ。」ナタナエルが、「ナザレから良いものが出るのだろうか」と言うと、ピリポは、「来て、見なさい。」と言った。

イエスは、ナタナエルがご自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。この人こそ、真のイスラエル人だ。この人には

偽りがない。」ナタナエルが、「どうして私をご存じなのですか。」と言うと、イエスは、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、私はあなたがいちじくの木の下にいるのを見ました。」と答えられた。すると、ナタナエルは、「先生、あなたは神の子です！あなたはイスラエルの王です！」と言った。イエスは言われた。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見た、と言ったので信じるのですか。これより大きなことをあなたは見ることになります。」また言われた。「よくよくあなた方に言っておきます。天が開けて、神の天使たちが*人の子の上に昇り降りするのを、あなた方は見ることになります。」

イエスは聖霊の力に満ちてガリラヤに帰られた。彼の評判は周りの地方一帯に広まった。イエスは諸会堂で教え、人々から尊敬を受けられた。

弟子になった四人の漁師

イエスが、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、網を打っているペテロとアンデレに再び出会った。ふたりは漁師だったのである。イ

*人の子　イエスはよく「私」の代りに自分のことを「人の子」と呼んだ。五六ページの注釈を参照。

エスは、「私について来なさい。あなた方を、人間をとる漁師にしてあげよう。」と言われた。彼らはただちに網を捨ててイエスに従った。

そこから進んで行くと、別のふたりの兄弟、ヤコブとヨハネが、父ゼベダイといっしょに、舟の中で網の手入れをしているのをご覧になった。そこでふたりを招かれた。彼らもただちに、舟と父親とを残してイエスに従った。

伝道、病気を治す

イエスはガリラヤ地方全体を巡って、諸会堂で教え、天の国の福音を宣べ伝え、また、民衆のあらゆる病気とあらゆる患いをいやされた。そこで、イエスの評判はシリヤ地方一帯にまで広まった。人々がイエスのところへ、いろいろな病気や苦しみに悩む人々、悪霊に取りつかれた者、てんかんの者、中風の者など、あらゆる病人を連れて来た。イエスはこれらの人々を皆いやされた。こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエ

スに従った。
この群衆を見て、イエスは山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちがみもとに来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

幸いな人

「幸いなのは、こころのくだかれた人々、
天の国は彼らのものだから。
幸いなのは、愁い悲しむ人々、
彼らは慰められるから。
幸いなのは、柔和な人々、
彼らは地を相続するから。
幸いなのは、義を慕い求める人々、
彼らは満ち足りるから。
幸いなのは、憐れみ深い人々、
彼らはあわれまれるから。

幸いなのは、心の清い人々、
　彼らは神を見るから。
幸いなのは、平和をつくる人々、
　彼らは神の子と呼ばれるから。
幸いなのは、義のゆえに迫害される人々、
　天の国は彼らのものであるから。
私のために、人々にののしられ、迫害され、また、ありもしないことで悪口を言われるとき、あなた方は幸いです。喜びなさい。大いに喜びなさい。天にあなたのために、大きな報いがあるのだから。以前の預言者たちも、そのように迫害されたのです。

哀れな人

哀れなのは、富んでいるあなた方、
　慰めを、すでに受けているから。
哀れなのは、いま食べ飽きているあなた方、

＊預言者　神の啓示を受け、神の名によって神のことばを語る人。

やがて、飢えるようになるから。
哀れなのは、いま笑っているあなた方、
やがて、悲しみ泣くようになるから。
すべての人にほめられるとき、あなた方は哀れな者です。
彼らの先祖は、*にせ預言者たちをそのようにほめたからです。

*にせ預言者　神の啓示を受けているといい、神の名を使い、人を惑わす者のこと。金銭や名誉を目的とした預言者。

愛と憐れみ

私のことばを聞くあなた方に言っておきます。敵を愛し、あなたを憎む者に良くしなさい。悪口を言う者を祝福し、あなたを侮辱する者のために祈りなさい。あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではいけません。求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの物を奪う者から取り戻そうとしてはいけません。人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。自分を愛してくれる人を愛したからといって、どんなに優れたことだ、と言うのでしょうか。罪びとでさえも、愛してくれる人を愛しているので

す。また、自分によくしてくれる人に善いことをしたからといって、どんなに優れたことだ、と言うのでしょうか。罪びとでも同じことをしているのです。返してもらうつもりで貸したところで、どんな優れたことだ、と言うのでしょうか。罪びとさえ、返してもらおうとして、罪びとに貸すのです。しかし、あなた方は敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も条件をつけずに貸しなさい。そうすれば、すばらしい報いがあり、あなたは神の子となります。神は、恩を知らない者にも悪人にも、憐れみ深いからです。あなた方の父が慈悲深いように、あなた方も慈悲深くありなさい。

地の塩、世の光

あなた方は地の塩です。しかし、塩が塩気をなくしたら、その塩は何によって塩気を取りもどすのでしょう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。

あなた方は世の光です。山の上にある町は、隠れることができません。

また、明りをつけて升の下に置く人はいません。燭台の上に置いて、家にいる人すべてを照らすのです。このように、あなた方の光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなた方の義の行いを見て、あなた方の天の父をあがめるようになるためです。

神は心を見る

ほかの人に見てもらおうとして、人の前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天の父から報いをいただけません。

だから、貧しい人や困っている人に施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、みんなの前でラッパを吹いてはいけません。よく言っておきますが、彼らはすでに報いを受けているのです。あなたは施しをするとき、右の手のすることを左の手に知らせてはいけません。あなたの施しが隠されるためです。そうすれば、隠れたことを見ておられる天の父が、あなたに報いてくださるのです。

祈るときには

祈るときにも、偽善者のようであってはいけません。彼らは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈るのが大好きです。はっきり言いますが、彼らはすでにその報いを受けているのです。あなたが祈るときは、ひとりで奥まった部屋に入り、戸を閉め、隠れたところにおられる父なる神に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられる神が報いてくださいます。また、祈るときは、神を知らない者たちのように、ながながと無駄なことをとなえてはいけません。彼らは、ことば数が多ければ、聞き入れられると思っています。彼らのまねをしてはいけません。父なる神は、願う前から、あなた方に必要なものをご存じなのです。だから、こう祈りなさい。

『天にいます私たちの父よ、
御名があがめられますように。
御国が来ますように。
御心が天で行われるとおり、

地でも行われますように。
私たちが日々必要な糧を、今日もお与えください。
私たちの罪をお赦しください。
私たちも、
私たちに過ちのある人を
赦しましたから。
私たちを誘惑に遭わせず、
悪い者からお救いください。
国と力と栄光は、とこしえに
あなたのものだからです。*アーメン。』
もし人の過ちを赦すなら、天の父もあなたの過ちをお赦しになります。しかし、もし人を赦さないなら、天の父もあなたの過ちをお赦しになりません。

*アーメン　「真実に」「確かに」「そのとおり」という意味。祈りにつかわれる言葉。

天に宝を

あなた方は自分のために、地上に財宝を貯えてはいけません。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりします。あなた方は天に財宝を貯えなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込んで取ることもない。あなたの財宝のあるところに、あなたの心もあるのです。

だれも、同時にふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかです。あなた方は、神と富の両方に仕えるということはできないのです。

神の国を求めよ

それゆえ、あなた方に言います。自分の命のことで、何を食べようか、何を飲もうかと思い悩んだり、自分の体のことで、何を着ようかと心配することはやめなさい。命は食べ物よりも、体は衣服よりも大切ではあ

りませんか。空の鳥を見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなた方の天の父は鳥を養っていてくださるのです。あなた方は、鳥よりも価値あるものではありませんか。心配したところで、あなた方のだれが寿命を少しでも延ばせますか。なぜ、衣服について心配するのですか。野のゆりがどのように育つのか、考えてみなさい。働きもせず、紡ぎもしません。しかし、栄華を極めたときの*ソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。今日は野に生え、明日は炉に投げ込まれるという草でさえ、神はこのように装ってくださるのですから、あなた方にはなおさらのことではありませんか。

ああ、信仰の薄い人たちよ。だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、心配するのはやめなさい。それはみな、神を信じない人々が切に求めているものです。あなたの天の父は、これらのものがみなあなたに必要であることをご存じです。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、それらのものも加えて、みな、与えてくださいます。明日のことを心配するな。明日のことは明日自身

*ソロモン　イスラエルの王。在位紀元前九七一年～前九三二年。ダビデ王の子。「ソロモンの栄華」とうたわれるほど彼の輝かしい治世はイスラエル王朝の黄金時代であった。

が心配します。一日の労苦はその日だけで、十分です。

狭い門から入りなさい

求め続けなさい。そうすれば、与えられます。探し続けなさい。そうすれば、見つかります。門をたたき続けなさい。そうすれば、開かれます。だれでも、求める人は受け、探す人は見つけ出し、門をたたく人には開かれます。パンをくださいと言う自分の子どもに、石を与える人がいますか。魚をくださいと言うのに、蛇を与えますか。そのように、あなた方は悪い者であっても自分の子どもには良い物を与えることを知っているならば、まして、あなた方の天の父は、求める人に良いものをくださらないことがありましょうか。それゆえ、他人からしてほしいと思うことを、あなた方も他人に行いなさい。これこそ*律法と預言者の教えです。

狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、いのちに至る門はなんと狭く、その道

*律法　神の意志による教えと戒めのこと。一般に「十戒」とその他の戒めをいう。

も細いことか。それを見いだす者はまれです。

にせ者に用心しなさい

にせ預言者を警戒しなさい。彼らは優しい羊のように見せかけてやって来るが、内側は強欲な狼です。あなた方は、その実で彼らを見分けます。茨にぶどうが、あざみにいちじくが実るでしょうか。そのようにすべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結びます。良い木に悪い実がなることはできず、また、悪い木に良い実がなることもできません。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれます。こういうわけで、あなた方はその実で彼らを見分けることができます。

にせ信者

私に向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではありません。私の天の父の御心を行う者だけが入るのです。世の終わり

のさばきの日には、大勢の者が私に、『主よ、主よ、私たちはあなたの名によって説教し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか。』と言います。そのとき、私はきっぱりとこう言います。『私はあなた方を全く知らない。不法を行う者ども、私から離れ去れ！』

実行しなさい

そこで、私のこれらのことばを聞いて、それを実行する者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ています。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、倒れません。岩を土台としているからです。私のこれらのことばを聞くだけで、実行しない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ています。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れてしまいます。そして、その倒れ方がひどいのです。」

イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに非常

イエスは神の聖霊に導かれて荒野に行かれた。
悪魔に試されるためである。

マタイによる福音書　4：1

マサダの要塞

に驚いた。それはイエスが、律法学者のようにではなく、権威ある者として教えられたからである。

その日の夕方になると、イエスは弟子たちに、
「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われた。

マルコによる福音書　4：35

ガリラヤ湖（ティベリアのうみ）

第六章　力ある教え、奇跡

罪を赦す権威

イエスが山から下りられると、大勢の群衆が従った。すると、一人のらい病を患っている人がイエスのみもとに来て、ひれ伏して言った。「主よ、御心ならば、私を清くすることができるのですが。」イエスが手を伸ばしてその人にさわって、「よろしい。清くおなり。」と言われると、たちまち、らい病は清くなった。

数日後、イエスは再びカペナウムの町に行かれた。イエスが家におられることが知れ渡り、大勢の人が集まった。もはや戸口のあたりまですきまもないほどになった。イエスは御ことばを語っておられた。そこへ、

四人の男が中風の人を運んで来た。しかし、群衆のために、イエスのもとに近づけないので、イエスがおられるところの屋根をはがして穴をあけた。そして、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。

イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「わが子よ、あなたの罪は赦された。」と言われた。

ところが、そこに律法学者が何人か座っていて、心の中で、「この人は、なぜこういうことを言うのか。神を冒瀆することだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦せるか。」と、あれこれ考えた。

イエスは、彼らが心の中で考えていることを、霊の力ですぐに知って言われた。「なぜ、そんな考えを心に抱くのか。中風の人に『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、歩きなさい』と言うのと、どちらが易しいか。とにかく、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に言われた。「あなたに言う。起き上がり、床を持ち、家に帰りなさい。」その人は起き上がり、すぐに床を担いで、皆の前を出て行った。人々は非常に驚き、「こんなことは、今まで見たことがない」と言って、神をあがめた。

私の母、私の兄弟

さて、イエスは弟子たちとともに湖の方へ立ち去られた。すると、ガリラヤから来た大勢の群衆がついて行った。また、ユダヤ、エルサレム、イドマヤ、ヨルダン川のかなた、ツロやシドンあたりからも大勢の群衆が、イエスのなさることを聞いて、みもとに集まって来た。そこで、イエスは弟子たちに小舟を用意しておくようにと言われた。群衆に押しつぶされないためであった。それは、イエスが多くの病人をいやされたので、病気に悩む人たちが皆、イエスにさわろうとして、みもとに押し寄せたからである。

イエスが家に帰られると、また群衆が集まって来たので、一同は食事をする暇もなかった。身内の人たちはこれを聞いて、イエスを連れ戻しに来た。「あの男は気が変になっている。」と言われていたからである。イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。大勢の人が、イエスの周りに座っていた。彼に、「ご覧なさい。あなたの母上とご兄弟が外であなたを待っておられます」と言うと、イエスは、

「私の母、私の兄弟とはだれのことですか。」と答え、周りに座っている人々を見回して言われた。「見なさい。ここに私の母、私の兄弟たちがいます。神の御心を行う人はだれでも、私の兄弟、姉妹、また母なのです。」

嵐を静める

その日の夕方になると、イエスは弟子たちに、「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われた。そこで、彼らは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せて漕ぎ出した。ほかの舟も同行した。すると激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになるほどであった。しかし、イエスは艫の方で眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。「先生、おぼれます！かまわないのですか。」イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静かにせよ。」と言われた。すると、風はやんで、大凪になった。イエスは言われた。「なぜそんなにおくびょうなのか。まだ信仰がないのか。」弟子たちは非常に恐れ、互いに言った。「この方はいったいどな

たなのだろう。風も湖も従うとは。」

湖畔でのいやし

一行は湖を渡り、ゲネサレという土地に着き、舟をつないだ。彼らが舟から上がると、すぐに人々はイエスと知って、その地方をくまなく走り回り、どこでもイエスがおられると聞くところに、病人を担架で運び始めた。村でも町でも里でも、イエスが行かれると、病人を広場に置き、服のすそにでもさわらせてくださいとお願いした。さわった者は皆いやされた。

イエスは、大勢の群衆をご覧になり、彼らが牧者のない羊のようなのを深く憐れみ、多くのことを教えられた。

さて、イエスが舟に乗って再び向こう岸に渡られた。すると、また、群衆がみもとに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。そこへヤイロというある会堂の管理人が来て、イエスの足もとにひれ伏して、一生懸命願った。「私の小さな娘が死にそうです。どうか、いらしてお

手をのせてください。そうすれば、娘は助かるでしょう。」

そこで、イエスはヤイロといっしょに出かけて行かれた。大勢の群衆も押し迫りついて行った。

信仰でいやされた婦人

この群衆の中に、十二年間出血症を患っている婦人がいた。多くの医者になやまされ、全財産を使い果たしたが、何の役にも立たず、むしろ悪くなる一方であった。イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服にさわった。「お着物にさわればなおる。」と思ったからである。すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体で感じた。イエスは、自分の中から力が出て行ったのを感じ、振り返り、「だれが私の服にさわったのですか。」と言われた。そこで、弟子たちは言った。「ごらんのとおり、群衆があなたに押しよせているのに、『だれが私にさわったか』とおっしゃるのですか。」イエスはこのことをした女を見ようとあたりを見まわしておられた。彼女は自分の身に起こっ

たことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心してお帰り。いつも健やかで。」

ヤイロの娘、生き返る

イエスがまだ話しておられるときに、ヤイロの家から人々が来てヤイロに言った。「お嬢さまが亡くなりました。どうしてなお先生をわずらわされるのですか。」イエスはその話をそばで聞いて、「恐れることはない。ただ信じなさい。」とヤイロに言われた。そして、ペテロ、ヤコブ、またヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分といっしょに行くことをお許しにならなかった。

一行はヤイロの家に着いた。人々がひどく泣き叫んでいる騒ぎをご覧になると、イエスは中に入り、人々に言われた。「何を騒いで泣くのですか。子どもは死んだのではない。眠っているのです。」しかし、人々はイエスをあざ笑った。

イエスは皆を外に出し、子どもの両親と、いっしょに来た弟子だけを連れて、子どものいる所へ入って行かれた。そして、子どもの手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。訳すと、「少女よ、起きよ。」という意味である。すると、少女はすぐに起き上がって、歩きだした。彼女は十二歳であった。それを見るなり、人々は驚きのあまり我を忘れた。イエスは、このことをだれにも知らせないようにと、厳しくお命じになり、また、少女に食べ物を与えるようにと言われた。

天の国と地獄

イエスは言われた。

「よくよくあなた方に言っておきます。私のことばを聞いて、私をお遣わしになった方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、また、さばかれることがなく、死からいのちへと移っているのです。はっきり言っておきます。死んだ者が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。

このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者が皆、人の子の声を聞き、墓を出る時が来ます。善を行った者は、いのちを受けるためによみがえり、悪を行った者は、さばきを受けるためによみがえって来るのです。

毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそうなります。人の子は天使たちを遣わし、すべて罪のもとになるもの、不法を行う者どもを彼の王国から集めさせます。そして、彼らを火の燃え盛る炉の中に投げ込むのです。彼らは、そこで泣きわめいて歯ぎしりするのです。そのとき、正しい人々は天の父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。

天の国は次のようにたとえられます。

畑に隠された宝がある。

それを見つけた人は、そのまま隠しておき、

大喜びで出かけ、

持ち物を全部売り払って、

その畑を買う。

また、天の国は次のようにたとえられます。
商人が良い真珠を捜している。
すばらしい値うちの真珠を一つ見つけると、
出かけて行って
全財産を売り払い、
それを買う。
また、天の国は次のようにたとえられます。
網が湖に投げ降ろされ、
いろいろな魚が集められる。
網が満ちると、
人々は岸に引き上げ、
座りこんで、良いものは器に入れ、
悪いものは投げ捨てる。
世の終わりにもそのようになります。天使たちが来て、正しい人々と悪い者どもをより分け、悪い者どもを燃え盛る炉の中に投げ込むのです。彼らは、そこで泣きわめいて歯ぎしりするのです。」

金持ちの議員

イエスが旅に出ようとされると、ひとりの人が走り寄って、ひざまずいてたずねた。「善い先生、永遠のいのちを受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」

イエスは言われた。「なぜ、私のことを『善い』と言うのですか。神おひとりのほかに、善い方はいません。あなたは、『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、不正をするな、父と母を敬え』という掟を知っているはずです。」すると、その人は言った。「先生、そういうことはみな、子どもの時から守っております。」イエスはその人を見つめ、慈しんで言われた。

「あなたに欠けているものが一つあります。行って持ちものを皆売り払い、貧しい人々に与えなさい。そうすれば、天に宝を積むことになります。それから、来て私に従いなさい。」その人はこのことばに顔を曇らせ、悲しそうに立ち去った。多くの財産を持っていたからである。

福音のためにすべてを捨てる人

イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことでしょう。」弟子たちはこのことばに驚いた。イエスは更に言われた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことでしょう。らくだが針の穴を通る方が、金持ちが神の国に入るよりもっと易しい。」弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるでしょうか。」と互いに言った。イエスは彼らをじっと見て言われた。「人にはできないが、神にはできます。神はどんなこともできるからです。」

ペテロがイエスに、「このとおり、私たちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。」と言いだした。イエスは言われた。

「よく聞きなさい。私のため、福音のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、畑を捨てたものはだれでも、今この世では、迫害とともにではあるが、家、兄弟、姉妹、父母、子、畑の百倍を受け、来世では、永遠のいのちを受けます。しかし、最初のものが最後になり、最後のものが

最初になることが多いのです。」

イエス、自分の死と復活を予告する

一行がエルサレムへ上って行く途中であった。イエスは十二弟子を呼び寄せて、ご自分の身に起ころうとすることを話し始められた。

「いよいよ、私たちはエルサレムへ上って行きます。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡されます。彼らは死刑を宣告して*異邦人に引き渡します。彼らは人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ち、ついに殺します。しかし、人の子は三日の後によみがえります。」

十二弟子はこれらのことが何一つわからなかった。彼らにはこのことばの意味が隠されていて、イエスの言われたことが理解できなかったのである。

*異邦人　天の神を知らない外国人。

十二弟子の派遣

イエスは十二弟子を呼びよせて、けがれた霊を追い出し、すべての病気、すべての患いをいやす権威を与えられた。そして、言われた。

「私はあなた方を遣わす。それは、羊を狼の群れに送り込むようなものです。ですから、蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい。人々には用心しなさい。彼らはあなた方を地方法院に引き渡し、会堂で鞭打つからです。あなた方は、私のために総督や王の前へ連行されます。それは、彼らや異邦人たちに証しをするためです。引き渡されたときは、何をどう言おうかと心配することはありません。言うべきことはそのときに示されます。というのは、実にあなた方が話すのではなく、あなた方をとおして、神の霊が語るからです。

人を恐れるな

兄弟は兄弟を、父は子を死に渡し、子は親に反抗して死なせます。また、

私を信じるために、あなた方はすべての人に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。

ある町で迫害されたときは、他の町へ逃げて行きなさい。確かなことを言っておく。あなた方がイスラエルの町を回り終わらないうちに、人の子は戻って来ます。

あなたの体を殺しても、魂を殺せない者どもを恐れてはなりません。むしろ、魂も体もともに地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀が一アサリオンで売られているでしょう。しかし、その雀の一羽さえ、あなた方の天の父のお許しがなければ、地に落ちることはありません。あなた方の髪の毛さえもすべて数えられています。ですから、恐れることはありません。あなた方は、たくさんの雀よりもまさっています。

だれであろうと、『私はイエスを信じています。』と人々の前で宣言する人を、私も天の父の前で、『この人は私のものです。』と宣言します。しかし、だれでも人々の前で、『私はイエスと関係がありません。』と言う人に対しては、私も天の父の前で、『この人は知らない。』と言います。

平和ではなく剣を

地上に平和をもたらすために、私が来たと思ってはなりません。私は、平和ではなく、剣をもたらすために来たからです。私は人をその父から、娘を母から、嫁をしゅうとめから離すために来たのです。こうして、あなたの家族の人々があなたの敵となります。

父や母を私以上に愛する者は、私にふさわしくない。息子や娘を私以上に愛する者も、私にふさわしくない。また、自分の*十字架を負わず、私に従って来ない者は、私にふさわしくないのです。自分のいのちを保とうとする者は、それを失い、私のためにいのちを失う者は、かえってそれを得るのです。

受け入れる人の報い

あなた方を受け入れる人は、私を受け入れ、私を受け入れる人は、私を遣わされた方を受け入れるのです。預言者を預言者として受け入れる

＊十字架　当時、死刑囚はみな自分がはりつけれる十字架を刑場まで背負うことになっていた。十字架は「死の宣告」を象徴。

「私について来たい人は、『自分』を捨てなさい。」

人は、預言者と同じ報いを受け、正しい者を正しい者として受け入れる人は、正しい者と同じ報いを受けます。私に従うこの小さな者のひとりに、弟子として、冷たい水一杯でも与える人は、確かに言っておきますが、必ずその報いを受けます。」

自分のいのちを失う

さて、イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちがいっしょにいた。イエスは彼らにおたずねになった。「群衆は、私のことをだれだと言っていますか。」弟子たちは答えた。「洗礼者ヨハネだと言っています。ほかにエリヤだとか、昔の預言者のだれかが生き返ったのだ、と言う人もいます。」イエスが言われた。「では、あなた方は私をだれだと言いますか。」ペテロが答えた。「神からのメシアです。」イエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じられた。

そして言われた。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから拒まれ、殺され、そして三日目によみがえることになっ

ています。」それから、皆に言われた。「私について来たい者は、『自分』を捨て、日ごとに、自分の十字架を背負って、私に従いなさい。自分のいのちを救いたいと思う者は、それを失いますが、私のためにいのちを失う者は、それを救うのです。人が、たとえ全世界を手に入れても、自分の魂を滅ぼせば、何の得がありましょう。」

子どもと神の国

さて、イエスにさわっていただこうと、人々が子どもたちを連れて来た。しかし、弟子たちはこの人々をとがめた。これを見てイエスはなげき、弟子たちに言われた。

「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはいけません。神の国はこのような人たちのものです。よく聞きなさい。子どものように、素直に神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできません。」そして、子どもたちを抱き、手を置いて祝福された。

盲人バルテマイ

イエスが弟子たちや大勢の群衆といっしょに、エリコの町を出ようとされたとき、バルテマイという盲人のこじきが道ばたに座っていた。彼はナザレのイエスだと聞くと、叫びだした。「ダビデの御子イエスよ、私を憐れんでください！」

多くの人々が叱りつけて黙らせようとしたが、彼はますます、「ダビデの御子よ、私を憐れんでください！」と叫び続けた。

イエスは立ち止まって、「あの人を呼んで来なさい。」と言われた。人々は盲人を呼んで言った。「喜びなさい。立ちなさい！お呼びだ。」盲人は上着を脱ぎ捨て、踊り上がってイエスのところに来た。

イエスは彼に言われた。「何をしてほしいのか。」すると盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです。」と言った。そこで、イエスは言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」盲人はすぐ、目が見えるようになり、イエスに従った。

イエスとニコデモ

ニコデモという*パリサイ派の人がいた。ユダヤ人たちの議員であった。彼がある夜、イエスのところに来て言った。「先生、私どもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたのなさるような奇跡を、だれも行うことはできません。」イエスは言われた。「あなたに言っておきます。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

ニコデモは言った。「年をとってから、人はどのようにして生まれることができましょう。もう一度、母親の胎内に入って生まれることができましょうか。」

イエスはお答えになった。「はっきり言っておきます。人は、水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできません。肉から生まれたものは肉です。霊から生まれたものは霊です。『あなた方は新たに生まれなければならない』と言ったからとて、驚くことはありません。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来

*パリサイ派　ユダヤ教の中でも、最も厳格な保守派。この派の教師や聖書学者は多くの会堂で神の道を説き、民衆の間で尊敬されていた。

て、どこへ行くかはわからない。だれでも霊から生まれる者はそのとおりです。」

するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょうか。」と言った。

イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こういうことがわからないのですか。よく聞きなさい。私たちは知っていることを話し、見たことを証ししています、しかし、あなた方は私たちの証しを受け入れません。私がこの世のことを話したのにあなた方が信じなければ、天のことを話した場合、どうして信じるでしょうか。

神は世を愛された

神は、独り子をお与えになったほど、世を愛されました。独り子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠のいのちを得るためです。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、世が御子によって救われるためです。彼を信じる者は罪が取り消されます。信じない者はす

でに罪びとと定められています。神の独り子を信じていないからです。その理由はこれです。光が世に来たのに、人々は光よりも闇を愛した、ということです。人々の行いが悪いためなのです。悪を行う者はだれでも光を憎んで、光の方に来ません。その行いが明るみに出されるのを恐れているからです。しかし、真理を行う者は光に来ます。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかにされるために。」

御子は天から来た方

その後、イエスは弟子たちとユダヤ地方に行かれ、そこに滞在して洗礼を授けておられた。他方、ヨハネは、サリムの近くのアイノンで洗礼を授けていた。そこには水が多かったからである。人々は来て、洗礼を受けていた。さて、ヨハネの弟子たちと、あるユダヤ人との間で、清めについて論争があった。彼らはヨハネのところに来て言った。「先生、ヨルダン川の向こう岸であなたといっしょにいて、あなたが証しされたあの人が、洗礼を授けています。そしてみんなが彼の方へ行っています。

「あの方は栄え、私は衰える。」

ヨハネは答えた。「人は、天から与えられなければ、何も受けることができません。『私はメシアではなくあの方の前に遣わされた者だ』と私が言ったことの証人はあなた方自身です。あの方は栄え、私は衰えねばなりません。

上から来られる方は、すべてのものの上におられます。世から出る者は世に属し、世のことを語ります。天から来られる方こそ、万物の上におられるのです。この方は、見たこと、聞いたことを証しされますが、だれもその証しを受け入れません。その証しを受け入れた者は、神が真実であることを認めたことになります。神が遣わされた方は、神のことばを話します。神が聖霊を無限にお与えになるからです。

天の父は御子を愛して、万物を彼の手にゆだねられました。御子を信じる人は永遠のいのちを得ているが、御子に従わない者は、いのちを見ることがないばかりか、神の怒りがその者の上にとどまります。」

イエスはユダヤ地方で洗礼を授けておられた。

ヨハネによる福音書　3：22

ヨルダン川

第七章　拒否される

人々の言い伝え

パリサイ派の人々と律法学者数人が、エルサレムから来て、イエスのところに集まった。そして、イエスの弟子たちの中に汚れた手、すなわち手を洗わないで食事をする者がいるのを見た。

（パリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、先祖の言い伝えを固く守って、手をよく洗わないでは食事をせず、また、市場から帰ったときには、身を清めてからでないと食事をしない。そのほか、杯、鉢、銅の器を洗うことなど、守るように伝えられたしきたりがたくさんある。）

それで、パリサイ派の人々と律法学者たちが、イエスにたずねた。

「なぜ、あなたの弟子たちは先祖の伝統に従わず、汚れた手で食事をするのですか。」

イエスは言われた。「預言者イザヤは、あなた方偽善者について、実によく預言したものです。

『この民は、口先では私を敬うが、
その心は、私から遠く離れている。
彼らが、私を拝んでも、無駄なことである。
彼らの教えは、人のつくった定めにすぎないから。』」

人を汚すもの

こう言って、イエスは群衆を呼び寄せてまた言われた。

「すべての人よ、私の言うことを聞いて、悟りなさい。外から人に入るもので、人を汚すことができるものは何もありません。人の内から出て来るものが人を汚すのです。」

イエスが群衆を離れて家に入られると、弟子たちはこのたとえについ

てたずねた。イエスは言われた。「あなた方までも、それほどわからないのですか。外から人に入るものは人を汚せないということがわからないのですか。それは人の心に入るのではなく、腹に入り、そして排泄されます。」イエスは、このように、すべての食物をきよいとされた。

また言われた。「人から出るものこそ、人を汚すのです。人の内、すなわち人間の心から、悪い思いが湧き出ます。性的不道徳、盗み、殺意、姦淫、欲ばり、不正、うそ、好色、ねたみ、悪口、高慢、ふしだらなど、これらの悪はみな人の内から出て来て、人を汚すのです。」

「先生」と呼ばれるな

またあるとき、イエスは群衆と弟子たちに話をして、こう言われた。「律法学者たちやパリサイ派の人々の言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、まねてはいけません。彼らは言うだけで、実行しないからです。彼らは重荷を人々の肩に負わせるが、自分はそれを動かすために指一本もかそうとしません。彼らの行いはすべて

人に見られるためです。*経札の幅を広くしたり、衣服の房を長くしたりして特別のものを着ます。宴会では上座、会堂では上席に座ることが大好きで、また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを喜びます。しかし、あなた方は『**先生』と呼ばれてはなりません。あなた方の『先生』はおひとりであって、あとは皆兄弟なのです。また、地上のだれをも『***父』と呼んではいけません。あなた方の『父』はただひとりです。天におられる神だけです。あなた方は、『***教師』と呼ばれてもいけません。あなた方の『教師』はただひとりです。メシアひとりだけなのです。あなた方のうちでいちばん偉大な人は、皆に仕える者になります。だれであろうと、自分を高くするものは低くされ、自分を低くするものは高くされます。

宗教の指導者たちを批判

本当に忌まわしいものだ。あなた方偽善の律法学者、パリサイ派の人々は。あなた方は、人々が入れないように邪魔をして、天の国をさ

*経札　ユダヤ人の間で、聖書のことばを記した皮などを身につける風習があった。おもに祈りの時につけた。

**先生　学校の教師・医師などの敬称である「先生」を意味していない。宗教の指導者としての先生、例えば「牧師先生」。

***父　父親が子どもに「父」と呼ばれてはならぬ、の意味ではない。「神父」などを意味する。

****教師　あるいは「指導者」。

えぎっているのです。自分も入らず、入ろうとしている人々をも入らせません。

本当に忌まわしいものだ。あなた方は未亡人の財産を食いつくし、また、見栄のために長いお祈りをします。だから、あなた方は人一倍きびしい罰を受けます。

*律法学者たちとパリサイ派の人々、あなた方偽善者は忌まわしいものだ。改宗者ひとりをつくるために海と陸をとび回り、改宗者ができると、自分より倍も悪い地獄の子にしてしまうからです。

律法学者たちとパリサイ派の人々、あなた方偽善者は忌まわしいものだ。杯や皿の外側はきれいにするが、内側は強欲とわがままで満ちているからです。ものの見えないパリサイ派の人々、まず、杯の内側を清めなさい。そうすれば、外側も清くなる。

律法学者たちとパリサイ派の人々、あなた方偽善者は忌まわしいものだ。あなた方は白く塗った墓に似ている。外側は美しく見えても、内側は死人の骨やあらゆる汚れたもので満ちている。あなた方も、外側は人に正しく見えるが、内側は偽善や不法で満ちている。

*律法学者　七五ページの注釈を参照。

蛇よ、まむしの子らよ。どうしておまえたちは地獄の刑罰を免れることができようか。私は預言者、知者、学者をおまえたちに遣わすが、おまえたちはそのある者を殺し、十字架につけ、ある者を会堂で鞭打ち、町から町へと迫害して行くのです。」

イエスに対するたくらみ

そこで、パリサイ派の人々は立ち去って、どのようにしてイエスをことばのわなにかけるか相談をまとめた。そのうちのひとり、律法の専門家が、イエスを試そうとしてたずねた。「先生、律法のうち、どれが最も重要でしょうか。」

イエスは言われた。

「『心を尽くし、思いを尽くし、意志を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最大で第一の掟です。第二も、これと同じように重要です。

『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つの掟に律法全体と預言者

の教えのすべてがかかっているのです。」

イエスは、弟子たちに言われた。「パリサイ派の人々の偽善に注意しなさい。隠されているもので知られて来ないものはなく、覆いかぶされているもので、現れないものはありません。」

パリサイ派の人々は、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。するとまた多くの人々がついて来た。それは、預言者イザヤをとおして神が言われたことが成就するためであった。

「見よ、私の選んだしもべ。
私の喜ぶいとしい者。
この方に私の霊を授ける。
彼は諸国の民に正義を知らせる。
彼は争わず、叫ばず、
だれも通りで彼の声を聞くまい。
彼はいたんだ葦を折らず、
くすぶる灯心を消さない、

正義を勝利に導くまでは。
遠い諸国の民も、彼の名に望みをかける。」

金持ちと貧しい人

イエスは次のような話をなさった。「ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細糸の布を着て、毎日ぜいたくな生活を楽しんでいた。

この金持ちの門の前に、ラザロという貧しい人ができものだらけで横たわり、その食卓から落ちる物で飢えをしのげればと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめていた。

やがて、その貧しい人は死んで、天使たちによって*アブラハムのもとに連れて行かれた。

金持ちも死んで葬られた。金持ちは地獄で苦しみのうちに目を上げると、はるかかなたに、アブラハムとそのすぐそばにいるラザロとが見えた。そこで、声をあげて言った。『父アブラハムよ、私を憐れんでください！ラザロをよこし、指先を水に浸して私の舌を冷やさせてくださ

*アブラハム　ユダヤ人の始祖、また神を信じる者の信仰の模範。

い。私はこの炎の中でもだえ、苦しくてたまりません。』

アブラハムは言った。『子よ、思い出してみなさい。あなたは生きている間に良いものを受けていた。しかし、ラザロは悪いものを受けていた。今、ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえる。そのうえ、私たちとおまえたちの間には大きな淵がある。ここからおまえたちの方へ渡ろうとしてもできないし、そこから私たちの方へ越えて来ることもできない。』

金持ちは言った。『父よ、お願いです。ラザロを私の父親の家に送ってください。私には兄弟が五人います。彼らまで、この苦しみの場所に来ることのないように、彼らに警告してください。』

しかし、アブラハムは言った。『おまえの兄弟たちにはモーセと預言者の教えがある。その言うことを聞けばよい。』

金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ、もし、死んだ人のだれかが彼らのところに行けば、悔い改めるでしょう。』

アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者の教えを聞こうとしないのなら、たとえ死人のだれかがよみがえっても、その言うことを聞き

入れはしないだろう。』」

パリサイ派の人と*取税人のたとえ

自分は正しい人間だと思いこんで、他人を見下げている人々に対しても、イエスは次のたとえを話された。

「ふたりの人が祈るために神殿に上った。ひとりはパリサイ派の人で、もうひとりは取税人であった。パリサイ派の人は立って、心の中でこう祈った。『ああ神よ、私はほかの人々のように、詐欺をする者、不正な者、姦淫する者でなく、また、この取税人のような者でもないことを、感謝いたします。私は週に二度**断食し、全収入の十分の一をあなたに献げております。』

ところが、取税人は遠く離れて立ち、顔を天に向けようともせず、ただ胸を打ちながら言った。『神さま。どうか、罪びとである、この私を憐れんでください。』と。私は言う、神に正しいものとみなされて家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ派の人ではありません。

＊取税人　ローマ政府から税金の取り立てを委託された役人。外国人（ローマ帝国）のために働くばかりではなく、割り当てられた税額以上の金を取り立てて私腹をこやすという理由で、ユダヤ人から憎まれ、「罪びと」と見なされた。

＊＊断食　宗教的な動機で一定の期間、食事を断つこと。

だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

子どものようにへりくだれ

あるとき、弟子たちがイエスのもとに来て言った。「天の国でいちばん偉いのはだれでしょうか。」そこで、イエスはひとりの子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、言われた。「よく聞きなさい。心を入れ替えて子どものようにならなければ、天の国には入れません。この子どものように、自らへりくだる人こそ、天の国でいちばん偉いのです。私のためにこのような子どものひとりを受け入れる者は、私を受け入れるのです。

しかし、私を信じるこれらの小さな人のひとりの信仰をつまずかせる者は、大きな石臼を首にかけられて、海の深みにおぼれた方がましです。」

イエスの兄弟たちの不信仰

仮庵の祭りというユダヤ人の祝いの日が近づいていた。イエスの兄弟たちがイエスに言った。「ここから移ってユダヤへ行き、あなたの弟子たちにもあなたがしているわざを見せてやりなさい。公の場に出たいと思うのに、隠れた所で行動する者はありません。これらのわざを行うのなら、自分を世に現しなさい。」兄弟たちも、イエスを信じていなかったのである。

イエスは彼らに言われた。「私の時はまだ来ていません。しかし、あなた方の時はいつも備わっている。世はあなた方を憎みません。しかし、私を憎んでいます。私が、世の行いが悪いと証ししているからです。あなた方は祭りに行きなさい。私はまだ行きません。私の時が来ていないからです。」こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。

仮庵祭でのイエス

兄弟たちがエルサレムに行ったあと、イエスは人目を避け、ひそかに上って行かれた。祭りのときユダヤ人たちは「あの人はどこにいるのか」と言って、イエスを捜していた。イエスについて、群衆の間では、いろいろとささやかれていた。「良い人だ」と言う者もあり、「いや、群衆を惑わしている」と言う者もいた。しかし、ユダヤ人の指導者たちを恐れて、イエスについて公然と語る者はひとりもいなかった。

祭りがすでに半ばのころ、イエスは神殿の境内に入って教え始められた。ユダヤ人たちは驚いて言った。「この人は何も勉強してないのに、どうして聖書を知っているのか。」イエスは答えて言われた。「私の教えは、自分のものではなく、私を遣わされた方の教えです。だれでも神の御心を行おうとするなら、この教えが神からのものか、私が自分勝手に話しているのか、わかるはずです。

私の教えは自分のものではない

私を信じる者は、私ではなく、私を遣わされた方を信じるのです。私を見る者は、私を遣わされた方を見るのです。私が光として来たのは、私を信じる者が、だれも暗闇の中にとどまらないためです。私のことばを聞いて、それを守らない人がいても、私はその人をさばいてはいません。私が来たのは、世をさばくためではなく、世を救うためであるからです。私を拒み、私のことばを受け入れない者に対しては、さばくものがあります。私の話したことばが、終わりの日にその人をさばくのです。なぜなら、私は自分勝手に話したのではなく、私を遣わされた天の父が、私に何を言い、何を語るべきかをお命じになったからです。私は知っています、天の父の命令は永遠のいのちであることを。それゆえ、私が語ることは、父が私に命じられたとおりに語っているのです。」

この人はメシアか

そこで、エルサレムのある人たちが言った。「この人は、彼らが殺そうとねらっている者ではないか。それなのに、あのように公然と話していても、だれも何とも言わない。この人がメシアだということを、議員たちは本当に認めたのではないだろうか。しかし、私たちは、この人がどこの出身だか知っている。メシアが来られるとき、彼がどこから来るのかは、だれもわかるはずがない。」

神殿の境内で教えていたイエスは、大声で言われた。「あなた方は私を知っており、また、どこから来たかも知っています。しかし、私は自分勝手に来たのではありません。私を遣わされた方は真実ですが、あなた方はその方を知りません。私はその方を知っています。なぜなら、私はその方のもとから来たのであり、その方が私を遣わされたのです。」

群衆の中の多くがイエスを信じて言った。「メシアが来られても、この人よりも多くの奇跡をなさるだろうか。」

「この人は本当にメシアだ」などと言う者もいたが、このように言う

者もいた。「メシアはまさかガリラヤから出ないだろう。聖書に、『メシアはダビデの子孫から、またダビデのいたベツレヘムの村から出る。』と書いてあるではないか。」こうして、イエスのことで群衆の間に分裂が起きた。

指導者たちの不信仰

群衆がイエスについてこのようにうわさするのを、パリサイ派の人々が耳にした。そこで祭司長たちとパリサイ派の人々は、役人たちを遣わしてイエスを捕えようとした。しかし、イエスに手をかける者はいなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。

役人たちが戻って来たとき、祭司長、パリサイ派の人々は「なぜ、あれを引っぱって来なかったのか。」と言った。役人たちは答えた。「あの人が話すように話した人は、いまだかつてありません。」すると、パリサイ派の人々は言った。「おまえたちまでも惑わされたではないか。議員やパリサイ派の人々の中に、あの男を信じた者がひとりでもいるか。

律法を知らないこの群衆は、呪われている。」

彼らのひとりで、前にイエスのところに来たニコデモが言った。「まず本人から直接聞き、その人が何をしたのか知らなければ、我々の律法ではさばけないではないか。」

彼らは答えて言った。「あなたもガリラヤの出身なのか。よく調べてみて、ガリラヤからは預言者が現れないことを知りなさい。」

世の終わりのしるし

イエスが神殿を出て歩いておられると、弟子たちが近寄って来て、イエスに神殿の建物を指さした。すると、イエスは言われた。「これらすべての物が見えるか。今、はっきり言っておく。一つの石でも、ここで崩されずに積まれたまま残ることはない。皆こわされます。」

イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちがひそかにやって来て言った。「教えてください。いつ、そのようなことが起こるのですか。また、世の終わりとあなたが再び来られる時、どんな前兆があるの

ですか。」

イエスは答えて言われた。「だれにも惑わされないように気をつけなさい。私の名を名のる者が大勢現れ、『私がメシアだ』と言って、多くの人を惑わします。また、戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞きますが、慌てないように気をつけなさい。それは必ず起こります。しかし、それはまだ世の終わりではありません。民は民と、国は国と戦い、また、各地に飢饉や地震が起こります。しかし、これらすべては苦難の始まりなのです。そのとき、私に従うあなた方は迫害を受け、殺されます。そして私の名のゆえに、あなた方はすべての国の人々に憎まれるのです。そのとき、多くの人が私への信仰を捨て、互いに裏切り、憎み合うようになります。多くのにせ伝道者も現れ、大勢の人を惑わします。また、不法がはびこるので、大勢の信者の愛が冷えます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人こそ救われるのです。

そして、この神の国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民に証しされ、それから、終わりが来るのです。

大きな苦難

それらの日には、大きな苦難が来ます。それは神が天地を造られた創造の初めから今までになく、これからも決してないほどのものです。神がその期間を縮めてくださらなければ、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、神はご自分のものとして選んだ人たちのために、その期間を縮めてくださったのです。

そのとき、『見よ、ここにメシアがいる』『見よ、あそこに』と言う者がいても、信じてはいけません。にせメシア、にせ預言者たちが現れて、奇跡や不思議なわざを行い、神が選ばれた人たちを惑わそうとするからです。だから、気をつけていなさい。私はあなた方に前もって話しました。

それらの日には、このような苦難の後、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。

人の子の再臨

そのとき、人々は、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを見ます。そのとき、人の子は天使たちを遣わし、地の果てから天の果てまで、四方から、彼によって選ばれた人たちを呼び集めます。

天と地は過ぎ去ります。しかし、私のことばは決して過ぎ去ることがありません。その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天使たちも神の子も知りません。父なる神だけがご存じです。気をつけなさい。目を覚まして、注意していなさい。あなた方にはその定めの時がいつだか、わからないからです。人の子が来るのは、ノアの時と同じです。洪水の前、ノアが箱船に入るその日まで、人々は食べたり、飲んだり、めとったり、嫁いだりしていました。そして、洪水が襲って来てひとり残らずさらうまで、何も悟らなかったのです。人の子が来るときも、このようです。

すべての民族をさばく

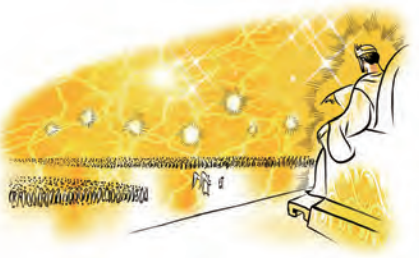
人の子は、栄光に輝いて、すべての天使たちを従えて再臨するとき、その栄光の座に着きます。そして、すべての国々の民がその御前に集められます。彼は羊飼いが羊と山羊を分けるように、人々をより分け、羊を右に、山羊を左に置きます。

そのとき、王は右側にいる人たちに言います。

『さあ、来なさい、私の父に祝福された人たち。世のはじめからあなた方のために備えられた国を受け継ぎなさい。私が飢えたときあなた方は食べ物を与え、のどが渇いたとき飲み物を与え、私がよその者であったとき迎え入れ、裸のとき着物を与え、病気のとき見舞い、捕われのとき訪れてくれた。』

すると、正しい人たちが王に答えます。

『主よ、私たちはいつ、あなたが飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。いつあなたをよその者と見て迎え入れ、裸でおられるのを見て着物を与



えましたか。いつ、病気をなさったり、捕われているのを見て、訪れましたか。』

王は答えます。

『聞きなさい。これらの私の兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、私にしたのです。』

それから、王は左側にいる者たちに言います。

『呪われた者ども、私から離れ去れ。悪魔とその使いたちのために用意された、永遠の火に入れ。私が飢えたときおまえたちは食べ物を与えず、のどが渇いたとき飲み物を与えず、よそ者であったとき迎え入れず、裸のとき着物を与えず、病気であり捕われているとき訪れてくれなかった。』

すると、彼らも答えます。『主よ、いつ私たちはあなたが飢え、渇き、よその者であり、裸で、病気で、捕われているのを見て、お世話をしなかったでしょうか。』そこで、王は答えます。『はっきり言っておく。おまえたちが、この最も小さい者のひとりにしなかったのは、私にしてくれなかったことなのである。』こうして、この者どもは永遠の刑罰に入り、

正しい人たちは永遠のいのちに入るのです。」

ベタニヤのラザロの死

ラザロという病人がいた。マリヤとその姉妹マルタの村、ベタニヤの人であった。このマリヤはイエスに香油を塗り、髪の毛で彼の足をふいた女である。ラザロはその兄弟であった。姉妹たちはイエスのもとに人をやって、「主よ、あなたの愛しておられる者が病気です」と言わせた。イエスは、弟子たちに「行きましょう。」と言われた。

イエスが来られると、ラザロは死んで墓に葬られてもう四日もたっていた。ベタニヤはエルサレムに近く、十五*スタディオンほど離れたところにあった。それで多くのユダヤ人がラザロのことで、慰めるためにマルタとマリヤのところに来ていた。マルタは、イエスが来られると聞いて、迎えに出、マリヤは家に座っていた。マルタはイエスに言った。「主よ、もしあなたがここにおられたなら、私の兄弟は死ななかったでしょうに。しかし今でも、私は知っています。あなたが神にお願いなさることは何

*スタディオン　一スタディオンは約二〇〇メートル。したがって、約三キロメートル。

でも、神はかなえてくださることを。」

イエスが、「あなたの兄弟はよみがえります。」と言われると、マルタは、「終わりの日の復活の時によみがえることは存じております。」と言った。イエスは言われた。「私はよみがえりです。いのちです。私を信じる者は、死んでも生きます。また、生きていて私を信じる人はいつまでも死にません。このことをあなたは信じますか。」

マルタは言った。「はい、主よ、信じます。あなたはメシア、神の子、世に来たるべき方であると私は信じております。」

イエス、涙を流す

こう言ってから、マルタは家に帰って姉妹のマリヤを呼び、そっと言った。「先生がいらして、あなたをお呼びです。」これを聞くとマリヤはすぐに立ち上がって、イエスのところへ行った。イエスはまだ村に入らず、マルタが出迎えたさっきの場所におられた。マリヤといっしょに家にいて、慰めていたユダヤ人たちは、彼女が急いで立ち上がって出か

けるのを見ると、墓に泣きに行くのだろうと思い、ついて行った。マリヤはイエスのおられるところに来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏して言った。「主よ、あなたがここにおいでしたら、私の兄弟は死ななかったでしょうに。」

イエスは、彼女が泣き、いっしょに来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心になげき、心の動揺を感じて言われた。「彼をどこに置いたのですか。」

「主よ、来て、ご覧ください。」と彼らは言った。

イエスは涙を流された。

ユダヤ人たちは、「ご覧なさい。何とラザロを愛しておられたことか。」と言った。

しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人さえも、ラザロが死なないようにはできなかったのか。」と言う者もいた。イエスは、またも心になげき、それから、墓に行かれた。

イエス、ラザロを生き返らせる

墓は洞穴で、入口に石が立てかけてあった。

イエスが、「石を取りのけなさい。」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、「主よ、四日もたっていますから、もう腐りかけて臭くなっております。」と言った。イエスは、「もしあなたが信じるなら、神の栄光を見る、と言ったではありませんか。」と言われた。

人々は石を取りのけた。イエスは天を仰いで言われた。「父よ。私の願いを聞いてくださったことを感謝します。あなたが私の願いを、いつも聞いてくださることを、私は知っておりました。しかし、こう申しますのは、周りにいる人々のためです。あなたが私を遣わされたことを、彼らが信じるためです。」

こう言われると、大声で、「ラザロよ、出て来なさい。」と叫ばれた。

すると、死んでいた人が、手足を布で巻かれたまま出て来た。顔は顔覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどいてやり、行かせなさい。」と言われた。

イエスを殺す計画

マリヤのところに来ていて、イエスのなさったことを見たユダヤ人の多くは、イエスを信じた。しかし中には、パリサイ派の人々のところへ行って、イエスのなさったことを告げる者もいた。

そこで、祭司長たちとパリサイ派の人々は*最高議会を召集して言った。「あの男は多くの奇跡を行っているのに、我々は何をしているのか。このまま放っておけば、皆が彼を信じるようになる。そして、ローマ人が来て、我々の神殿も国民も奪ってしまうだろう。」

ユダヤ人の過越の祭りが間近であった。多くの人々が身を清めるために、各地から祭りの前にエルサレムへ上った。彼らはイエスを捜し、神殿の境内で互いに言った。「どう思うか。あの人はこの祭りには来るだろうか。」それは祭司長たちとパリサイ派の人々が、イエスの居どころがわかれば届け出よ、とおふれを出していたからである。イエスを捕えるためであった。

さて、過越の祭りの六日前に、イエスは再びベタニヤに行かれた。そ

＊最高会議（サンヘドリン）当時ローマ帝国から許されていたユダヤ国民の自治機関。議会は、行政と司法の権限を持ち、祭司、サドカイ派の者、パリサイ派の者、聖書学者、長老たちなど七十人の議員から成った。大祭司が議長。

こには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。イエスのためにそこで晩餐が用意された。マルタは給仕し、ラザロはイエスとともに食事の席に着いた人々の中にいた。大勢の群衆がイエスがそこにおられることを聞いて、やって来た。それはイエスだけではなく、彼が死人の中からよみがえらせたラザロを見るためでもあった。

祭司長たちはラザロをも殺そうと相談した。それは、ラザロのことで、多くのユダヤ人が離れ去って、イエスを信じるようになったからである。

エルサレムに迎えられる

あくる日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞いて、しゅろの葉を手にして彼を迎えに出た。そして、叫び続けた。

「ホサナ（万歳）！祝福があるように。
神の御名によって来られる方、イスラエルの王に。」

イエスは子ろばを見つけて、それに乗られた。ゼカリヤの預言の書に

書いてあるとおりである。

「シオンの娘よ、恐れることはない。
見よ、あなたの王が来られる。
ろばの子に乗って。」

弟子たちは初めこのことがわからなかったが、イエスが栄光を受け、天に帰られてから、これがイエスについて書かれたことであって、人々がこのとおりにイエスにしたということを、思い出した。証ししたのは大勢の人々であった。イエスがラザロを墓から呼んで死人の中からよみがえらせたとき、いっしょにいた人々である。群衆がイエスを出迎えたのも、イエスがこのような奇跡をなさったと、これらの人々から聞いていたからである。そこで、パリサイ派の人々は互いに言った。「見たことか、何をしても無駄だ。あのとおり、世をあげて彼について行ってしまった。」

ユダ、イエスを裏切る

祭司長たちや律法学者たちは、イエスを殺す方法を考えていた。民衆を恐れていたからである。

そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれるユダの中に、悪魔が入った。ユダは出かけて行って、祭司長や神殿の守衛長たちと、どのようにしてイエスを引き渡そうかと相談した。彼らは喜んで、ユダに金を渡すことに決めた。ユダは承諾した。そして、群衆のいないときにイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

イエスを信じない者たち

さて、イエスがこれほど多くの奇跡を人々の目の前で行われたのに、彼らはイエスを信じなかった。これは、預言者イザヤの次のことばが成就するためであった。

「ああ、だれが私たちの知らせを信じたか。

主の力を、だれが悟ったろうか。
神は彼らの目を見えなくし、
その心をかたくなにされた。
それは、彼らが目で見、心で悟り、
悔い改め、そして私が彼らをいやす、
ということがないためである。」

こうイザヤが言ったのは、イエスの栄光を見て、彼について語ったからである。しかし、議員の中にもイエスを信じる者は多かった。ただパリサイ派の人々を恐れてそれを告白しなかった。会堂から追放されないためであった。彼らにとって、神に認めていただくことよりも、人間から認めてもらう方が大事だったのである。

エルサレム
ヴィア・ドロロサ（悲しみの道）
イエスが十字架を背負って刑場へ
向かったといわれる道。

「もし人々が私を迫害するなら、あなた
方をも迫害します。」イエス・キリスト

ヨハネによる福音書　15：20

第八章　人類の罪を背負って

最後の晩餐

除酵祭の第一日、すなわち*過越の子羊をほふる日、弟子たちがイエスに、「過越の食事の用意は、どこへ行ってしましょうか。」とたずねた。そこで、イエスは次のように言って、弟子ふたりを使いに出された。

「都へ行きなさい。すると、水がめを運んでいる男に出会うので、ついて行きなさい。その人はある家に入るので、その家の主人の案内で、二階の広間に私たちのために準備をしなさい。」弟子たちが町に行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、そこで過越の食事を準備した。

＊過越の祭り　イスラエルの民が神によってエジプトから救い出されたことを祝う祭り。エジプト人の長子と家畜の初子を滅ぼした神の使いが、イスラエル人の家を「過ぎ越し」たことに基づいた名称。この日に子羊をほふって焼き、種（ふくらし粉）なしのパンとともに食して祝った。後に、キリスト信者はイエス自身をこの犠牲の小羊と見なし、これは、神がイエスを信じる者の罪を赦す（過越す）ことの象徴とした。八三ページの注釈を参照。

夕ぐれになって、イエスは十二弟子といっしょにそこへ行かれた。

イエスは、ご自分がこの世を去って、父なる神のもとへうつる時が来たことを悟り、世の自分のものたちを愛して、彼らを最後まで愛しつくされた。

一同が席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「よく聞きなさい。あなた方のひとりが、私を引き渡します。私といっしょに、今、食事をしているあなた方のうちのだれかである。」弟子たちは悲しくなって、「まさか、私ではないでしょう。」とかわるがわる言い出した。

イエスは言われた。「十二人のひとりで、私といっしょに、同じ器にパンを浸している者です。人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行きます。しかし、呪われたのは人の子を裏切ったその人です。その人にとっては、むしろ生まれなかった方がよかったのです。」ユダはそのパンを受けると、すぐ出て行った。夜であった。

道・真理・いのち

一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して祈り、それを裂いて、弟子たちに与えられた。また、ぶどう酒の杯を取り、感謝して祈り、彼らに渡された。皆がその杯から飲んだ。

イエスは言われた。

「心を騒がしてはなりません。神を信じ、また私を信じなさい。私の父の家には住まいがたくさんあります。もしなければ、あなた方にそう言っておいたはずです。私は、あなた方のために場所を備えに行くのです。行ってあなた方のために用意したら、戻って来て、あなた方を私のもとに迎えます。私のいる所に、あなた方もいられるように。どこへ私が行くのか、またその道をあなた方は知っています。」

トマスが言った。「主よ、あなたがどこへ行かれるのか、私たちは知りません。どうして、その道がわかるでしょう。」

イエスは言われた。「私が道であり、真理であり、いのちなのです。私によらないでは、だれも父のもとに行くことができません。」

ピリポが、「主よ、天の父を私たちにお示しください。それで満足します。」と言うと、イエスは言われた。「これほど長い間いっしょにいるのに、私がわからないのですか、ピリポよ。私を見た人は、天の父を見たのです。どうして、『私たちに天の父をお示しください。』と言うのですか。私が父におり、父が私におられることを、信じないのですか。

聖霊を与える約束

私は父にお願いしましょう。父は別の助け主をあなた方にお与えになります、その助け主がいつまでも、あなた方といっしょにいるように。この方は、真理の霊です。この世は、この霊を見も知りもしないので、受け入れることができません。しかし、あなた方はこの霊を知っています。この霊があなた方とともにおり、これから、あなた方の内にいるからです。私は、あなた方を孤児にはしておきません。再びあなた方のところに戻って来るのです。

この助け主、すなわち、父が私の名によって遣わされる聖霊は、あな

た方にすべてを教え、私が話したことすべてを思い出させます。

だれでも私を愛する人は、私のことばを守ります。私の父もその人を愛し、父と私はその人のところに行き、ともに住みます。私を愛さない者は、私のことばを守りません。

私には、あなた方に話すことがまだたくさんありますが、今、あなた方はそれに耐える力がありません。しかし、真理の聖霊が来るとき、この方はあなた方をすべての真理へ導き入れます。

世の憎しみと迫害

世は私を憎んでいます。私が世の悪い行いを指摘しているからです。世があなた方を憎むとき、あなた方より先に私を憎んでいることを覚えなさい。あなた方が世に属していたなら、世はあなた方を身内として愛したはずです。しかし、あなた方は世に属していない。私があなた方を世から選び出したのです。それで、世はあなた方を憎むのです。

もし、人々が私を迫害するなら、あなた方をも迫害します。事実、私

の名のゆえに、人々はこれらのことをすべてするようになります。それは、彼らが、私を遣わされた方を知らないからです。私が来て世の人々に語らなかったなら、彼らに罪はなかったでしょう。しかし、今は、彼らは自分の罪について言い訳ができません。私を憎む者は、私の父をも憎みます。だれも行ったことのないわざを、私が彼らの間で行わなかったなら、彼らに罪はなかったでしょう。しかし、今は、私の行いを見たうえで、私と私の父を憎んでいます。『人々は理由もなく、私を憎んだ』と、彼らの律法に書いてあることばが成就するためです。」

ペテロのつまずきを預言

イエスと弟子たちは賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなた方は皆つまずきます。聖書にこう書いてあるからです。

『私は羊飼いを打つ。
すると、羊は、散り散りになる。』

しかし、私はよみがえり、あなた方より先にガリラヤへ行きます。」

するとペテロが、「みんながつまずいたとしても、私はつまずきません。」と言った。イエスは言われた。「よく言っておきますが、あなたは、今日、今夜、鶏が鳴く前に、私を知らないと三度言います。」ペテロは力を込めて、「たとえ、ごいっしょに死ななければならなくなっても、あなたのことを知らないとは、決して申しません。」と、なおも言い張った。他の弟子たちも同じことを言った。

捕縛

さて、イエスは弟子たちといっしょにケデロン谷の向こうへ行き、そこにあるオリーブ園に入られた。イエスを裏切ったユダも、その場所を知っていた。イエスが度々弟子たちとここに集まっておられたからである。

ユダは、一隊の兵士と、祭司長やパリサイ派の手下を引き連れて、そこにやって来た。彼らはたいまつやともし火や武器を手にしていた。

ユダは、イエスに口づけしようと近づいた。イエスは、「ユダ、口づけで人の子を引き渡すのか。」と言われた。

すると、イエスの弟子のひとりが剣を抜き、大祭司の手下に切りかかって、片方の耳を切り落とした。そこで、イエスは言われた。「剣をもとに納めなさい。剣をとる者は、剣に滅びる。私が父にお願いして、十二軍団以上の天使を今すぐ送っていただけないと思うのか。しかしそのようなことをすれば、必ず起こると書いてある聖書のことばが、どうして成就されますか。」そして、その人にさわって、耳をいやされた。

そのとき、イエスは群衆に言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って私をつかまえに来たのですか。私は毎日、神殿の境内に座って教えていたのに、あなた方は私を捕えませんでした。これらすべてが起こったのは、預言者たちの書いたことが、成就するためなのです。」ここで、弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げ去った。

*最高議会の審問

人々はイエスを捕えると、大祭司カヤパのところへ連れて行った。そこには、律法学者、長老たちが集まっていた。ペテロは遠くからイエスにつき従い、大祭司の屋敷まで行き、事の成り行きを見ようと、中庭に入って役人たちといっしょに座っていた。

祭司長たちと最高議会の全員は、死刑にしようとしてイエスを訴える口実を探し続けた。多くの偽証人が出たが、証拠は得られなかった。ついにふたりの者が進み出て言った。「この人は、『神の神殿を打ち倒し、三日のうちに建て直すことができる』と言いました。」

そこで、大祭司は立ち上がり、イエスに言った。「何も答えないのか、この人たちがおまえに不利な証言をしているのに。」イエスは黙り続けておられた。大祭司は言った。「生ける神によって私は命ずる。神に誓って我々に答えよ。おまえは神の子、メシヤなのか。」

イエスは言われた。「はい、あなたの言うとおりです。更に、私は言っておきます。

*最高議会　ユダヤ教の律法に関する最高法廷として、死刑を含む判決を下す権限を持っていたが、最終的にはローマ総督の裁断を必要とした。一五一ページの注釈を参照。

あなた方はやがて、
人の子が全能の神の右に座り、
そして天の雲に乗って来るのを、見ます。」

そのとき、大祭司は自分の衣を引き裂いて叫んだ。「神を冒瀆した！これ以上なんの証拠がいろう。今、あなた方は、冒瀆のことばを聞いた。どう思うか。」

人々は答えた。「死刑にすべきだ！」そして、イエスの顔に唾を吐きかけ、殴り、ある者は棒でたたきながら言った。「メシヤよ、言ってみよ。おまえを打ったのはだれだ。」

ペテロの否定

ペテロは外で中庭に座っていた。そこへひとりの女中が来て言った。「あなたもガリラヤのイエスといっしょにいましたね。」ペテロは皆の前でそれを打ち消して、「何を言っているのか、私にはわからない。」と言った。

ペテロが入口の方に行くと、もうひとりの女中が彼に目を留め、そこにいた人々に、「この人はナザレのイエスといっしょでした。」と言った。そこで、ペテロは再びそれを打ち消し、誓って言った。「私はその人を知らない。」

しばらくして、そこに立っていた人々が近寄って来て、ペテロに言った。「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりでそれがわかる。」そこで、ペテロは、「そんな人は知らない。」と言い、呪って誓い始めた。すると、鶏が鳴いた。イエスは振り向き、ペテロをじっと見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度私を知らないと言う。」と言われた主のことばを思い出した。そして外に出て行き、泣きくずれた。

*ピラトの審問

夜が明けると、祭司長たち、民の長老たち一同は、イエスを死刑にするため協議した。そして、イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き

*ピラト　紀元後二十六～三十六年にユダヤ駐在のローマ総督であった。死刑宣告の権限は彼にしかなかった。

渡した。

ピラトが彼らのところへ出て来て言った。「この人に対して何の訴えをするのか。」すると彼らは、「この人が悪いことをしていなかったら、この人をあなたに引き渡しはしません。」と答えた。

ピラトが、「あなた方が引き取って、自分たちの律法に従ってさばきなさい。」と言うと、ユダヤ人たちは、「私たちには、人を死刑に定める権限がありません。」と言った。

そこで、ピラトは官邸に入り、イエスを呼び出して、「あなたはユダヤ人の王なのか。」と言った。イエスは、「あなたがそう言うのは、自分の考えからですか。それとも、ほかの人が私のことをそう告げたのですか。」と答えられた。ピラトは言い返した。「私がユダヤ人だというのか。おまえの国の人と祭司長たちが、おまえを私に引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」するとイエスは、「私の国は、この世のものではありません。もし、私の国がこの世のものであったら、私の部下は私をユダヤ人に渡さないように、戦ったでしょう。実際、私の国はこの世のものではないのです。」と答えられた。そこでピラトが、「それなら、やはり

王なのか。」と言うと、イエスは、「あなたの言うとおり、私は王です。私はこのために生まれ、また真理について証しをするために、世に来たのです。真理につく人は皆、私の声を聞きます。」と答えられた。

ピラトは言った。「真理とは何か。」こう言ってからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て行き、「私はこの人に何の罪も見いだせない。」と言った。すると、彼らは大声でののしり騒いだ。

そこで、ピラトはイエスを連れ出して、鞭で打たせた。兵士たちは茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の衣を着せた。そしてそばにやって来ては、「ユダヤ人の王よ、万歳。」と言って平手で打った。ピラトはまた出て来て、言った。「見よ、この人をあなた方の前に引き出す。私は彼に何の罪も見いだせないことをわかってもらいたい。」

ピラトの努力

ピラトが裁判の席に着いているときに、彼の妻から伝言があった。「あの正しい人に関係しないでください。私は昨夜夢で、その人のことで、

随分苦しみました。」

イエスは茨の冠をかぶり、紫の衣を着て出て来られた。ピラトは、言った。「見よ、この人だ。」祭司長たちや役人たちは、イエスを見ると、「十字架につけろ。十字架につけろ！」と叫んだ。ピラトは、「あなた方が引き取って、十字架につけるがよい。私はこの男に何の罪も認めない。」と言った。ユダヤ人たちは答えた。「私たちには神の律法があります。律法によれば、この人は死罪に当たります。自分を神の子としたのですから。」

ピラトはこのことばを聞くと、ますます恐れた。そしてまた総督官邸に入ってイエスに、「おまえはどこから来たのか」と言った。しかし、イエスは答えようとされなかった。そこで、ピラトは、「私に何も言わないのか。おまえを釈放する権限も、十字架につける権限も、この私にあることを知らないのか。」と言った。イエスは答えられた。「天から与えられていなければ、あなたは私に対して何の権限もありません。それゆえ、私をあなたに引き渡した者の罪は、あなたのよりもっと重い。」それを聞いて、ピラトはイエスを釈放しようと努力した。そしてイエス

を再び外に連れ出し、「敷石」と呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。

死刑

それは過越祭の準備の日で、正午ごろであった。ピラトがユダヤ人たちに言った。「見よ、あなた方の王だ。」すると、彼らは激しく叫んだ。「殺せ。殺せ！十字架につけろ！」ピラトが、「あなた方の王を私が十字架につけるのか。」と言うと、祭司長たちは答えた。「私たちには、皇帝（シーザー）のほかに王はありません！」ピラトは、人々がイエスを引き渡したのは、ねたみのためだとわかっていたが、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動になりそうなのを見た。

それで、水をもって来させ、群衆の前で手を洗って言った。「この人の死について、私には何の責任もない。おまえたちの責任だ。」民衆はいっせいに答えた。「その死の責任は、我々と子孫にかかれ！」

そこで、ピラトは、イエスを彼らに引き渡した。

十字架

彼らはイエスを引き取った。イエスは、ご自分で十字架を背負い、「されこうべの地」、ヘブライ語で「ゴルゴタ」という所へ出て行かれた。彼らは、そこでイエスを十字架につけた。そのとき、イエスとともに強盗がふたり十字架につけられた。ひとりは右にひとりは左に。

ピラトは罪状書きを書き、十字架の上に掲げさせた。それには、「ユダヤ人の王、ナザレのイエス。」と書いてあった。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、その罪状書きを読んだユダヤ人は多かった。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書いてあった。ユダヤ人の祭司長たちがピラトに言った。「『ユダヤ人の王』でなくて、『この人はユダヤ人の王と自称した』と書いてください。」しかし、ピラトは、「私が書いたことは、書いたままにしておけ。」と答えた。

そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのか自分でわからないのです。」

人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。民衆は頭を振りな

がらイエスをののしって言った。「神殿を打ち倒して、三日で建てる者、十字架から降りて自分を救ってみろ。」

祭司長たちも律法学者たちといっしょになって、かわるがわるイエスを笑って言った。「あれは人を救ったのに、自分を救えない。メシア、イスラエルの王、今十字架から降りてもらおうか。それを見たら信じよう。」

兵士たちも近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながらあざけって言った。「ユダヤ人の王なら、自分を救え。」

ひとりの犯罪人

十字架にかけられていた犯罪人のひとりが、イエスをけなした。「おまえはメシヤではないか。自分と我々を救ってみろ。」すると、もうひとりの方が彼をたしなめた。「おまえは同じ刑を受けながら、まだ神を恐れないのか。我々は、自分のしたことの報いを受けているのだから、当り前だ。しかし、この方は何のまちがいもなさらなかった。」そして、

「イエスさま、あなたが王としておいでになるときには、私を思い出してください。」と言った。するとイエスは言われた。「約束する。あなたは今日、私といっしょに天国にいます。」

死

正午から全地は暗くなって、三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか。」という意味である。そこに立っていた人々のうち、これを聞いて、「彼はエリヤを呼んでいる。」と言った人もいた。

そのとき、イエスは大声で「事は完成された！」と叫び、息を引き取られた。すると、神殿の垂れ幕が上から下まで二つに裂け、地が震え、岩々が裂けた。百人隊長やいっしょにイエスの見張りをしていた人たちは、地震やこれらのことを見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の御子だった。」と言った。また、そこでは、多くの婦人たちが遠くから見守って

いた。ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフの母マリヤ、そしてゼベダイの子たちの母がいた。

埋葬

夕ぐれになった。アリマタヤ出身で有力な議員ヨセフが来て、勇気を出してピラトのところへ行った。そして、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出た。彼も神の国を待ち望んでいた人であった。ピラトは、イエスがもう死んだのかと不思議に思い、百人隊長を呼んで、イエスが本当に死んでしまったかどうかを尋ねた。そして、百人隊長からそうと確かめてからヨセフに許可した。ヨセフは亜麻布を買い、イエスを十字架から降ろしてその布で巻き、岩を掘り抜いてあった墓に横たえ、墓の入口には石を転がしておいた。マグダラのマリヤとヨセフの母マリヤは、イエスの遺体が納められた場所を見届けた。

番兵

あくる日、祭司長たちとパリサイ派の人々は、ピラトのところに集まって、こう言った。「閣下、あのうそつきがまだ生きていたとき、『私は三日の後によみがえる』と言っていたのを、私たちは思い出しました。ですから、三日目まで墓を守るように命令してください。さもないと、弟子たちが来て死体を盗み、民衆に、『イエスは死人の中からよみがえった』などと言いふらすでしょう。そうなると、人々は前よりもひどく惑わされることになります。」

ピラトは言った。「番兵を出してやるから、行ってできるだけ見張らせるがよい。」

そこで、彼らは行って墓の石に封印をし、番兵が墓を守った。

岩にくり貫かれた墓

彼（メシア）は進んで自分の魂を注ぎ出し、死んで、罪びとのひとりに数えられた。

イザヤ書　53：12

山上の垂訓の丘（ガリラヤ湖畔）

「‥‥しかし、私は三日の後によみがえります。」イエス・キリスト

マルコによる福音書　10：34

第九章　よみがえり

復活の朝

安息日が終わって、週の初めの日の明け方、マグダラのマリヤともうひとりのマリヤが、イエスの墓をおとずれた。

すると、大地震が起こった。神の天使が天から降って近寄り、墓の入口から石を転がして、その上に座った。その顔は稲妻のように輝き、衣は雪のように白かった。その恐ろしさで、番兵たちは震え上がり、死人のようになった。

天使は婦人たちに言った。「恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜していることはわかっています。あの方は、もうここ

にはおられません。前から言われていたとおり、よみがえられたのです。来て、遺体の置いてあったところを見てごらんなさい。そして早く行って弟子たちにこう告げなさい。『イエスは死人の中からよみがえられた。そして、あなた方より先にガリラヤに行かれ、そこでお目にかかれる。』これをあなた方に告げに来ました。」

婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、天使はまた言った。「確かにあの方は、ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。『人の子は必ず、罪びとどもの手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活しなければならない』と言われたではありませんか。」婦人たちはイエスのことばを思い出した。

婦人たちへの出現

婦人たちは恐れながらも、あふれる喜びで墓を走り去り、弟子たちに知らせるために急いで行った。すると、イエスが行く手に立っていて、

「おはよう」と言われた。婦人たちは近寄って、イエスの前にひれ伏して拝んだ。イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、私の兄弟たちに、ガリラヤへ行くように言いなさい。そこで私に会えるのです。」

婦人たちは墓から帰って、十一人とほかのみんなにすべてを知らせた。ところが、彼らにはこの話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。しかし、ペテロは立ち上がって墓へ走り行き、身をかがめて中をのぞき込んだ。そこには亜麻布のほかに、何も見あたらなかったので、ペテロはこの出来事に驚いて家に帰った。

番兵と祭司長たち

さて、数人の番兵は都に帰り、墓での出来事をすべて祭司長たちに告げた。そこで、祭司長たちは長老たちと集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて言った。「『弟子たちが夜中に来て、我々の眠っている間に死体を盗んで行った』と言いなさい。もしこのことが総督の耳に入っ

たら、我々が総督を説得して、あなた方には迷惑をかけないようにする。」兵士たちは金を受け取って、教えられたとおりにした。この話は、今日までユダヤ人の間に伝わっている。

エマオへの道

ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから六十スタディオン*離れたエマオという村へ向かって歩いていた。彼らはこのすべての出来事を話し合っていた。道々話したり論じたりしていると、イエスご自身が近づいて来て、彼らと連れ立って歩き始められた。しかし、ふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。イエスは、「何のことですか、歩きながら語り合っているのは。」と言われた。ふたりは悲しい顔をして立ち止まり、そのひとりのクレオパという人が答えた。「エルサレムにご滞在なのに、あなただけが近ごろそこで起こったことをご存じないのですか。」イエスが、「どんなことですか」と言われると、ふたりは答えた。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と

*約十二キロメートル。

民衆の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。それなのに、祭司長たちや議員たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけてしまいました。私たちが、この方こそイスラエルを救ってくださるのだ、と望みをかけていましたのに。

そればかりか、そのことがあってから今日で三日目になりますが、仲間の婦人たちが私たちを驚かせました。彼女たちは、けさ早く墓へ行きましたが、イエスのからだが見当たらないので戻って来ました。しかも、天使たちが現れて、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。それで、仲間の何人かが墓へ行って見ますと、婦人たちが言ったとおりで、イエスは見当たりませんでした。」

すると、イエスは言われた。「ああ、物わかりが悪く、心の鈍い者たちよ、預言者たちが説いたことすべてを信じられないとは。メシアはそのような苦しみを受けて、栄光に入るはずではなかったのですか。」そして、イエスは、モーセやすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書かれている事がらを説明された。

目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だっ

た。それで、ふたりが、「私たちのところにお泊りください。そろそろ夕方になり、じきに暗くなりますから」と言って、熱心に頼んだので、イエスは彼らの家に入られた。彼らと食卓に着かれたとき、イエスはパンを取り、感謝の祈りをし、パンを裂いてお渡しになった。その瞬間、ふたりの目が開かれ、イエスだとわかった。それと同時に、イエスの姿は消えるように見えなくなった。

ふたりは、「主が道で話しておられたときも、また聖書を説明してくださったときも、私たちの心は燃えたではないか。」と語り合った。そして、すぐさま出発して、エルサレムに帰った。すると、十一弟子とその仲間が集まっていて、「本当に主はよみがえって、シモンに現れた。」と話しているところであった。そこで、ふたりも、道で起こったことや、パンをお裂きになってイエスとわかったことを説明した。

弟子たちへの出現

こう話しているところへ、イエスご自身が突然彼らの真ん中に立ち、

「あなた方に平安があるように。」と言われた。彼らは驚き恐れて、幽霊を見ているのだと思った。そこで、イエスは言われた。「なぜ、おじけるのか。どうして心に疑いを起こすのか。私の手や足を見なさい。まさしく私です。さわって、よく見なさい。幽霊には肉も骨もないが、ごらんのとおり、私にはそれがあるのです。」こう言って、手と足をお見せになった。彼らがうれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっていると、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか。」と言われた。焼いた魚を一切れ差し上げると、イエスは受け取って、皆の前で食べられた。

イエスは言われた。「私がまだあなた方といっしょにいたときに話したことばはこうです。*モーセの律法と預言者の書と詩篇に書いてある私についての事がらは、必ずすべて成就するということでした。」

全世界へ出て行きなさい

聖書を悟らせるために、イエスは彼らの心の目を開いて、言われた。「次のように記されています。『メシアは苦難を受け、三日目に死人の中

*モーセの律法、預言者の書、詩篇はどれも旧約聖書の一部。

からよみがえる。そして、その名によって罪の赦しを得させる悔い改めの知らせが、エルサレムからはじまって、すべての国の人々に宣べ伝えられる。』と。あなた方はこれらのことの証人です。

私には天と地のすべての権威が与えられています。それゆえ、あなた方は行って、すべての国の人々を私の弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、また、あなた方に命じたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりまで、いつも、あなた方とともにいますから。」イエスはもう一度言われた。「あなた方に平安があるように。父が私を遣わされたように、私もあなた方を遣わします。」そして「聖霊を受けなさい。」と言って、彼らに息を吹きかけられた。

幸いなのは見ずに信じる人

十二弟子のひとりでデドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らといっしょにいなかった。ほかの弟子たちが、「私たちは主にお目にかかった」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘跡を見、

この指を釘跡に入れ、また、そのやりでさされたわき腹の傷跡に、この手を入れてみなければ、私は決して信じません。」

八日の後、弟子たちはまた家の中にいた。トマスもいっしょであった。戸にはみな鍵がかけてあるのに、突然、イエスが来て真ん中に立ち、言われた。「あなた方に平安があるように。」そして、トマスに言われた。「あなたの指をここに当て、私の手を見なさい。あなたの手を出し、私のわき腹に入れなさい。不信はやめて、信じる者になりなさい。」

トマスは、「わが主よ。わが神よ！」と答えた。イエスはトマスに言われた。「私を見たから信じるのですか。幸いなのは見ないのに信じる人です。」

昇天

イエスは苦難を受けた後、このように、ご自分が生きていることを、数多くの証拠をもって信者たちに示し、四十日にわたって度々現れ、彼らに神の国のことを語られた。また、彼らに命じられた。「全世界に出

て行き、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。」

イエスは、その後、彼らを連れて行き、手を上げて祝福された。そして、彼らの見ているうちに高く上げられ、雲に迎えられて彼らの目から見えなくなった。

イエスが昇って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い衣を着たふたりの方が、突然、そばに立っていた。そして、言った。「ガリラヤの人たち、なぜ空を見上げて立っているのですか。あなた方のところから天に上げられたイエスは、天に行かれた同じ様子で、またおいでになります。」信者たちは、そのオリーブ山からエルサレムに戻って来た。この山はエルサレムに近いところにある。

その後、信者たちは出て行って、至るところで神の国の福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、彼らの伝道のことばに伴う奇跡によって、そのことばが確かなものであることを示された。

この書物には記されていないが、ほかにも数多くの奇跡を、イエスは

ギルボア山にて

弟子たちの前でなさった。しかし、これらのことを特に書いたのは、あなた方がイエスは神の子、メシアであると信じるためであり、またそう信じてイエスの名によっていのちを受けるためである。

「幸いなのは、見ないのに信じる人です。」
イエスキリスト
ヨハネによる福音書　20：29

イチジクの実（ピリポカイザリヤ）

いのちの木への権利を与えられ、また都への門を通る特権を得るために、
自分の衣を洗い清める人は幸いである。

ヨハネの黙示録　22：14

第十章　時は迫っている

「ヨハネの黙示録」より

イエス・キリストが昇天されたあと、紀元一世紀の後半、キリスト信者は激しい迫害を受けていました。イエスの弟子ヨハネも、イエスをキリストであると証しし、神のことばを宣べ伝えたため、地中海のパトモスという島に流されました。神はヨハネに、これから全世界に起こることを幻*の中で啓示してくださったのです。今は、キリスト信者であるために苦しい目に会わされていても、必ず報われる時が来る、悲しみも苦しみもない新しい世界が来ると、励まして喜びを与えてくださっているのです。この神の御ことばが「ヨハネの黙示録」です。

*幻　二二ページの注釈を参照。

時は迫っている

イエス・キリストの黙示。この黙示は、間もなく起こるべきことを、神がその信者たちに示すように、キリストにお与えになったものである。キリストは天使を遣わして、弟子ヨハネにお示しになった。ヨハネは、自分に見せられた神のことばとイエス・キリストの証しをしたのである。

幸いなのは、この預言のことばを人々に読み聞かせる人と、これを聞いて、ここに書いてあることを守る人たちである。時が迫っている。

イエス・キリストは、
私たちを愛し、ご自分の血によって
私たちを罪から解放してくださった。
私たちに王国を与え、
父なる神に仕えるものとしてくださった方、

イエス・キリストに、
栄光と力が永遠から永遠にありますように。アーメン。

見よ、この方が雲とともに来られる。

すべての人の目が彼を仰ぎ見る、
特に、彼を突き刺した者たちは。
地のすべての民は、彼のために嘆き悲しむ。
そのとおりである。アーメン。

神である主、今おられ、以前からおられ、後に来られる方、全能者がこう言われる。「私は初めであり、終わりである。」

人の子の出現

私ヨハネは、あなた方の兄弟であり、あなた方とともに、イエスの御国を待ち望み、イエスの苦難を耐え忍んでいるものである。私は、神のことばとイエスの証しのゆえに、パトモスという島にいた。ある日曜日のことである。私が聖霊に満たされていたとき、後ろの方で大きな声を聞いた。まるでラッパの響きのようで、その声はこう言った。「あなたの見ることを巻物に書きなさい。」

そこで、私は語りかける声の主を見ようとして振り向いた。そこに見

えたのは、七つの金の燭台であった。燭台の間には、人の子のような方が、足までたれた長い衣を着て、胸に金の帯を締めているのが見えた。その頭と髪の毛の白さは純白の羊毛や雪のよう、目は燃え盛る炎のよう、足の輝きは炉で熱せられたしんちゅうのよう、声は大水のとどろきのようであった。右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出て、顔は強く照り輝く太陽のようであった。

その方を見たとき、私は、死人のようにその足もとに倒れた。すると、その方は右手を私の上に置いて言われた。「恐れるな。私は最初であり、最後であり、今、生きている者である。かつて死んだが、今、永遠に生き、死と地獄の鍵をにぎる。あなたが見たこと、今あること、これから起こることを書き記しなさい。

勝利を得る者には

耳のある者は、聖霊が言うことをよく聞きなさい。勝利を得る者には、神の天国（パラダイス）にあるいのちの木の実を食べさせよう。

耳のある者は、聖霊がいうことをよく聞きなさい。勝利を得る者は、決して第二の死によって滅ぼされることはない。

勝利を得る者は、白い衣を着せられる。私は、その人の名を決していのちの書から消すことはなく、その名を私の父と天使たちの前で認めて、言い表す。

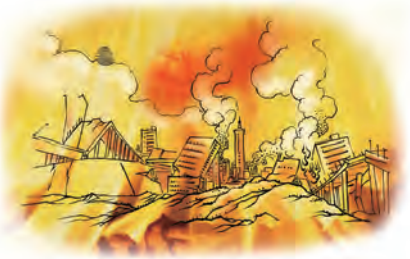
真実で確かな方、忠実で真の証人、神の創造の源である方が、次のように言われる。『あなたは、自分は豊かになった、満ち足りている、何一つ足りないものはない、と言っているが、自分が惨めで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸であることがわかっていない。私の愛する者を、私はひとり残らず叱ったり、懲らしめたりする。それゆえ、熱心に悔い改めなさい。見よ、私は戸口に立って、心の扉をたたいている。だれでも、私の声を聞いて扉を開けるなら、私はその人の内に入り、私は彼と、彼は私と、食事をともにする。』

勝利を得る者には、私は自分の座にともにすわらせよう。私も勝利を得、私の父とともにその御座にすわったように。耳のある者は、聖霊が言うことをよく聞くがよい。」

天の王座

その後、私は見た。見よ、天に開かれた門があった。ラッパのように私に呼びかけたあの最初の声が言った。「ここへ上って来なさい。これから必ず起こることを、あなたに示してあげよう。」そのとき私は、たちまち聖霊に満たされた。

すると、天に王座があって、その王座の上にすわっている方が見えた。その方は、見たところ碧玉や赤しまめのうのようであり、王座の周りに輝く虹がエメラルドのようであった。また、その王座の周りに二十四の座があって、それらの座には二十四人の長老たちがすわっていた。彼らは白い衣を着て、頭に金の冠をかぶっていた。王座からは、稲妻、さまざまなとどろきと、雷が起こり、七つのともし火が王座の前で燃えていた。これは神の七つの霊である。王座の前は、水晶に似たガラスの海のようであった。二十四人の長老たちは、王座に着いている方の前にひれ伏して、永遠から永遠に生きておられる方を拝み、自分たちの冠を王座の前に投げ出して言った。



「主である私たちの神よ。
あなたが、
栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。
あなたが、万物を創造し、
すべては、あなたの御心によって存在し、
また造られたのです。」

天変地異

また、見ていると、地上に大地震が起こり、太陽は毛の喪服のように黒くなり、月は全面血のようになり、天の星は地上に落ちた。それはちょうど、いちじくの木が大風に揺られて、青い実を振り落とすようであった。天は巻物が巻かれるように消え去り、すべての山と島は、その場所から移された。地上の支配者たち、権力者、将軍、金持ち、有力者、あらゆる奴隷と自由人が、洞穴や山の岩陰に隠れ、山や岩に向かって言った。「私たちの上に落ちて、王座におられる方の顔から、小羊の怒りから、

私たちをかくまってくれ。神と小羊の大いなる怒りの日が来た。だれがそれに耐えられよう。」

白い衣を着た大群衆

この後、私が見ていると、見よ、だれにも数えきれないほどの大群衆がいた。彼らはあらゆる国民、種族、民族、言語の違う民の中から集められた人々で、王座の前に、小羊の前に立っていた。彼らは白い衣を着、しゅろの枝を手にして大声で叫んで言った。

「救いは、王座にいます私たちの神にあり、小羊にある。」

すべての天使は王座と長老たちの周りに立っていた。そして王座の前にひれ伏し、神を拝んで言った。

「アーメン。賛美と、栄光と、知恵と、
感謝と、誉れと、勢力と、権力が、
永遠から永遠に私たちの神にありますように。
アーメン。」

長老のひとりが私にたずねて言った。「この白い衣を着た人たちはだれですか。どこから来たのですか。」そこで、私は、「あなたこそ、ご存じではありませんか。」と答えた。

すると、長老が私に言った。「この人たちは大きな苦難を通って来た人々で、その衣を小羊の血で洗って白くした。それゆえ、彼らは神の王座の前にいて、昼も夜も神に仕えている。王座におられる方が、彼らとともに住まわれる。彼らは、もはや飢えることも、渇くこともなく、暑い太陽も、どのような炎熱も、彼らを襲うことはない。それは、王座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、いのちの水の泉へと導き、神が彼らの目からすべての涙をぬぐわれるからである。」

天使のラッパ

それから、私は神の御前に立っている七人の天使を見た。彼らには七つのラッパが与えられた。彼らはラッパを吹く用意をした。

第一の天使がラッパを吹き鳴らした。すると、血の混じった雹と火と

が現れて、地上に投げつけられた。そして、地上の三分の一が焼け、木の三分の一が焼け、青草はすべて焼けてしまった。

第二の天使がラッパを吹き鳴らした。すると、火で燃える大きな山のようなものが、海へ投げ込まれた。そして、海の三分の一が血になり、海の生き物の三分の一は死に、すべての船の三分の一が壊された。

第三の天使がラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えている大きな星が、空から落ちて来て、すべての川の三分の一と、その水源に落ちた。その星の名は「苦よもぎ」といわれ、水の三分の一が苦くなった。その水のために多くの人が死んだ。

第四の天使がラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一、月の三分の一、すべての星の三分の一が打たれ、これらの三分の一が暗くなり、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。

私がまた見ていると、一羽の鷲が中空を飛びながら、大声でこう言うのを聞いた。「災いが来る。災いが来る。地に住む人々に災いが来る。あと三人の天使がラッパを吹き鳴らそうとしている。」

第五のラッパ

第五の天使がラッパを吹き鳴らした。すると、私は天から地上へ落ちた一つの星を見た。この星に、底知れぬ穴を開く鍵が与えられた。その星が底知れぬ穴を開くと、大きな炉から出るような煙が、穴から立ち上り、太陽も空もこの穴の煙によって暗くなった。その煙の中から、いなごの群れが地上へ飛び出して来た。そのいなごには、地のさそりの持つような権力が与えられた。彼らは、地の草や木、どんな植物にも害を加えないで、ただ、額に神の印を持っていない人に害を加えるように言い渡された。しかし、人を殺すことは許されず、五か月の間苦しめることが許された。いなごの与える苦痛は、さそりに刺されたときのような苦痛であった。その期間、人間は死にたいと思うが、死ぬことができず、切に死を望むが、死が彼らから逃げて行く。

第一の災いが過ぎ去った。見よ、この後、なお二つの災いがやって来る。

第六のラッパ

第六の天使がラッパを吹き鳴らした。すると、私は神の御前にある金の祭壇の四つの角から出る声を聞いた。その声は、ラッパを持っている第六の天使に言った。「大ユーフラテス川のほとりにつながれている四人の天使を解放せよ。」すると、四人の天使は、人類の三分の一を殺すために解き放された。この天使たちは、その定められた年、月、日、時間のために用意されていたのである。その騎兵の軍勢の数は二億。その数を私は聞いた。

私が幻の中で見た馬とその騎士たちの様子はこうであった。彼らは、炎のような赤、煙のような紫、および燃える硫黄の色の胸当てをつけており、その馬の頭は獅子の頭のようで、口からは火と煙と硫黄が出ていた。その口から出る火と煙と硫黄の三つの災害で人類の三分の一が殺された。馬の力はその口と尾にあって、尾は蛇に似て頭があり、それで害を加えるのである。

しかし、これらの災害に遭っても殺されなかった残りの人間は、自分

の手のわざについて悔い改めず、なおも偶像を拝み続けた。悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像の礼拝をやめなかった。また、殺人、まじない、淫らな行い、盗みを悔い改めなかった。

それから、私は見た。海と地の上に立った天使が、右手を天に上げ、永遠に生きておられ、天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを創造された方にかけて誓った。「もはや時は延ばされない。第七の天使のラッパの音が響くとき、神の奥義が成就する。それは、神がご自分の預言者たちに福音として伝えられたとおりである。」

第七のラッパ

第七の天使がラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々があり、こう言った。

「この世の王権は、我らの主と、
そのキリストのものとなった。

主は永遠に王である。」
神の御前で、座に着いていた二十四人の長老たちは、ひれ伏して神を
拝んで言った。
「あなたに感謝します。
今おられ、かつておられた方、
主なる全能の神よ、
あなたは偉大な力を働かせて、
統治されたからです。
諸国の民は怒り狂いましたが、
あなたの御怒りの日が臨み、
死んだ者のさばかれる時が来ました。
あなたに仕えた預言者たち、
聖徒たち、あなたを畏れる人々すべてに、
――大いなる者にも小さき者にも――
報いをお与えになり、
地を滅ぼす者どもを

滅ぼされる時が来ました。」

最後のさばき

私はまた、大きな白い王座と、それに座っておられる方とを見た。今の天と地とはその御前から逃げて行き、すでにそこには無かった。私はまた、死んだあらゆる人々が、――偉大な者も小さき者も――王座の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれた。もう一つの書物が開かれた。それはいのちの書である。死んだ人々は、これらの書物に記されたことに基づき、自分の行いに応じてさばかれた。

海はその中にいた死人たちを出した。死も黄泉もその中の死人たちを出した。そして、彼らはおのおの自分の行いに応じてさばかれた。それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。いのちの書にその名が記されていない者は、すべて、火の池に投げ込まれた。

すべてを新たに

それから私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と、以前の地は消え失せ、もはや海もない。そして私は聖なる都、新しいエルサレムが、神のみもとを出て、天から降って来るのを見た。それはちょうど、用意を整えて、夫のために着飾った花嫁のような美しさである。

そのとき、私は王座からの大声がこう言うのを聞いた。「見よ、神の住まいが人の間にあって、神は人とともに住む。人は神の民となり、神ご自身が彼らといっしょにおられる。そして、彼らのすべての涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも嘆きも苦しみもない。先のものは過ぎ去ったからである。」

すると、王座に着いておられる方が言われた。「見よ、私はすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは、信ずべきものであり、また真実である。」また、私に言われた。「事は完成された。私は初めであり、終わりである。渇いている者には、いのちの水の泉からただで飲ませよう。勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐ。私は

その人の神となり、その人は私の子となる。しかし、おくびょうで私に従わない者、不信仰な者、忌まわしい者、人殺し、性的に淫らな者、まじないをする者、偶像を拝む者、すべてのうそつき、このような者たちの受ける分は、火と硫黄の燃え盛る池である。これが、第二の死である。」

新しいエルサレム

さて、天使のひとりが来て、私に話しかけた。「来なさい。小羊の妻である花嫁を見せましょう。」この天使が、聖霊によって私を大きな高い山に連れて行き、聖なる都、新しいエルサレムが神のみもとを出て、天から降って来るのを見せた。都は神の栄光に輝いていた。その輝きは、高価な宝石のようであり、透き通った碧玉のようであった。都には、大きな高い城壁と十二の門があり、門には十二人の天使がいた。十二の門は十二の真珠であった。そして、どの門もそれぞれ一つの真珠でできていた。都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であった。

私は、都の中に神殿を見なかった。主である全能の神と小羊とが都の神殿だからである。都には、それを照らす太陽も月も要らない。神の栄光が都を照らし、小羊が都の明かりだからである。諸国の民は、その光の中を歩み、地の王たちはその栄光を携えて来る。都の門は、一日中決して閉ざされない。そこには夜がないからである。人々は、諸国の民の栄光と誉れとを携えて来る。しかし、すべて汚れた者、不潔なことや偽りを行う者はだれひとり、決して都に入れない。入れるのは小羊のいのちの書に名が記されている者だけである。

いのちの川

天使はまた、水晶のように輝く、いのちの水の川を私に見せた。それは神と小羊の王座から流れ出、都の大通りの中央を流れていた。川の両岸にはいのちの木があって、十二種の実を結び、毎月実をみのらせる。その木の葉は諸国の民をいやす。もはや、呪われるものは何一つない。神と小羊の王座が都にあり、彼のしもべたちは彼を拝み、御顔を仰

ぎ見る。彼らの額には、神の名が記されている。もはや、夜がない。ともし火の光も太陽の光も要らない。神である主がしもべたちを照らされるからである。彼らは世々限りなく王として支配する。天使は私にこう言った。「これらのことばは、信ずべきものであり、真実です。預言者たちに霊感を与える神、主が、間もなく起こるべきことを、ご自分のしもべたちに示すために御使いを遣わされたのです。」

時は近い

「見よ、私はすぐに来る。この書物の預言のことばを守る者は、幸いである。」私ヨハネは、これらのことを聞き、また見た。聞き、また見たとき、このことを私に示してくれた天使の足もとにひれ伏して、彼を拝もうとした。すると、天使は私に言った。「それはいけない。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書物のことばを守っている人たちと同様、仕える者です。神をこそ拝みなさい。」

また、私に言った。「この書の預言のことばを、隠しておいてはい

けない。時が近いからです。不正を行う者は、さらに不正を行い、汚れた者は、ますます汚れたものとなり、正しい人は、さらに正しいことを行い、聖い者は、ますます聖い者となりなさい。」

主イエスよ、来てください

「見よ、私はすぐに来る。私は、報いを携えて来て、それぞれの行いに応じて報いる。私は最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」

いのちの木への権利を与えられ、また都への門を通る特権を得るために、自分の衣を洗い清める人は幸いである。しかし、下劣な者、まじないをする者、淫らなことをする者、殺人者、偶像を拝む者、すべてうそを好み、行う者どもは皆、都から締め出されている。

「私、イエスは使いを遣わして、諸教会のためにこれらのことをあなた方に証しした。私はダビデ王の子孫、またその根源、輝く明けの明星である。」

聖霊も私たちも言う。「来てください。」これを聞く者も言うがよい、「来てください」と。渇いている者は来なさい。いのちの水を飲みたい人は、それをただでいただきなさい。

この書の預言のことばを聞くすべての人に、私は警告する。もしだれかがこれに付け加えるなら、神はその人にこの書に書かれている災いを付け加えられる。もしだれかがこの預言の書のことばから少しでも取り除くなら、神は、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。

以上これらすべてを証しする方が、言われる。「そのとおりである。私はすぐに来る。」

アーメン、主イエスよ、来てください。

主イエスの恵みが、すべての*聖徒たちとともにあるように。アーメン。

＊聖徒　キリスト信者のこと。キリストを信じることによって、彼の血で罪が清められた、という意味での「聖なる者」。

キラウェア火山　（ハワイ）

その日、天は大きな響きをたてて消え失せ、天体は燃えて崩れ、
地とそこで造り出されたものは溶け去ってしまいます。
ペテロの手紙第Ⅱ　3：10

第十一章　世の終わり、希望

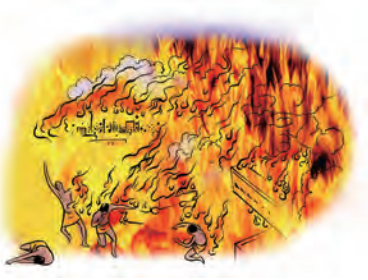
一世紀の後半、イエスの弟子たちや多くの信者たちは、世界中へ福音を宣べ伝えるために、伝道をしていました。当時、キリストを信じるようになった各地の信者たちの信仰を強め、また励ますために、イエスの弟子たちは、数々の手紙を書きました。弟子たちのこれらの手紙をとおして語られた神のことばが、新約聖書の二十一通の手紙です。本書の第十一章～第十四章はこの手紙の抜粋です。

「使徒ペテロからの手紙」より

終わりの時代

愛する方々、私は今、あなた方に二度目の手紙を書いていますが、それは、これらの手紙で、すでに知っていることを思い起こさせ、あなた方の純真な気持ちをおこそうとしているのです。更に、聖なる預言者たちがかつて語ったことばと、使徒たちが伝えた主であり救い主であるイエスの命令を思い出してもらうためです。

まず、次のことを覚えておきなさい。世の終わりの時代には、欲情のままに生活して、真理をあざける者たちが現れ、こう言います。「イエスが再臨するという約束は、いったいどうなったのだ。」と。すなわち、次のことを認めようとしないのです。古い昔から天があり、地は神のことばによってでき、また、当時の世界は洪水に押し流されて滅びました。そして、現在の天と地とは、火で焼かれるために、同じ御ことばによって保たれ、不信の人々のさばきと滅びの日まで取っておかれています。



愛する方々、このことを忘れないでください。主にとっては、一日は千年のようで、千年は一日のようです。ある人々が遅いと思っているように、主は約束の実行を遅らせておられるのではありません。主はあなた方に寛容であられ、ひとりも滅びないで皆が悔い改めるようにと望んでおられるのです。

主の日は突然来る

主の日は盗人のように襲って来ます。その日、天は大きな響きをたてて消え失せ、天体は燃えて崩れ、地とそこで造り出されたものは溶け去ってしまいます。

このように、すべてのものは滅び去るのですから、あなた方は聖い信心深い生活を送らなければなりません。神の日の到来を待ち望み、また、それが来るのを早めるようにすべきです。その日に天は焼け崩れ、天体は燃えて跡形も無くなってしまいます。しかし、私たちは神の約束をお受けして、正義の宿る新しい天と新しい地とを、待ち望んでいるのです。

そういうわけで、愛する方々、このことを待ち望んでいるあなた方ですから、しみも汚れもない者として、安らかな心で神の前に生きることができるように、励みなさい。また、私たちの主の忍耐こそ、救いと思いなさい。

「使徒パウロからの手紙」より

永遠への希望

愛する*兄弟たち。**死んだ人たちについて、ぜひ次のことを知ってほしい。希望を持っていない他の人々のように悲しみに沈むことのないためです。

というのは、イエスが死んでよみがえられたことを、私たちは知っているからです。そして、イエスのゆえに、神は同じように、イエスを信じて死んだ人たちをも、いっしょによみがえらせてくださるのです。神の御ことばに基づいて、次のことを伝えます。すなわち、合図の号

*兄弟　キリストを信じる者は互いに兄弟（婦人は姉妹）と呼び合う。

**死んだ人たち　直訳「眠りについた人々」。

令と、大天使の声と、神のラッパが鳴り響くと、イエスご自身が天から降って来られます。すると、イエスを信じて死んだ人たちが、まず初めによみがえり、次に、私たち生き残っている者が、彼らといっしょに雲に包まれて引き上げられ、天で主にお会いするのです。こうして、私たちはいつまでも主とともにいるようになります。それゆえ、これらのことばで互いに慰め合ってください。

神の報い

兄弟たち、主の日の日時については、だれも予告できません。よくご承知のとおり、主の日は夜の盗人のように突然やって来ます。人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのときに、突然、破滅が襲うのです。それは妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、決してそれから逃れられません。

主イエスが天から力強い天使たちを率いて来られるとき、神は人々に報いをお与えになります。そのとき主イエスは、炎の中に姿をお見せし

ます。そして神を認めない者や、主イエスの福音に聞き従わない者に、罰をお与えになります。彼らは、主の御前から絶たれ、その栄光に輝く力から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。

にせキリストの出現

兄弟たちよ。私たちの主キリスト・イエスの再臨と、イエスがみもとに私たちを集められることについてお願いします。霊によって、ことばによって、あるいは、私たちから書き送られたという手紙によって、「主の日はすでに来てしまった」と言う者がいても、すぐに動揺したり、うろたえたりしないでください。だれにも、どんなことがあってもだまされてはいけません。

なぜなら、まず、多くの信者が信仰をなくすときが来ます。また「不法の者」、すなわち、滅びの子が出現しなければその日は来ないからです。この者は、すべて神と呼ばれたりするもの、拝まれたりするものに対抗し、傲慢にふるまって、ついには、ユダヤ人の神殿に座り込み、自

*「不法の者」　にせキリスト。聖書にはこの人が世の終わりに全世界を統一すると預言されている。

分こそは神であると宣言します。私がまだあなた方のもとにいたとき、これらのことをよく話したのを思い出しませんか。

今は、彼が定めの時に現れるように、彼を引き止めるものがあります。すでに不法の奥義が働いていますが、それは単に今の阻止者が除かれる時までのことです。その時になると、「不法の者」が現れますが、主イエスはご自分の口の息で彼を殺し、来臨の輝きをもって直ちに滅ぼしてしまわれます。「不法の者」の現れは、悪魔の働きによるのであって、あらゆる偽りの力、奇跡、不思議を行い、そして、あらゆる不義の誘惑を用いて、滅びていく人々を欺くのです。彼らが滅びるのは、自分の救いとなる真理と愛を受け入れようとしないからです。それで、神は彼らに迷いの力を送られ、人々は偽りを信じるようになります。それは、真理を信じないで悪を喜ぶ者が皆、さばかれるためです。

しかし、兄弟たち、あなた方は暗闇の中にはいませんから、主の日が、盗人のようにあなた方を襲うことはないのです。あなた方はすべて光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗闇のものではありません。それで、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まし、自制

して慎んでいましょう。

新しいからだでよみがえる

私たちの国籍は天にあります。そこから救い主、キリスト・イエスが来られるのを、私たちは待っています。キリストは、万物を従わせる御力によって、私たちの卑しい体を、ご自分と同じ栄光ある姿に変えてくださるのです。

しかし、ある人はこう言います。「死者はどんなふうに復活するのか。どんな体で来るのか。」と。愚かな人！あなたが蒔くものは、死ななければいのちを得ないではありませんか。あなたが蒔くのは、やがてできるからだではなく、麦でも他の穀物でも、ただの種粒です。神は、御心のままに、それにからだをお与えになり、それぞれの種に独特のからだをお与えになります。生き物も、皆どれも同じというわけではなく、人間、獣、鳥、魚と、それぞれ違います。また、天上のからだがあり、地上のからだがあります。天上のものの栄光は地上のものの栄光と異

なっています。太陽の輝き、月の輝き、星々の輝きがあり、ある星と他の星も輝きが違います。

死人の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものですが、朽ちないものによみがえり、蒔かれるときは卑しいものですが、栄光あるものによみがえり、蒔かれるときは弱いものですが、力強いものによみがえるのです。自然のからだで蒔かれ、天に属するからだによみがえるのです。自然のままのからだがあるように、自然を超越したからだもあるのです。

兄弟たち、私はこう言いたいのです。生まれながらのからだは神の国を受け継ぐことはできません。朽ちるものが朽ちないものを受け継げないのです。

ある人は死なない

私はあなた方に奥義を告げます。私たちのある人は死なず、新しい状態に変えられます。それは、最後のラッパが鳴り響くとき、たちまち、

一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死人は復活して朽ちない者とされ、私たち生き残った者は変えられます。それで、この朽ちるものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るのです。このとき、次のように書かれていることばが成就するのです。

「死は勝利に呑まれた。
死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。
地獄よ、おまえの力はどこにあるのか。」

私たちの主キリスト・イエスによって私たちに勝利を賜る神に、感謝しましょう！

それゆえ、愛する兄弟たち、動かされないようにしっかり立ち、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。ご存じのとおり、あなた方の労苦は、主にあっては決して無駄ではありません。

「使徒ユダ*からの手紙」より

にせキリスト信者の出現

親愛な方々、主キリスト・イエスの使徒たちによって、私たちに予告されたことばを思い出してください。彼らはこう言いました。「終わりの時代には、あざける人々が現れ、不信な欲望のままに生活する。」と。この人たちは、信者の間に仲間割れを引き起こし、生まれつきのままの人間で、聖霊を持たない人たちです。彼らのためには、永遠の真っ暗な闇が用意されています。

アダムから数えて七代目のエノクも、このような人々についてこのように預言しました。「見よ、主は数知れない聖徒たちを引き連れて来られる。それは、すべての人をさばくためであり、また、不信な生き方をした者たちが神を畏れないでしたいっさいのことと、また、神を畏れないで主に言い逆らったいっさいのことについて、彼らを罪に定めるためである。」

＊ユダ　イエスの実兄弟のユダ。イエスを裏切ったイスカリオテのユダではない。

このような人々は、不平を言う者、不満を鳴らす者で、欲望のままに生活しています。その口は大きなことを言い、自慢もすれば、自分が得をするために人にへつらいのことばを言うのです。

しかし、親愛な方々、あなた方は最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ、聖霊によって祈り、神の愛のうちに自分を守り、私たちの主キリスト・イエスが永遠のいのちへ導く憐れみを待ち望みなさい。

「パウロからテモテへの手紙」より

終わりの時代の人々の有様

終わりの時代には困難な時期が来ることを知ってもらいたい。そのとき、人々は自分自身を愛し、金銭を愛し、ほらを吹き、高慢になり、神をあざけり、両親に逆らい、感謝を知らず、神を畏れなくなり、情けを知らず、和解せず、中傷し、無節制になり、粗暴になり、善を嫌い、人を裏切り、軽率になり、うぬぼれ、神よりも快楽を愛し、信心深く装い

ながら、その実を否定するようになります。また、いつも学んではいるが、いつになっても真理の認識に達することができません。

耐え忍びなさい

しかしあなたは、私の教え、生き方、目的、信仰、寛容、愛、忍耐に従い、アンテオケ、イコニオム、ルステラで私にふりかかったような迫害と苦難によくついて来ました。何というひどい迫害に私は耐えて来たことでしょう。しかし、主はいっさいのことから私を救い出してくださいました。

確かに、キリスト・イエスに従って信心深く生きようとする人は皆、迫害されます。しかし、悪人や詐欺師は、だましだまされながら、ますます悪へと落ちていきます。けれどもあなたは、自分が学んで確信したことにとどまってください。あなたは、それをだれから学んだかを知っているからです。

エチオピアの難民キャンプ

罪の結果は死です。しかし、神が無償で与えてくださる贈物は、
私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。

ローマの信者への手紙　6：23

第十二章　キリストの救い

パウロの手紙より

福音の力

キリスト・イエスの福音は、どの国の人々にも、信じる者すべてを救う神の力です。それゆえ、私は福音を恥としません。福音には、神の義が示されています。しかし、その義は、初めから終わりまで信仰をとおして実現されるのです。「信じて義人となった人は生きる」と書いてあるとおりです。

「*十字架のことば」は滅び行く人々にとっては愚かなものですが、救われる私たちにとっては、実に神の力なのです。聖書にこう書いてあり

*「十字架のことば」　神の子キリストが十字架の死により、人類に罪の赦しを与えた福音。

ます。

「私（神）は、知者の知恵を打ち壊し、
賢い者の賢さをむなしいものにする。」

どこに知者がいる。どこに学者がいる。どこにこの世の賢人がいますか。神はこの世の知恵を愚かになさったではありませんか。事実、世の人々が自分の知恵で神を知ることができないのも、神の知恵によるものです。そこで神は、宣べ伝えられることばの愚かさをとおして信じる人を救おうと、定められたのです。

ユダヤ人は奇跡やしるしを求め、ギリシヤ人は知恵を追求しますが、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。それは、ある人にとってはつまずき、他の人にとっては愚かなものでしょうが、私たち神に招かれた者には、だれであろうと、神の力、神の知恵です。なぜなら、神によるこの愚かさは人よりも知恵があり、神によるこの弱さは人よりも強いからです。

罪の根源

さて、人々のあらゆる不信と不義に対して、神の怒りは天から示されます。人々は真理を不義で押えています。そもそも神について知りうることがらは人々に明らかです。それは、神が示されたからです。目に見えない神の性質、すなわち神の永遠の力と神性は、天地創造のときから、被造物のうちにはっきりと現れており、人によく知られています。したがって、人々は弁解ができません。なぜなら、神を知りながら、神として崇めることもせず、また、感謝することもしません。かえって、その思いはくだらなくなり、無知な心は暗くなりました。自分では賢いと言いながら愚かになり、永遠なる神の栄光を、滅び行く人間や、鳥、獣、這うものなどの偶像と取り替えてしまいました。

そこで神は、彼らの欲情のままに不潔をなすにまかせられ、彼らは互いにその体を汚すようになりました。それは、彼らが神の真理を偽りと取り替え、創造主の代わりに造られたものを拝み、これに仕えたからです。創造主こそ、永遠にほめたたえられる方です。アーメン。

人の罪

それで、神は彼らを恥ずべき情欲にまかせられました。女性は自然な関係を不自然なものに変え、同じく男性も、女性との自然な関係を捨てて、互いに情を燃やし、男と男とがけがらわしいことを行い、その乱れた行いの当然の報いを身に受けています。

更に、人は神を認めようとしないので、神は彼らを堕落した思いに引き渡され、それで、彼らはしてはならないことをするようになりました。人は、あらゆる不正、悪、むさぼり、悪念に満ち、ねたみ、殺意、不和、うそ、邪念にあふれ、人の陰口を言い、人をそしり、神をうらみ、人を侮り、高慢であり、自慢をし、悪事をはかり、親に逆らい、無知、不誠実、無情、無慈悲です。また、このようなことを行えば死に当たるという神の定めを知りながら、自分でそれを行うばかりか、それを行う人に心から同意しています。

神を甘くみるな

それゆえ、他人をさばく人よ、あなたは言い訳できません。あなたは、他人をさばくことによって、実は自分自身を罪に定めています。さばくあなたも同じことをしているからです。私たちは知っています、神はこのようなことを行う者を、真理に従って正しくおさばきになるということを。

考えなさい、このようなことをする人々をさばき、自ら同じことをする人よ、あなたは神のさばきを逃れるのでしょうか。それとも、神の憐れみがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを甘くみるのですか。頑固な、悔い改めない心によって、あなたは神の正しいさばきの現れる御怒りを、自分のために積み上げています。

神は一人ひとりに、その行いに従ってお報いになります。すなわち、忍耐をもって善を行い続け、神からの栄光と誉れと不滅とを求める者には、永遠のいのちをお与えになり、私欲や反抗心にかられ、真理に従わ

ないで不義に従う者には、怒りと憤りをお与えになります。すべて悪を行う者には、どのような人であろうと、患難と苦悩が与えられ、すべて善を行う者には、だれであろうと、栄光と誉れと平安が与えられます。神には偏見がないからです。

正しい人はいない

次のように、預言者が書いたとおりです。

「正しい人はいない。ひとりもいない。
悟る人はいない。神を求める人もいない。
すべての人が神から迷い出て、
だれもかれも無益な者となった。
善を行う人はいない。ただのひとりもいない。
人の喉は開いた墓のようであり、
舌で他人を欺き、
その唇にはまむしの毒がある。

人の口は、呪いと苦々しさで満ちている。
その足は血を流すのに速く、
その道には破壊と悲惨がある。
人は平和の道を知らない。
その心には神への畏れがない。」

このように、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっています。しかし、神の恩恵により、キリスト・イエスの贖いのおかげで、無償で義とされるのです。

信仰による義

神はキリストをその十字架の血によって、信じる人のために罪を償う供え物となさいました。

実に、主イエスを死人の中からよみがえらせた方を信じれば、私たちは義と認められます。イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義とされるために、よみがえられたからです。

このように、私たちは信仰によって義とされたのですから、神に対して平和を得ています。これは主キリスト・イエスのおかげです。キリストのおかげで私たちはこの恩恵へ、信仰によって導き入れられました。そして神の栄光への希望を誇りにしています。

神の恩恵

実にキリストは、私たちが弱かったときに身代りになってくださいました。私たちが神に逆らっていたころ、定められた時に、キリストは死んでくださいました。正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。恩人のためにはいのちを惜しまない者が、あるいはいるかもしれません。しかし、私たちがまだ罪びとであったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに愛を示されました。

このように、私たちはすでにキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。私たちが神の敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解さ

せていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子のいのちによって救われるのはなおさらのことです。そのうえ、主キリスト・イエスによって今や和解をいただいた私たちは、キリストによって神を誇るのです。

罪の結果は死です。しかし、神が無償で与えてくださる贈物は、私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。

欲を捨てなさい

こういうわけで、今や、キリスト・イエスを信じている者は、何の罰も受けません。

キリスト・イエスによって救いをもたらす神の霊のはたらきが、罪と死の力から私たちを解放したからです。罪に対する人間の弱さのために神の戒めが完成できなかったことを、神は成してくださいました。すなわち、人の罪を取り除くために御子イエスを罪深い人間と同じ姿でこの世に送り、イエスを罪として処罰されたのです。それは私たちが自分の

欲ではなく神の聖霊に従って歩み、私たちの内に、神の戒めの要求が満たされるためでした。

人間が自分の思いに従って生きるならば、自分が求めることをもっぱら考え、聖霊に従って生きる人は、聖霊が求めることをひたすら考えます。人間の思いに従えば、死と滅びに終わりますが、聖霊に従えばいのちと平安があります。なぜなら、人間の欲求は神に反抗するもので、神の戒めに従わないからです。いや、従うことができないのです。自分の欲求の支配下にある者は、神に喜ばれるはずがありません。

聖霊の導き

神の聖霊があなた方の内に住んでおられるかぎり、あなた方は、欲ではなく聖霊に導かれています。キリストの霊を持たない者は、キリストのものではありません。しかし、キリストがあなた方の内におられるならば、からだは罪のゆえに死んでいても、あなたの霊が、義のゆえにいのちとなっています。もし、イエスを死人の中からよみがえらせた神の

聖霊が、あなた方の内に住んでおられるならば、キリストを死人の中からよみがえらせた方は、あなた方の内にいるその聖霊によって、あなた方の死ぬべき体をも生かしてくださるのです。ですから、兄弟たちよ、自分の欲や考えに従って生きるなら、あなた方は滅びます。しかし、聖霊によって自分の欲や考えを絶つならば、あなた方は生きます。

神の聖霊に導かれる者は皆、神の子なのです。あなた方は、もはやあの恐ろしい罪の奴隷ではなく、神の子としての聖霊を受けたのです。そして聖霊によって私たちは、神を「天のお父さま。父よ！」と呼ぶことができるのです。この聖霊こそは、私たちが神の子どもであることを、証ししてくださいます。もし子どもであれば、世継ぎでもあります。私たちが神の国の世継ぎである以上、キリストとともに光栄をうけるために、その苦難をもともに受けるなら、私たちは、キリストと共同の世継ぎなのです。

希望

私は考えます。現在のいろいろな苦しみは、将来私たちに与えられる栄光に比べると、取るに足りません。

私たちはこのような希望によって救われているのです。希望しているものが見えるのなら、それは真の希望ではありません。現に持っているものを、人はどうしてさらに希望するでしょう。私たちは、目に見えないものを望んでいる以上、忍耐して待ち望まなければなりません。

聖霊も弱い私たちを助けてくださいます。私たちはどう祈ったらよいかわかりませんが、聖霊ご自身が、ことばに表せない切なるうめきをもって、私たちのためにとりなしてくださるのです。人の心を見抜く神は、聖霊の思いが何であるかをよく知っておられます。なぜなら、聖霊は神の御心に従って、私たちのためにとりなしてくださるからです。

将来の栄光

私たちは知っています。神を愛する私たちのために、すべてのことが益となるように、神が万事を働かせることを。私たちは神の御計画に従って招かれたものだからです。神は前もってお選びになった人たちを、御子イエスのかたちと同じ姿にするよう定められました。それは御子が多くの兄弟の長子になられるためです。神はこれら前もって定められた人たちを招き出し、招き出された人たちを更に義とし、義とされた人たちには更に栄光をお与えになりました。

神の愛の絶対

それでは、私たちは何といいましょうか。神が私たちの味方である以上、だれが私たちに敵対できますか。私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを私たちに恵まれないはずがありましょうか。

だれが、神に選ばれた私たちを訴えることができましょう。人を義としてくださるのは神なのです。

だれが、私たちを罪びとと定めることができましょう。死んでよみがえられたキリスト・イエス、神の右にいますキリスト・イエスが、私たちのためにとりなしをしてくださるではありませんか。

だれが、私たちをキリストの愛から引き離すことができましょう。苦難ですか。なやみですか。迫害ですか。飢えですか。裸ですか。危険ですか。剣ですか。

「主よ。私たちは、あなたのために一日中
死に直面し、ほふられる羊のように見られています。」

と書いてあるとおりです。しかし、これらすべてのうちにいても、私たちを愛してくださる方によって、私たちは輝かしい勝利を得ています。私は確信しています。死も、いのちも、天使たちも、主権者たちも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、上にあるものも、下にあるものも、そのほかいかなる被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことは絶対にできないのです！

私たちは忍耐して待ち望まなければなりません。

ローマの信者への手紙　8：25

アザミ　（ゲラサ地方）

ヨセフの家付近の石灰石に這う蔓草　（ナザレ）

あなた方はこの世と妥協したり、世にならってはなりません。
ローマの信者への手紙　12：2

第十三章　主イエスを信じる者へ

使徒たちの手紙より

真の礼拝

兄弟たち、神の憐れみに頼ってあなた方にお願いします。どうぞ、自分のいのちを神に喜ばれる、聖い、生きたいけにえとしてお献げなさい。それこそ、あなたのなすべき真の礼拝です。あなた方はこの世と妥協したり、世にならってはなりません。むしろ、自分の心を入れ替え、新しい自分に変えていただきなさい。そして、何が良いことで神に喜ばれ、また完全なものかを悟り、神の御心は何であるかを知るようになりなさい。

善によって悪に勝ちなさい。

善を行いなさい

愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、正しいことに堅く結び付きなさい。兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬の心をもって互いに相手を優先させなさい。勤勉に励み、霊に燃え、主に仕え、希望のうちに喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。困っている信者を助け、よその人を心暖かくもてなしなさい。あなた方を迫害する者を、祝福しなさい。祝福するのであって、呪ってはなりません。喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい。

悪に勝ちなさい

互いに一つ思いになり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い人々と交わりなさい。「自分を賢いと思うな。」です。だれに対してでも、悪に悪を返さず、人が良いと認めることを尊重しなさい。あなた方は、できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。

愛する人たち、自分で仕返しせずに、神の怒りに任せなさい。こう書いてあります。「『復讐は私のすることである。私が報復する』と主は言われる。」「もしあなたの敵が飢えたなら食べさせ、渇いたなら飲ませなさい。そうすることは、彼の頭に燃える炭火を積むことである。」悪に負けてはいけません。善によって悪に勝ちなさい。

キリストはすべての上

父なる神は、私たちを闇の権力から救い出して、愛する御子イエスの王国の支配の中に移してくださいました。御子によって私たちは、贖いを、すなわち罪の赦しを得ています。御子は、見えない神のかたちであり、すべてのものが造られる前から存在しておられました。御子にあって万物が――天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、見えないもの、王座も、主権も、支配も、権威も、すべて――造られました。すなわち、万物は御子によって、御子のために造られたのです。御子はあらゆるものの先に存在し、あらゆるものは御子によって成り立っています。また、

御子はそのからだである信者たち、すなわち教会のかしらです。御子ははじめであり、死者の中から最初に生まれた方です。それは、すべてにおいて彼が第一の地位に即かれるためです。

キリストの模範

キリスト・イエスのうちにみられたこのことを、あなた方の間でも、心がけてください。キリストは神の身分でありながら、神と等しい者であることを固守しようとは思わず、かえって自分の権利を捨て去り、しもべの身分になって、人間と同じものになられました。へりくだり、人間の性質をもって現れ、死に至るまで従い、実に十字架の死に至るまで、従順でした。それゆえ、神はキリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それはキリストの名のもとに、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、イエスの前にひざをかがめ、すべての口が、「キリスト・イエスこそ主である」と認めて、栄光を父なる神に帰するためです。

「古い自分」を捨てなさい

さて、あなた方は、キリストとともによみがえらされた以上、天のものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右に座しておられます。地上のものに心を向けず、天のものに心を留めなさい。あなた方の古い自分は死んだのであって、あなた方の新しいいのちは、キリストとともに神の内に隠されています。私たちのいのちであるキリストが現れるとき、あなた方も、キリストとともに栄光のうちに現れます。

ですから、自分の内にある地上的なもの、すなわち、淫らな行い、不潔な考え、情欲、悪い欲望、およびむさぼりを捨て去りなさい。むさぼりは偶像に仕えること、すなわち偶像礼拝の罪にほかならない。これらのことのために、神の怒りは下るのです。あなた方も、以前このようなことの中にいたときには、それらを行って日を過ごしていました。しかし、今は、怒りも憤りも悪意も、そしりや、口から出る淫らなことばをすべてやめなさい。互いにうそをついてはいけません。

あなた方は、古い自分をその行いとともに脱ぎ捨て、新しい人を着た

のです。新しい人は、創造主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に達するのです。

そこには、もはや、ギリシャ人とユダヤ人、異邦人、奴隷、自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。

新たな人、家庭

このように、あなた方は神に選ばれ、聖められ、愛されているのですから、深い同情心、親切、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍びあい、不満があっても、赦し合いなさい。主があなた方を赦してくださったように、あなた方も互いに赦し合いなさい。

これらすべての上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結び合わせるきずなです。また、キリストの平和があなた方の心を支配しますように。この平和を持つために、あなた方は招かれて一つ体とされたのです。

感謝の心を持つようにしなさい。また、キリストのことばがあなた方の内に豊かに宿りますように。知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩篇と賛歌と霊的な歌で、心からの感謝を神に向かって歌いなさい。ことばにせよ、行いにせよ、あなた方のすることはすべて主イエスの名によってし、イエスによって、父なる神に感謝しなさい。

妻たちよ、夫に従いなさい。それは主にあって良いことだからです。

夫たちよ、妻を愛しなさい。つらく当たってはいけません。

子たちよ、どんなことでも、両親に従いなさい。それは主に喜ばれることだからです。

見えないものが永遠

気をつけなさい。むなしいだましごとや哲学によって、あなた方はだれにも捕えられないようにしなさい。それらは人間の言い伝えによるもので、世を支配する諸霊力に従っており、キリストに基づくものではありません。キリストにこそ、神の完璧な神性が満ちあふれ、具体的に見

＊肉体　直訳「外なる人」

＊＊体　直訳「幕屋」

える体となり、そして、あなた方もキリストにあって完全なものです。キリストはすべての支配や権威のかしらです。

それゆえ、私たちは気を落としません。私たちの＊肉体は次第に衰えていっても、私たちの「内なる人」は日に日に新しくされています。今のしばらくの軽い艱難は、やがてはかり知れない重さの永遠の栄光を私たちにもたらしてくれます。私たちが目ざすのは見えるものではなく、見えないものです。見えるものは一時的なもので、見えないものは永遠に存続するからです。

天の国へのあこがれ

私たちの地上の住まいであるこの体が＊＊滅びても、神がくださる住まいが天にあることを、私たちは知っています。これは人の手によらない永遠の住まいです。私たちは、天から与えられる住まいを上に着たいと、この地上の体にあってあこがれてうめいているのです。それを着せられたとき、私たちはもはや裸のままではいません。

この体にいる間、私たちは重荷を負い、うめいています。裸のままではないよう、天から与えられる住みかを上に着たいのです。それによって、この死ぬべきものがいのちに呑まれてしまうためです。私たちをこのことへと仕上げてくださったのは神です。そして、神はその保証として、聖霊を与えてくださったのです。

信仰に生きる

こういうわけで、私たちはこの体に住んでいる間、主から離れ住んでいることを知りながらも、つねに心強いのです。目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。私たちは、心強い。そして、むしろこの体を離れて、主のもとに住みたいと思っています。ですから、この体に住もうと、離れ住もうと、ひたすら主に喜ばれる者でありたいのです。なぜなら、私たちは皆、キリストのさばきの座の前に立たなければなりません。それは、私たち一人ひとりが、善であれ悪であれ、体を住まいとしていたときに行ったことに応じて、報いを受けるためです。

キリストのために生きる

私たちは神に対する畏れを知っているので、真理を受け入れるよう、人々に説き勧めます。神は、私たち一人ひとりをありのままに知っています。私も、あなた方にありのままに知られたいと、望んでいます。なぜなら、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。

私たちはこう考えます。ひとりの方がすべての人に代わって死んでくださった以上、すべての人が死んだことになります。その方が、すべての人に代わって死んでくださったのは、生きている私たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちに代わって死んでよみがえってくださった方のために生きるためなのです。

信者はキリストの使者

それで、私たちは、これからはだれをも人間的な見方でみません。以前にキリスト・イエスを人間的な標準で理解していたとしても、今はも

はやそのようにキリストをみません。キリストを信じるなら、だれでも、新しく創造された者です。古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなった。これらはすべて神から出ることです。

神は、キリストをとおして私たちをご自分と和解させられました。更に、他の人もご自分と和解するよう、私たちにその和解の務めをゆだねられました。すなわち、神はキリストによって世をご自分と和解させ、人々に罪の責任を問うことがないという、和解の福音のことばを私たちにゆだねられたのです。それゆえ、私たちはキリストの使者なのです。神は私たちをとおして、勧めをなさるのです。

「どうぞ神と和解してください。神は、罪と何のかかわりもないキリストを、私たちのために罰せられました。それは、私たちがキリストによって、神の義となるためです。」と。

愛は自分の利益を求めません。
コリントの信者への手紙第Ⅰ　13：5

母親の手を握る生後3ヶ月の幼児

第十四章　愛

イエスのことば

ヨハネの福音書より

イエスはかつて、弟子たちに言われた。

「天の父が私を愛されたように、私もあなた方を愛してきました。私の愛にとどまりなさい。私の戒めを守るなら、あなた方は私の愛にとどまります。ちょうど私が父の戒めを守り、その愛にとどまっているように。このことを言うのは、私の喜びがあなた方の内にあって、あなた方の喜びが満ちあふれるためです。

私の戒めはこれです。『私があなた方を愛したように、あなた方も互

いに愛し合いなさい。』友のために自分のいのちを捨てること、これよりも大きな愛はありません。私の命じることを行えば、あなた方は私の友です。」

使徒たちの手紙より

愛

たとえ、私が
人のことば、また天使のことばを語っても、
愛がなければ、
私は、やかましいどら
騒がしいシンバルに過ぎません。

たとえ、私が
宣教をしても、

あらゆる奥義とすべての知識に達していても、
山を移すほどの完全な信仰を持っていても、
愛がなければ、
私は、無に等しい。

たとえ、私が
持っているものすべてを貧しい人々に施しても、
自分の身を*焼かれるために引き渡しても、
愛がなければ、
いっさいは、無益です。

愛は忍耐強い。
愛は情け深い。
また、ねたみません。
愛は自慢せず、
高慢になりません。

*身を焼かれる　殉教を意味する。

礼を失せず、
自分の利益を求めず、
いらだたず、
人の過ちを思いません。
不義を喜ばず、
真理を喜び、
すべてをゆるし、
すべてを信じ、
すべてを望み、
すべてに耐えます。

愛は永遠に

愛は決して絶えません。預言はすたれ、異言はやみ、知識も滅びます。私たちの知っていることは一部分、私たちの預言していることも一部分です。完全なものが来たとき、部分的なものはすたれます。幼子だった

とき、私は幼子のように語り、幼子のように感じ、幼子のように考えていました。しかし、おとなになってからは、幼子のことをやめました。今、私たちは、鏡にぼんやり映るもののようにおぼろにしか見えません。しかし、そのときには、顔と顔とを合わせて見ることになります。今、私は、一部しか知りません。しかし、そのときには、私が神に完全に知られているように、私もはっきり知ることになります。

信仰、希望、愛、この三つは、いつまでも残ります。その中で最も大いなるものは、愛なのです。

愛は神から来る

親愛な兄弟たち、私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者はすべて、神から生まれ、神を知っているからです。愛さない者は神を知りません。神は愛だからです。神は、独り子を世に遣わされ、私たちがこの方によって生きるようにされました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。愛とは、私たちが神を愛したことで

はなく、神が私たちを愛し、私たちの罪の贖いとして御子を遣わされたことです。兄弟たち、神がこれほど私たちを愛してくださったのですから、私たちも互いに愛し合うべきです。神を見た者は、いまだかつて、ひとりもいませんが、私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちの内に宿ってくださり、神の愛が私たちの内に完成されるのです。

私たちが神の内にとどまり、神も私たちの内に宿っていることがわかるのは、神がご自分の聖霊を、私たちに与えてくださったからです。私たちは、天の父が御子を世の救い主として遣わされたことを見て、その証しをしています。

恐れることはない

だれでも、「イエスが神の子である」と言い表すなら、神はその人の内に宿ってくださり、その人も神の内にとどまります。私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。

神は愛です。愛の内に生きる人は、神の内に生きているのであって、

神もその人の内に宿ってくださいます。私たちも、この世ではイエスのように生きているので、愛が私たちの内に完成されています。そのためさばきの日に、私たちは確信を持つことができるのです。愛があれば恐れることはありません。完全な愛は恐れを取り去るからです。なぜなら、恐れは罰に関連するからです。恐れを持つ者には、愛が完成されていません。

私たちは愛します。神がまず私たちを愛してくださったからです。「神を愛している」と口では言いながら兄弟を愛さないなら、その人はうそつきです。現に見える兄弟を愛さない者は、どうして目に見えない神を愛することができましょう。何にせよ、神からの戒めとは、「神を愛する人は兄弟をも愛せよ。」なのです。

キリスト、神の愛

兄弟たち、これらのことを書き送るのは、あなた方が罪を犯さないようになるためです。しかし、もしだれかが罪を犯したならば、天の父の

互いに愛し合いなさい。

もとで弁護してくださる方がおられます。それは、義なるキリスト・イエスです。この方こそ、私たちの罪の贖いです。いや、私たちの罪だけでなく、全人類の罪を取り消すいけにえなのです。

私たちが、神の命令に従うなら、それによって、神を知っていることがわかります。「神を知っている」と言いながら、神の命令に従わない者は、うそつきであって、真理はその人の内にはありません。しかし、神のことばを守る人、実にその人の内に神の愛が完成されます。私たちが神の内にいることは次のことによって分かります。すなわち、「神の内に生きていると言う人は、イエスの生き方と同じく生きなければなりません。」

この世を愛するな

この世も世にあるものも、愛してはなりません。世を愛する人の内には、天の父の愛がありません。なぜなら、すべて世にあるもの、すなわち、肉欲、目の欲、虚栄は、天の父からではなく、世から出るものだからで

す。この世は過ぎ去ります。欲もそうです。しかし、神の御心を行う人は永遠に生き続けます。

この世に打ち勝つ

イエスがメシアであると信じる人は、だれでも、父なる神から生まれた者です。父なる神を愛する人は、だれでも、その方から生まれたほかの信者をも愛します。このことからわかるように、私たちが神を愛し、その命令を守るときはいつも、*イエスを信じる人たちを愛します。神を愛するとは、神の命令に従うことです。そして、その命令は難しいものではありません。なぜなら、**イエスを信じる人は皆、世に打ち勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利なのです。

世に打ち勝つ人はだれですか。イエスが神の御子であると信じる人ではありませんか！

世々の王、不滅であり、目に見えないただひとりの神に、誉れと栄光が永遠にありますように。アーメン。

*イエスを信じる人たち　直訳「神の子ども」

**イエスを信じる人たち　直訳「神から生まれた人」

世の人々が自分の知恵で神を知ることができないのも、
神の知恵によるものです。

コリントの信者への手紙第Ⅰ　1：21

ユダヤ人の宗教学者

第十五章　知恵の泉

*ソロモン王の「箴言」「伝道の書」より

青春

青春の日々に、あなたの創造主を覚えよ。

安らぎ

神に聞き従う人は、安全に生活し、
災いに遭う恐れもなく、
安らかである。

知識

神を畏れることが、知識のはじめである。

*「箴言」の大部分と「伝道の書」はイスラエルのソロモン王（在位紀元前九七一年～前九三二年ころ）によって記されたもの。九五ページに注釈を参照。

教訓

子よ、父の諭しを聞きなさい。
母の教えをなおざりにしてはならない。

神の口

知恵を授けるのは神であり、
悟りは神の口から出る。

信頼

心を尽くして神に信頼せよ、自分の意見に頼るな。
すべての道で神を認めよ、
そうすれば神は、あなたの道を平らにされる。

健康

自分を賢いと思うな、
神を畏れ、悪から離れよ。
それはあなたの体を健康にし、
あなたを元気にする。

懲らし

神の懲らしめをいやがるな。その戒めを受けよ。

幸福

かわいがる子を懲らしめる父のように、
神は愛する者を懲らしめる。

知恵を見いだした人は幸いだ。
それは長寿を与え、
また、富と誉れを与える。
その道は楽しい道であり、
その小道はみな平安である。

明暗

神に従う人の道は、あけぼのの光のようだ。
ますます輝きを増して、真昼にいたる。
神に逆らう人の道は、闇のようだ。
何につまずいても、知ることはない。

油断

油断することなく、自分の心を守れ。
いのちの泉はそこから湧いてくる。

神の目

人の道は神の目の前にあり、
人の行いのすべてに、神は心を配られる。

自業自得

悪者は、自分の罪に捕えられ、
自分の咎に縛られる。
彼は懲らしめがないために死に、
愚かであるために滅びる。

憎悪

神の憎むものが六つ、
いや、心から忌みきらわれるものが七つある。
高慢な目、
うそつきの舌、
正しい人の血を流す手、
悪いことをたくらむ心、
悪事に走る足、

恥

偽りを吹聴する偽証人、
兄弟の間に争いをおこす者。

財宝

姦淫する者は、思慮に欠け、自分自身を滅ぼす。
打撃と恥辱とを受け、その恥は決して消えない。

銀を受けるよりも、神の教えを受けよ。
純金よりも、知識を得よ。
知恵は、真珠よりも尊い。
どんな財宝もこれと比べることはできない。

忠告

高慢な者を忠告しても、あなたを憎むだけだ。
知恵あるものを忠告するなら、あなたを愛する。

聡明

心さとき者は、戒めを受け入れ、
愚かな会話をする人は、滅ぼされる。

愛

憎しみは、争いを引き起こし、
愛はすべてのまちがいをおおう。

命の道

教えを守る人は、いのちの道を行き、
戒めを無視する者は、踏み迷う。

口

口数が多ければ、罪を犯しやすい。
気をつけて話す人は、思慮がある。

謙遜

高慢な人は恥をかき、謙遜な人は知恵を得る。

滅亡

悪人の望みは、その人の死とともに消え失せる。

秘密

悪口を言い歩く者は、秘密をもらし、
誠実な人は、ものごとを秘める。

確実

よい指導がなければ、人は滅び、
助言者が多ければ、安全である。

自分

慈しみ深い人は、自分自身が潤され、
残忍な者は、自分自身が傷つく。

美人

美しいが、思慮のない女は、
金の鼻輪をつけた豚のようだ。

施し

施しても、なお富む人があり、
与えるべきものを惜しんでも、
かえって乏しくなる者がいる。

勧告

愚か者は自分の道を正しいと思う。
知恵ある人は、勧めを聞き入れる。

慰め

軽率に話して、人を剣でさすような者がいる。
知恵ある者のことばは、人をいやす。

ことば

誠実なことばは、いつまでも堅く立ち、
偽りのことばは、一瞬である。

友

知恵者とともに歩む人は、知恵者となり、
愚か者の友になれば、損害をうける。

愛の鞭

むちをあてないのは、自分の子を憎むこと。
子を愛する人は、すぐ懲らしめを加える。

学習

高慢な者は、知恵を求めても、得られない。
悟りのある人は、たやすく知識を得る。

道

自分では正しいと思う道でも、
その終わりが死の道となるものがある。

賢明

わきまえのない者は、すべてのことを信じこみ、
賢い人は、よく考えて行動する。

勤労

一生懸命働けば、必ず良い結果を得る。
しかし、おしゃべりだけでは貧乏をきたらせる。

自制

おこるのにおそい人は、知恵に富み、
気の短いものは、愚かさをあらわす。

寿命

激情は寿命を縮める。

敬愛

身寄りのない人をしいたげることは、創造主を侮ること。
神を敬う人は、不幸な者をあわれむ。

正義

正義は国を高め、
罪は民をはずかしめる。

返答

穏やかな返事は、憤りを静め、
激しいことばは、怒りをかきたてる。

注目

神はすべてを見ておられる。
悪者をも正しい人をも、見張っている。

ことば

良い返事には、喜びがあり、
時宜にかなったことばは、いかにも麗しい。

栄誉

謙遜は、栄誉に先立つ。

定め

人は心に自分の道を思い巡らす。

しかし、その歩みを決定されるのは、神である。

戒め

悟りのある人を、一度叱責する方が、
愚か者を百度むち打つより効き目がある。

沈黙

黙っていれば、愚か者でも、賢いと思われる。

愚者

愚か者は知恵に耳を傾けず、
ただ、自分の意見を言い表して喜んでいる。

慎重

よく聞きもしないで答える人は、
愚かであって、恥をこうむる。

憤り

激しく憤る者は、必ず罰を受ける。
救ってあげようとしても、また憤るだけだ。

誉れ

争いを避けることは、名誉なことである。

偽善

「私は潔白だ。私には罪がない」とだれが言えようか。

本心

自分には、自分の行いが正しいと見える。
しかし、神は心の隠れた動機をはかられる。

賢者

賢い人は、危険を見るとこれを避け、
思慮のない者は、進んで行き、罰を受ける。

教育

子をその行くべき道に正しく教育せよ。
そうすれば、大人になっても、それを離れることがない。

愛の鞭

愚かさは、子どもの心につながれている。
懲らしめのむちが、それを断ち切る。

感化

気の短い者と親しくするな。
すぐ怒る者の仲間になるな。
さもないと、あなたもそれに染まって、失敗する。

酒

不幸な者はだれか。憂いある者はだれか。
争いをする者はだれか。愚痴を言う者はだれか。
わけもなく傷だらけになっているのはだれか。
濁った目をしているのはだれか。
それは、酒に夜をふかす者、
混ぜ合わせた酒を味わう者である。

知恵

知恵ある者は、力ある者より強い。

再起

神に従う人は、何度たおれても立ちあがる。
悪者は災難に遭えばつまずく。

復讐

「自分にされたとおりの仕返しをしてやろう」と思ってはならない。

説得

根気強く説けば、指導者も説得される。
やさしいことばは骨をも砕く。

遠慮

友人の家であっても、あまりひんぱんに通うな、飽きられ、嫌われることのないように。

同調

愚か者には、その愚かさにのって答えるな。
自分も、同じようにならないために。

反復

犬が、自分の吐いたものにもどるように、
愚か者は、愚かなことをくり返す。

怠け者

怠け者は、聡明な答えをする七人の人よりも、

自分を賢いと思っている。

干渉

自分に関係のない争いに口を出すことは、
通りすがりの犬の尾を、つかむようなものだ。

卑怯

友人をだましておいて、
「あれは冗談だよ。」と言う人は、
死と火の矢を投げつける、気が狂った人のようだ。

偽り

偽りをいう者は、自分が傷つけた人を憎み、
人にへつらう者は、破壊を招く。

自賛

自分自身をほめるな。
それは他人に任せよ。

嫉妬

人の憤りは、むごく、

怒りは洪水のようだ。
しかし、嫉妬心には、だれが対抗できよう。

嚆天下

長雨の日にしたたり続ける雨もりは、
主人に不平を言い、諍いをする妻に似ている。

友

鉄は鉄をとぐ、
人はその友によってとがれる。

無限

地獄と滅びは飽くことがなく、
人の欲望も飽くことがない。

試練

金や銀は、火で精錬される。
人は、他人の称賛にどう反応するかで、試される。

勇気

悪人は、追手がなくても逃げるが、

正しい人は、獅子のように勇ましい。

悔い改め
罪を隠す者は、栄えない。
素直に認め、それを捨てる人は、あわれみを受ける。

忠告
最後に感謝されるのは、
お世辞を言う者ではなく、忠告をする人である。

頑固
しばしば叱られても、心の強情な者は、
たちまち捨てられて、助かることがない。

放任
むちと戒めとは知恵を与える。
わがままにさせた子は、その母の恥となる。

高慢
高慢になれば、低くされ、
心の低い人は、誉れを受ける。

平安

人を恐れるとわなにかかる。
神に信頼する人は、安らかである。

協力

一人でいるより、二人でいるほうがよい。
心を合わせて働けば、その報いは良い。
ひとりが倒れれば、もうひとりが助け起こす。
三本縒りの綱は、切れにくい。

欲望

金銭を愛する者は、金銭で満足しない。
富を求める者は、富を得ても満足しない。

悲しみ

祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。
なぜなら、死はすべての人の終わりであり、
生きている者は、それを心にとめる。
悲しみは笑いにまさる。

悲しみによって、心は良くなる。

笑い

知恵ある人の戒めを聞くのは、
愚かな者の歌を聞くのにまさる。
愚かな者の笑いは、
かまの下に燃えるいばらの音のようだ。

女の罠

死よりも苦々しいものは、女のわな。
彼女の心は網、その腕は鎖だ。
神に喜ばれている人は、そのわなにかからないが、
罪びとは、彼女に捕えられる。

現世

悪いことをしても、
それに対する判決がすぐに下されないため、
人々は、平気で悪を行おうとしている。

儚い

悪人は、神を畏れないから平安がない。
そのいのちは影のようで、長く続かない。

無

知恵は武器にまさる。
しかし、ひとりの罪びとは、多くのよいことを滅ぼす。

水の泡

死んだハエの一匹は、つぼの香油を腐らせる。
少しの愚かさは、大きな栄誉と知恵を傷つける。

空の空

この世でした自分の労苦と、
思い煩いは、自分に何を残すのだろう。
人の一生は悲しみであり、
その仕事には悩みがあり、
その心は夜の間も休まらない。
これもまた、実にむなしい。

終極

結論はこれだ。
「神を畏れ、神の命令に従いなさい。」
これこそ、すべての人に適合するからだ。
神は、善であれ悪であれ、
人の隠れた行いも、すべて、
さばかれるからである。

ナザレ村の少女

神のみことばに心を留める人は幸福を見つける。
箴言　16:20

第十六章　詩と祈り

*ダビデ王の「詩篇」より

人の道（詩篇　一）

幸いなことよ。
悪者の集まりに行かず、
罪びとの道に立たず、
高慢な者の席に座らぬ、その人は。
幸いなことよ。
その人は、神の教えを愛し、
昼も夜もそれを思う。

＊百五十篇からなる「詩篇」のほとんどは、ダビデ王（在位紀元前一〇一〇年～九七一年ころ）によって記された。これらは昔からユダヤ人やキリスト信者によって、神への祈りや賛美として歌われ、イエスご自身も読まれた。ここにあるのはそのうちの十篇。四六ページの注釈を参照。

その人は、
流れのほとりに植えられた木のよう。
季節が来れば実を結び、
葉も枯れることはない。
その人のすることはすべて、栄える。

神に逆らう者は、
そうではない。
彼らは、風が吹き去る
もみがらのようだ。
悪者はさばきに、
罪びとは正しい人の集いに、
耐えられない。
まことに、神は、正しい人の道を守られる。
しかし、悪人の道は滅び失せる。

神を思う（詩篇　一一五）

主よ、
私たちにではなく、私たちにではなく、
あなたの御名に栄光を帰させてください。
それは、あなたの愛と、あなたの真理のゆえです。

なぜ国々は言うのでしょう。
「彼らの神はどこにいるのだ」と。
私たちの神は天におられ、
御心のままにすべてを行われます。
国々の偶像は金銀にすぎず、
人の手が造ったもの。
口があっても、話すことができず、
目があっても、見ることができず、
耳があっても、聞くことができず、

鼻があっても、嗅ぐことができず、
手があっても、触ることができず、
足があっても、歩くことができず、
喉があっても、声を出すことができない。
偶像を造る者も、
偶像に信頼する者も皆、これと同じようになります。

神を恐れる者よ、神に信頼しなさい。
神は、あなたの助け、あなたの盾。
神は私たちを覚え、
私たちを祝福してくださいます。
偉大な者も、小さき者も。
どうか、神があなたを強められますように。
あなたと、そして子どもたちをも。
天地の創造主、神が、
あなたたちを祝福してくださいますように。

天は、神の天。
地は、神が人に与えられた。
神を賛美するのは、死者ではない。
沈黙へ去った死人ではない。
生きる私たちこそ、
神を賛美する。
神をほめたたえよ。
今より永遠に。

神のわざ、神のことば（詩篇 一九）

天は、神の栄光を物語り、
大空は、御手のわざを示している。
その日その日に語り伝え、
夜から夜へと知識を送る。
音もことばもなく
静まり返っているのに、
そのお告げは全地に行きわたり、
その教えは地の果てまで届く。

神はそこに、太陽のために住みかを設けられた。
太陽は、部屋から出て来る花婿のようだ。
勇士のように、その走路を喜び走る。
天の果てから昇り、
天の果てにまで、巡って行く。

その熱から隠れるものはない。

神のことばは完全で、人を生かす。
神の教えは真理で、無知な人に知恵を与える。
神の命令は正しく、心に喜びを与える。
神の戒めは聖く、人の目を開ける。
神への畏れは清らかで、とこしえに続き、
神のさばきは真実で、すべて正しい。
それらは、黄金よりも尊く、
どんな純金にもまさる。
それらは、蜜よりも、
蜜蜂の巣のしたたりよりも、甘い。
それらによって、神よ、
あなたのしもべは教えを受け、
それらを守れば、
私たちに大きな報いがあるでしょう。

知らずに犯した過ち、私の隠れた罪を、
どうか、神よ、お赦しください。
あなたのしもべが、
あなたに対してかたくなにならぬよう、
守ってください。
それらの罪が、私を支配しませんように。
そうすれば、私は罪なき者となり、
背きの罪を免れましょう。
どうか、私の語ることばと、心の思いとが、
あなたの御前に喜ばれるものとなりますように。
主よ、私の岩、私の救い主よ！

私の牧者（詩篇 二三）

主は私の牧者。
私には、乏しいことがありません。

主は私を、緑の牧場に休ませ、
憩いの水のほとりに連れて行きます。
主は、私の魂に、いのちを与え、
御名のゆえに、私を正しい道に導かれます。
死の陰の谷を行くときも、
私は災いを恐れません。
あなたが、私といっしょにおられますから。
あなたの鞭、あなたの杖、
それが私を慰めます。
敵の前で、あなたは
私のために祝宴を設けてくださいます。
あなたは、私の頭に香油を注いでくださいました。
私の杯は、あふれています。
まことに、私のいのちの日の限り、
恵みと慈しみが私を追って来るでしょう。
私は、永遠に主の家に住むのです。

悔い改めの祈り（詩篇　五一）

神さま、あなたの慈悲によって、
私をあわれみ、
あなたの深い憐れみをもって
私の咎をぬぐい去ってください。
私の不義をすべて洗い、
私の罪を清めてください。
私は、自分の罪を知っています。
私の罪は、いつも私の前にあります。
あなたに、ただあなたに、私は罪を犯し、
あなたの前に、悪い事を行いました。
それゆえ、
あなたが宣告される時、その宣告は正しく、
あなたがさばかれる時、そのさばきに誤りはありません。

ああ、私は生まれながらの罪びとで、
母の胎内にいるときから、罪を持っておりました。
ああ、あなたは、心の奥底の真実を求められます。
どうか、その知恵を私に悟らせてください。
私に、罪を清める血を振りかけてください。
そうすれば、私は清くなるでしょう。
私を洗ってください。
そうすれば、雪よりも白くなるでしょう。
どうか、楽しみと喜びを聞かせてください。
あなたが砕かれたこの骨を、
どうか、喜ばせてください。
御顔を私の罪から隠し、
私の罪をことごとく、消し去ってください。

神さま、私の内に清い心を造り、
新しく、ゆるがない霊を私にお与えください。

どうか、御前から私を捨てず、
あなたの聖霊を、私から取り去らないでください。
どうか、あなたの救いの喜びを、私に返し、
喜んで従う心が、私をささえますように。
そうすれば、あなたに背いている者に、
あなたの道を教えることができます。
そして、罪びとはあなたのもとに、
帰ってくるでしょう。
神よ。主よ。私の救いの神よ。

あけぼのの賛歌（詩篇　一〇三）

私の心よ、主をほめたたえよ。
私の内なるすべてよ、その聖なる御名をほめたたえよ。
私の魂よ、主をほめよ。
そのすべての恵みを忘れるな。
主は、
私のすべての咎をゆるし、
私のすべての病いをいやし、
私の命を地獄から贖い、
愛と情けとで私を包み、
私の一生をよいもので満たしてくださる。
こうして私の若さは、鷲のようによみがえる。

主は、すべて虐げられている人のために、
正義と公正とを行われる。

主は、憐れみ深く、情け深い、
怒るのにおそく、その愛は大きい。
主は、私たちをいつも責められず、
いつまでも怒りをのこされない。
主は、私たちの罪に応じて、扱うことはなく、
私たちの悪に応じて、報いることもしない。
天が、地よりはるか高いように、
神を畏れる者に対する主の慈愛は、はかり知れない。
東が西から遠いように、
神は、私たちの罪を、遠く引き離された。
父が子を憐れむように、
主は、ご自分を畏れる人を憐れんでくださる。
主は、私たち人間がどのようなものであるかをご存じであり、
私たちが塵にすぎないことを、心に留めておられる。

人の生涯は、草のよう、

その栄えは、野の花のよう。
風がその上を過ぎると、失せて跡なく、
生えていた場所すら、だれも知らない。
しかし、主の慈愛は、世々とこしえに、
主を畏れる人とともにあり、
主の正義は、子孫にまで続き、
主の契約を守る者、
その命令を心に留めて行う人に及ぶ。

主は、その御座を天に堅く立て、
その王国は、すべてを支配する。
天使たちよ、主をほめたたえよ。
御ことばに従い、
その命令を行う勇士たちよ、
主をほめたたえよ。
天の軍勢よ、主をほめたたえよ。

御心を行うしもべたちよ、
主をほめたたえよ。
主に造られたものたちよ、
すべての所で、主をほめたたえよ。
私の魂よ、主をほめたたえよ！

御ことばを慕う（詩篇　一一九より）

いかに幸いなことでしょう。
正しいと見なされた人々、
主の御教えによって歩む人々。
いかに幸いなことでしょう。
主の命令を守る人々、
心から主を求める人々。
このような人は不正を行わず、
主の道を歩みます。

主よ、あなたは、忠実に守るようにと、
戒めを与えられました。
どうか、私があなたのことばを守れるように、
私の歩みを確実にしてください。
そうすれば、あなたのすべての命令を思うとき、
私は恥じ入ることがないでしょう。
あなたの正しいさばきを学ぶとき、
私は正直な心で、あなたに感謝します。
主よ、私はあなたのことばに従います。
どうか私を、お見捨てにならないでください。

若い人の祈り（詩篇　一一九より）

どのようにして、若い者は自分を
清く保てるでしょうか。
あなたのことばに従って、
そのとおりに歩むほかにありません。
私は、心をつくして、あなたを求めます。
どうか、あなたの教えから
迷い出ることがないようにしてください。
私は、御ことばを、心に納めています。
あなたに背いて、罪を犯さないように。
主よ。あなたをほめたたえます。
どうか、あなたの定めを教えてください。
私はこの口で、あなたの教えを
ひとつひとつ語り告げます。
私は、この世のどんな宝よりも、

あなたの証しの道を喜んでいます。
主よ、私は、
あなたの命令を思い、
あなたの道を考え、
あなたの定めを喜び、
あなたのことばを忘れません。

全知全能の神（詩篇　一三九）

主よ、あなたは私を探り、
私をことごとく知っておられます。
あなたこそは私の立ち居ふるまいのすべてを
見ておられ、
私の思いを、遠くから見通されます。
私の歩みと、私の伏すのを見守り、
私の歩みのすべてを、知っておられます。

主よ、私がまだ一言も語らないうちに、
あなたは、私のことばのすべてを知っておられます。
後ろから、前から、あなたは私を包み、
私の上に御手を置かれます。
このような知識はあまりにも不思議で、高遠で、
私を超えたものです。
思いも及びません。
私は、あなたを離れて、どこへ行けましょう。
あなたの前から、どこへ逃れましょう。
たとえ、私が天に上っても、あなたはそこにおられ、
死人の世界に伏しても、
あなたはそこにおられます。
私が、日の出の方へ飛んで行っても、
西の海の果てに住むとしても、
あなたの御手はそこにあり、私を導き、
あなたの右手は、私をささえます。

たとえ私が、
「おお、闇よ。私をおおえ。
私を囲む光よ。夜となれ。」と言っても、
あなたにとっては、闇は暗くなく、
夜も昼のように明るいのです。
暗闇も光も同じことです。
あなたは、私の内臓をつくり、
母の胎内に、私を組み立てられました。
あなたは恐るべき驚異の方。
ゆえに、私はあなたをほめたたえます。
あなたの御わざは、神妙。
ああ、心から、私はあなたを信じます。
私が母の胎内で形成され、
骨が組み立てられたとき、
あなたは見ておられました。
あなたの目は、胎児の私を見られました。

私のためにつくられた日々が、
まだ一日もなかったとき、
それはすべてあなたの書に記されました。

主よ、あなたの思いは
なんと尊いことでしょう。
その全体はなんと広大なことでしょう。
それを計ろうとしても、
浜の砂よりも多いのです。
私が目覚めるとき、
私はなおも、あなたのところにいます。
ああ、主よ、どうか悪人を打ち滅ぼしてください。
悪者よ、私から離れて行け！
主よ。彼らはたくらみをもってあなたを唱え、
むなしくあなたに祈ろうとします。
主よ。

私は、あなたを憎む者たちを憎まないでしょうか。
私は、あなたに立ち向かう者を
忌み嫌わないでしょうか。
私は憎しみの限りを尽くして彼らを憎みます。
彼らを私の敵と考えます。

主よ。どうか私を探り、
私の思いを知ってください。
私を試し、私の心の秘密を知ってください。
私の内に誤ったところがあるかを見、
私をとこしえの道に導いてください。

王なる神への賛美（詩篇 一四五）

私の神よ、王よ。
私はあなたをあがめ、
世々限りなく、ほめたたえます。
私は日ごとに、あなたを賛美し、
御名をとこしえにたたえます。
主よ。あなたは偉大な方、大いに尊ぶべき方。
あなたの偉大さは、はかり知れない。
この代は、次の代へと、あなたの光栄を歌い、
あなたの御わざを語ります。
あなたの威厳、光栄、輝きを告げ、
あなたの不思議を思います。
人は、あなたの恐るべき御わざの力を伝え、
私は、あなたの偉大さを宣べます。
人は、あなたの大いなる慈愛の思い出を語り、

あなたの正義を歌います。
主は、情け深く、憐れみ深く、
怒るにおそく、愛に満ちておられます。
主は、すべてを慈しみ、
その憐れみは、すべての御わざの上にあります。

主よ。造られたものはすべて、
あなたに感謝し、
信じる人は、あなたをほめたたえます。
彼らは天の御国の光栄を語り、
あなたの大いなる力を語るでしょう。
あなたの御わざと光栄をすべての人に知らせ、
御国の光栄の輝きを示すでしょう。
主よ、あなたの御国は永遠の国、
あなたの統治は、代々限りなく続きます。

主よ、あなたは倒れる者を一人ひとりささえ、
よろめく人を立たせられます。
主よ、すべての目は、あなたを待ち望み、
あなたはときにかなって糧をくださいます。
あなたは、御手を開き、
すべて生きるものの願いを満たされます。

主の道はすべて正しく、
その御わざはすべて恵み深い。
主を祈り求める人に、
真心をもって呼び求める人すべてに、
主は近いのです。
主は、ご自分を畏れる人々の望みをかなえ、
彼らの叫びを聞いて、救われます。
だれでも主を愛する人を、主は守られ、

主に逆らう者をすべて滅ぼされます。
私の口は主を賛美します。
すべての人が、
主の聖なる御名を、
ほめたたえますように。
世々とこしえに！

神よ、私に罪を清める血を振りかけてください。
　そうすれば、私は清くなるでしょう。
私を洗ってください。
　そうすれば、雪よりも白くなるでしょう。

詩篇　51：7

聖書について

聖書は、旧約聖書と新約聖書から成り立っています。旧約、新約の「約」は「契約」の「約」で、神が人間を救ってくださるという約束を意味しています。

神の救いの契約とは、イエス・キリストの十字架上の死による救い、また、その救いによる天の御国の相続、という約束です。キリスト信者は、約二千年前に生まれた神の子イエス・キリストが、罪深い人間が受けねばならない刑罰を身代りに受け、十字架上で死なれたことによって、人類の罪が永遠に取り除かれたと信じます。つまり、私たち人間の罪が赦され、神から永遠のいのちを与えられるという神の契約の福音を信じているのです。この契約の福音が聖書全体の中心です。そして、キリスト以前に書かれた「契約の書」が「旧約聖書」、キリスト以後に書かれたものが「新約聖書」と呼ばれています。

旧約聖書は、ユダヤ民族を中心に、紀元前一五〇〇年代～前四〇〇年代の間にまたがり、数多くの人々によって書かれ、歴史の書、律法の書、預言の書、詩や歌など、合わせて三十九の書によって成り立っています。その中で、キリストと神の新しい御国が、繰り返して預言という形で語

られているのです。

それに対して、新約聖書は、これらのキリストについての預言がいかに成就したかを、事実をもって説明し、その救いについて教えています。その内容は紀元三〇年代～九〇年代までの間に、おもにイエスの弟子たちによって書かれ、キリストの生涯を記した四つの福音書からはじまり、二十一通の手紙など、合計二十七の書から成っています。

なお、ユダヤ人は旧約聖書のみを「律法」とか「預言」と称し、「神のことば」、「聖書」と見なしてきましたが、キリスト信者は、旧約聖書、新約聖書すべてを「神のことば」と信じています。

「聖書のことばは、どれも、
自分勝手に解釈してはならない。」

ペテロの手紙第Ⅱ　一・二〇

聖書との対照（本書は、聖書の次の箇所をまとめました。）

第一章

創世記
- 一・全章
- 二・一～九
- 〃　一五～一七
- 三・一～六
- 〃　八～一三
- 〃　一六～二一

第二章

創世記
- 六・一、五～二二
- 七・一、四
- 〃　七～一二
- 〃　一七～二一
- 〃　二三、二四
- 八・全章
- 九・一～一二
- 〃　九～一六

第三章

イザヤ書
- 一・一～六
- 〃　一六～一九
- 四三・二五
- 五・一一、一二
- 〃　一九～二三

イザヤ書
- 三・一六
- 〃　一八～二四
- 一一・一
- 五・二四、一四
- 六六・二四
- 四〇・二一～二六
- 〃　二八、二九
- 四四・九～一三
- 〃　一五～二〇
- 四五・五～七、一二
- 五一・四～八
- 〃　一二、一三
- 三五・三、四
- 〃　一、二
- 二六・一九
- 三五・五～一〇

第四章

イザヤ書
- 四二・一～七
- 〃　一四
- 九・六、七
- 一一・二～五、九
- 五二・一三～一五
- 五三・全章
- 四九・七

イザヤ書
- 五五・一～三
- 〃　六、七
- ダニエル書
- 七・一、九
- 〃　一〇、一三
- 〃　二七
- 一二・二、三
- 〃　二五～二七
- ゼカリヤ書
- 九・九、一〇
- 〃　一六、一七
- 一三・一、二
- サムエル記Ⅱ
- 二三・二～五
- 七・一二～一四
- 詩篇
- 八九・二一～二四
- 〃　二六
- マラキ
- 三・一、二
- 〃　五～七
- 〃　一四～一八
- 四・一～三

第五章

ヨハネ書
- 一・一～五
- 〃　九～一二
- 〃　一四
- マルコ書
- 一・一
- ルカ書
- 一・二六～三五

ルカ書
- 一・三七、三八
- マタイ書
- 一一・一八～二五
- ルカ書
- 二・一～二〇
- マタイ書
- 二・全章
- ルカ書
- 二・四〇～五二
- マタイ書
- 三・二三
- 〃　一、二
- 〃　五～六
- ヨハネ書
- 一・一九～二〇
- マタイ書
- 三・一一
- ヨハネ書
- 一・二九、三〇
- マタイ書
- 三・三四
- 〃　一三～一七
- ヨハネ書
- 四・一～一一
- 〃　一七
- ルカ書
- 一・三五～五一
- マタイ書
- 四・一四、一五
- ルカ書
- 四・一八～二五
- マタイ書
- 五・一～一二
- ルカ書
- 六・二四～三六
- マタイ書
- 五・一三～一六
- 〃　一五
- 六・一九～二一
- 〃　二四～三四
- 七・七～二九

第六章

マタイ書 八・一～三
マルコ書 二・一～一二
〃 三・七～一〇
〃 ・二〇、二一
〃 ・三一～三五
〃 四・三五～四一
〃 六・五三～五六
〃 ・三四
〃 五・二一～四三
ヨハネ書 五・二四、二五
〃 ・二八、二九
マタイ書 一三・四〇～五〇
マルコ書 一〇・一七～三四
ルカ書 一八・三四
マタイ書 一〇・一
〃 ・一六～二三
〃 ・二八～四二
ルカ書 九・一八～二五
マルコ書 一〇・一三～一六
〃 ・四六～五二
ヨハネ書 三・一～一二
〃 ・一六～二八
〃 ・三〇～三六

第七章

マルコ書 七・一～八
〃 ・一四～二三
マタイ書 二三・一～一五
〃 ・二五～二八
〃 ・三三、三四
〃 二二・一五
〃 ・三五～四〇

ルカ書 一二・一、二
マタイ書 一二・一四～二一
ルカ書 一六・一九～三一
〃 一八・九～一四
マタイ書 一八・一～六
ヨハネ書 七・二～一七
〃 一二・四四～五〇
〃 七・二五～二九
〃 ・三一
〃 ・四〇～四三
〃 ・三二、三〇
〃 ・四五～五二
マタイ書 二四・一～一四
マルコ書 一三・一九～二七
〃 ・三一～三三
マタイ書 二四・三七～三九
〃 二五・三一～四六
ヨハネ書 一一・一～三、七
〃 ・一七～四八
〃 一一・五五～五七
〃 一二・一～二
〃 ・九～一九
ルカ書 二二・二～六
ヨハネ書 一二・三七～四三

第八章

マルコ書 一四・一二～一七
ヨハネ書 一三・一
マルコ書 一四・一八～二一
ヨハネ書 一三・三〇
マルコ書 一四・二二、二三
ヨハネ書 一四・一～六
〃 ・八～一〇
〃 ・一六～一八

ヨハネ書 一四・二六
〃 ・二三、二四
〃 一六・一二、一三
〃 七・七
〃 一五・一八～二五
マルコ書 一四・二六～三一
ヨハネ書 一八・一～三
ルカ書 二二・四七、四八
マタイ書 二六・五一～五四
ルカ書 二二・五一
マタイ書 二六・五五～七四
ルカ書 二二・六一、六二
マタイ書 二七・一、二
ヨハネ書 一八・二九～三一
〃 ・三三～三八
〃 一九・一～四
マタイ書 二七・一九
ヨハネ書 一九・五～一五
マタイ書 二七・一八、二四
〃 ・二五
ヨハネ書 一九・一六、一七
〃 ・一八の半分
マタイ書 二七・三八
ヨハネ書 一九・一九～二二
ルカ書 二三・三四
マルコ書 一五・二九～三二
ルカ書 二三・三六、三七
〃 ・三九～四三
マタイ書 二七・四五～四七
ヨハネ書 一九・三〇
マタイ書 二七・五一
〃 ・五四～五六
マルコ書 一五・四二～四七
マタイ書 二七・六二～六六

第九章

マタイ書 二八・一～七
ルカ書 二四・五～八
マタイ書 二八・八～一〇
ルカ書 二四・九、一一、一二
マタイ書 二八・一一～一五
ルカ書 二四・一三～四八
マタイ書 二八・一八～二〇
ヨハネ書 二〇・二一、二二、二三
〃 ・二四～二九
使徒行書 一・三
マルコ書 一六・一五、一六
ルカ書 二四・五〇
使徒行書 一・九～一二
マルコ書 一六・二〇
ヨハネ書 二〇・三〇、三一

第十章

黙示録 一・一～三
〃 ・五～一九
〃 二・七、一一
〃 三・五、一四
〃 ・一七～二二
〃 四・一～六
〃 ・一〇～一一
〃 六・一二～一七
〃 七・九～一七
〃 八・二、六～一三
〃 九・一～六
〃 ・一二～二一
〃 一〇・五～七
〃 一一・一五～一八
〃 二〇・一一～一五

黙示録 二一・一〜一二
〃 二一・二一〜二七
〃 二二・全章

第十一章

ペテロII 三・一〜一五
テサロニケI 四・一三〜一八
〃 五・一〜三
テサロニケII 一・六〜九
〃 二・一〜一二
テサロニケI 五・四〜六
ピリピ 三・二〇、二一
コリントI 一五・三五〜四四
〃 一五・五〇〜五五
〃 一五・五七、五八
ユダ 一・一七〜一九
〃 一三〜一六
〃 二〇、二一
テモテII 三・一〜五、七
〃 一〇〜一四

第十二章

ローマ 一・一六、一七
コリントI 一・一八〜二五
ローマ 一・一八〜三二
〃 二・一〜一
〃 三・一〇〜一八
〃 二二〜二五
〃 四・二四〜二五
〃 五・一、二
〃 六・一〜一一
〃 六・二三
〃 八・一〜一一
〃 八・一三〜一八

ローマ 八・二四〜三九

第十三章

ローマ 一二・一、二
〃 九・二一
コロサイ 一・一三〜一八
ピリピ 二・五〜一一
コロサイ 三・一二〜二〇
〃 二・八〜一〇
コリントII 四・六〜一八
〃 五・一〜一〇
〃 一四〜二一

第十四章

ヨハネ書 一五・九〜一四
コリントI 一三・全章
ヨハネI 四・七〜二一
〃 二・一〜六
〃 三・一五〜一七
〃 五・一〜五
〃 一・一七
テモテI 一五・九〜一四

第十五章

伝道書 一二・一
箴言 一・三、七、八
〃 二・六
〃 三・五〜八
〃 一・一〜一三
〃 一・一七
〃 四・八、一九
〃 四・二三
〃 五・二一〜二三
〃 六・一六〜一九
〃 三二〜三三

箴言 八・一〇、一一
〃 九・八
〃 一〇・八、一二
〃 一・七、一九
〃 一一・二、七
〃 一三、一四
〃 一七、二二
〃 二四
〃 一二・一五、一八
〃 一三・二〇、二四
〃 一四・六、一二
〃 一五、二三
〃 二九、三〇
〃 三一、三四
〃 一五・一、三
〃 二三、三三
〃 一六・九
〃 一七・一〇、二八
〃 一八・二、一三
〃 一九・一九
〃 二〇・三、九
〃 二一・二
〃 二二・三、六、一五
〃 二四、二五
〃 二三・二九、三〇
〃 二四・五、一六
〃 二九
〃 二五・一五、一七
〃 二六・四、一一
〃 一六〜一九
〃 二八
〃 二七・二、四
〃 一五、一七

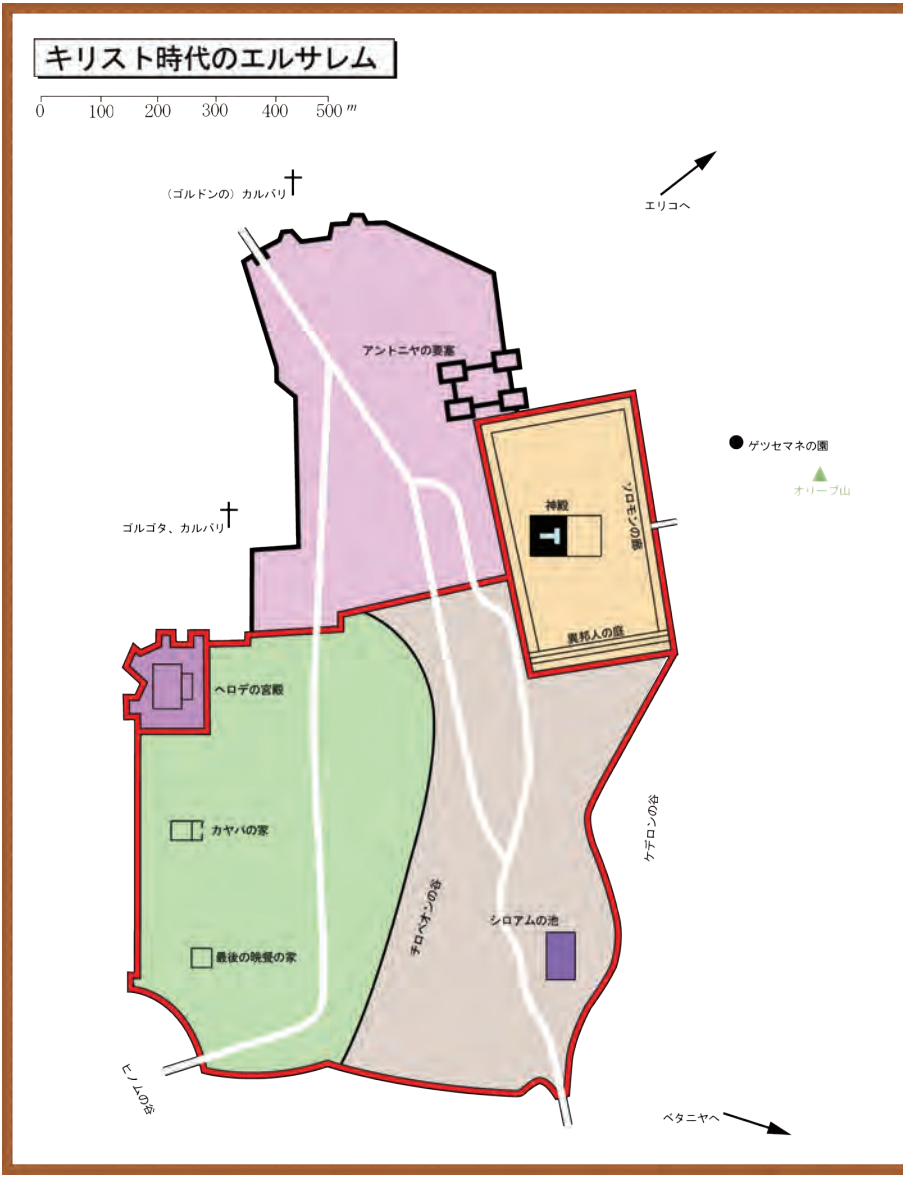
箴言 二七・二〇、二一
〃 二八・一、一三
〃 二三
〃 二九・一、一五
〃 二三、二五
伝道書 四・九、一〇
〃 一二
〃 五・一〇
〃 七・三、五、六
〃 二六
〃 八・一一、一三
〃 九・一八
〃 一〇・一
〃 二・二二、二三
〃 一二・一三、一四

第十六章

詩篇 第一篇 全篇
〃 第一一五篇 一三〜一八、一一
〃 第一九篇 全篇
〃 第二三篇 全篇
〃 第五一篇 一〜一四
〃 第一〇三篇 全篇
〃 第一一九篇 一〜八、九〜一六
〃 第一三九篇 全篇
〃 第一四五篇 全篇

主の日は盗人のように襲って来ます。
…ですから私たちは
聖い信心深い生活を送らなければなりません。
ペテロの手紙第Ⅱ　3：11

キリスト時代のイスラエル地域
0 10 20 30 40 50 km
シドン
フェニキヤ
シリヤ
ヘルモン山
ツロ
ピリポ・カイザリヤ
ガラテヤ
ピリポの四分領
コラジン
カペナウム
ベツサイダ
トレマイ
カナ
マグダラ
ゲルゲサ
大海（地中海）
カルメル山
ナザレ
テベリヤ
ガリラヤ湖
タボル山
ガダラ
ナイン
ベテアバラ
カイザリヤ
サマリヤ
デカポリス
サマリヤ
アンテパトリス
シェケム
ヨルダン川
ヨッパ
ペレヤ
アリマタヤ
フィラデルフィヤ
ベテル
エマオ
ラマ
エリコ
エルサレム
ベタニヤ
アシュドデ
オリーブ山
ベツレヘム
ユダヤ
ガザ
塩の海（死海）
ユタ
ベエル・シェバ


キリスト時代のエルサレム
0
100
200
300
400
500 m
（ゴルドンの）カルバリ
エリコへ
アントニヤの要塞
ゲツセマネの園
オリーブ山
ソロモンの廊
神殿
ゴルゴタ、カルバリ
異邦人の庭
ヘロデの宮殿
カヤパの家
ケデロンの谷
ヒノムの谷
ヒロペオンの谷
シロアムの池
最後の晩餐の家
ベタニヤへ

主を祈り求める人に、
真心をもって呼び求めるすべての人に、
主は近いのです。

詩篇145篇18節

コンサイス バイブル

THE CONCISE BIBLE 福音

発行　聖書配布協力会
〒981-2153　宮城県伊具郡丸森町郵便局私書箱第3号

昭和 52 年 12 月 15 日 初版印刷発行
昭和 60 年 6 月 15 日　第 6 版発行
昭和 63 年 10 月 1 日　改訂版発行
平成 14 年 3 月 1 日　　第 12 版発行
平成 16 年 7 月 1 日　　第 13 版発行
平成 19 年 2 月 1 日　　第 14 版発行
平成 20 年 7 月 1 日　　第 15 版発行